令和６年　第７回教育委員会定例会議　会議録（第１回）

１　日　時　　令和６年７月３１日（水）
　　開会　　１４時１５分
　　閉会　　１７時２５分

２　会　場　金沢市役所　第二本庁舎　２階　２２０２会議室

３　出席委員（６名）

教育委員長	野口　弘
教育委員	田邊俊治
〃	大島淳光
〃	木村陽子
〃	長澤裕子
〃	櫻吉啓介

４　欠席委員（１名）

教育委員	丸山章子

事務局	教育次長	堀場喜一郎
	担当次長（兼）学校指導課長	貞廣賢了
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	小川隆庸
	学校指導課主席指導主事	古川雄次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

委員長	松原道男
副委員長	伊藤伸也

教科用図書調査委員

５　案　件
非　　議案第３１号　令和７年度使用中学校教科用図書の採択について　　（学校指導課）

６　議事の経過等　　以下のとおり
議案第３１号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、音楽一般、音楽器楽、地理、地図について採択を行った。

［案件の説明及び諸報告について］
案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

［主な質疑・応答の内容について］
○ 議案第３１号 令和７年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）
（説明の概要）　本日は令和６年度金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長の松原道男様、副委員長の伊藤伸也様が出席されている。また、種目ごとの調査委員長も控えている。
本日の委員会に至る経緯について報告する。５月２４日の第１回選定委員会を受け、５月２７

日に第１回調査委員会を開催した。調査委員は教科書を持ち帰り、調査研究を進めた。約４週間の調査研究期間を経て、６月２４日、２５日に第２回調査委員会を開催し、調査研究の結果を資料Ａの調査研究報告書Ａ－１、Ａ－２としてまとめた。また、金沢市中学校２４校１分校にもそれぞれ研究委員会を立ち上げ調査した。その調査研究の結果をまとめたものが資料Ｂの調査研究報告書である。

各中学校の調査研究のため、市民・保護者に教科書を見ていただく教科書展示会を開催した。金沢市教育プラザ富樫において６月７日から２４日までの１８日間、常設展示を行うとともに、金沢市立中学校の２４校１分校においては６月６日から２１日まで、各校３日間ずつ移動展示を行った。これらの展示会において、広く市民・保護者に閲覧していただくとともに、意見箱を設置し、意見を寄せていただいた。なお、石川県では６月１４～２７日を教科書展示期間とし、金沢市内では、金沢市教育プラザ富樫の他に石川県教員総合研修センター、石川県庁に教科書を展示した。

期間中、金沢市教育プラザ富樫では、一般の方々が１１６名、教職員等を合わせると１２９名が教科書をご覧になった。各学校での移動展示では、一般の方々が８９名、教職員等を合わせると４５７名が教科書をご覧になった。両展示会場を合わせると、一般の方々が２０５名、教職員等を合わせると５８６名が教科書をご覧になった。これらの教科書展示会において、金沢市教育プラザ富樫では１１４枚、移動展示場では６４枚の市民からの意見が寄せられた。また、石川県教育委員会から、石川県教員総合研修センターと石川県庁に寄せられた市民の意見が届いている。詳しくは机上の資料をご覧いただきたい。なお、机上に１通の茶封筒を置いている。これは、金沢の教科書を考える市民集会参加者一同から、教育委員の皆さま宛てに提出された文書である。

市民の意見等も踏まえ、調査研究報告書ならびに資料等に基づき、７月１６日、２２日、２４日、２９日に第２～５回の選定委員会を開催し、教科書採択に係る答申内容について審議を行い、本日ここに答申書をお渡しする運びとなった。

金沢市立義務教諸学校教科用図書選定員会の松原委員長より、金沢市教育委員会の野口教育長に、令和７年度使用中学校教科用図書の採択に係る答申書を提出していただく。

松原選定委員長	諮問を受け、慎重かつ公平に審議を行いました。ここに中学校教科用図書の採択に関する意見を取りまとめましたので、答申させていただきます。よろしくお願いします。
野口教育長	松原委員長、伊藤副委員長、そして選定委員の皆さまには、５回にわたって熱心に審議していただき、中学校教科用図書について答申を作成いただきました。答申を受けましたので、これから教育委員会において採択を進めてまいりたいと思います。長い間ありがとうございました。

（説明の概要）　この答申書は、全ての発行者について、金沢市の採択方針に基づき調査研究をした調査研究委員会および各学校の研究委員会の報告、教科書展示会に寄せられた意見等を基に、生徒にとって分かりやすいものか、学びやすいものかなど、全体としてのバランスを重視し、選定委員それぞれの立場から幅広い審議を行い、発行者の優れている点を中心にまとめたものである。採択に当たり、審議の参考にしていただければと思う。

資料Ａ「教科用図書調査委員会　調査研究報告書」は、各教科の実践に優れた教員を中心とした調査委員会において、約４週間、綿密に調査研究を実施し、作成した報告書である。この報告書は、種目ごとに「教科用図書調査委員会　調査研究報告書（共通）Ａ－１」と「教科用図書調査委員会　調査研究報告書（教科）Ａ－２」の２種類がある。

「調査研究報告書（共通）Ａ－１」の縦の欄は、金沢市の採択方針に基づいた九つの調査研究項目である。ただし、「英語」については１０の調査研究項目、「特別の教科　道徳」については７つの調査研究項目で調査研究している。発行者は左から発行者番号別に略称で掲載してある。

「調査研究報告書（教科）Ａ－２」は、各教科の特徴がより一層明確になるよう、学習指導要領に示された内容などの取り扱いやその記載内容、分量等が教科書にどのように反映されているか、比較検討できるように作成した報告書である。各教科の学習内容は、学習指導要領に基づき、領域・分野・単元別に分類されている。この調査研究項目は種目によって項目数が異なるため、それぞれの種目を審議する際にはご留意願いたい。

報告書Ａ－１、報告書Ａ－２ともに、それぞれのマスには調査研究項目に対する発行者の優れた点が示されている。

資料Ｂ「各中学校における教科用図書研究委員会　調査研究報告書」は、市内の中学校２４校１分校全てで調査研究し、各発行者の優れた点を中心に事務局で取りまとめたものである。各項目の右側の数字は類似した意見の総数であり、四角内の数字は各項目における意見を取りまとめた合計数である。合計数とともに、各学校の先生がそれぞれの教科書についてどのような点が優れていると感じているか、それぞれの教科書の特徴をどのように捉えているかという視点で参考にしていただければと思う。なお、資料Ｂの１７ページは、別紙として、優れている点以外についての意見をまとめたものである。

資料Ｃは、教科書展示会に寄せられた市民の意見をまとめたものである。

資料Ｄは、各団体等から教育委員会に提出された教科書採択に係る要望書である。

石川県教科用図書選定資料は、参考資料として石川県教育委員会が作成し、教科書採択の指導・助言・援助として金沢市に送付されたものである。発行者ごとに特徴・特記すべき事項が書かれている。

これらの報告書や資料を基に、全１６種目の発行者について答申書を取りまとめた。

野口教育長	ただ今、選定委員長から、答申書および答申書以外に添付されている資料についてご説明いただきました。この後、選定委員会からの答申を基に皆さまからご意見を頂き、この教育委員会議において採択してまいりたいと思いますので、会議の進行にご協力を賜りたいと存じます。 ここからの進め方について確認します。１種目ずつ進めてまいります。まず、選定委員長にご説明いただき、その後、質疑の時間を取らせていただきます。選定委員長と選定副委員長、調査委員長には、そのまま席に残っていただき、審議し、採択を行います。審議の中で確認したいことなどがありましたら、再度、選定委員長、選定副委員長、調査委員長に質問や説明などを求めることができます。このような進め方でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。 本日は、音楽一般、音楽器楽、休憩を挟みまして、地理、地図の順に１種目ずつ採択を行ってまいりたいと思います。音楽一般の調査委員長には既に入っていただいております。 なお、本日の会議の終了時刻は１９時を予定していますが、終了予定時刻になっても審議が終了しない場合は、休憩を挟み、再度審議を行ってまいりたいと思います。よろしくお願いします。 早速、答申書に基づき、各発行者の特に優れている面について、選定委員長にご説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○種目「音楽一般」

［音楽一般：説明の概要（選定委員長）］

音楽一般は、２者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

教育出版は、Ａ－１の項目４に関して、音楽科の特質である伝統と文化を尊重する態度や道徳性を養うための内容について工夫されている。例えば、日本の民謡とアジアの地域で歌われている民謡の特徴を比較し、聴き取ったことや感じ取ったことをまとめることで、音楽の共通性や固

有性を感じ取ることができるように工夫されている。その他、項目２や項目３においても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２の創作分野に関しては、例えば地域の名物や名所を紹介する「ＣＭソングをつくろう」という授業の手順が丁寧に示されていることで、順を追って創作活動を行い、興味を引き、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。

教育芸術社は、Ａ－１の項目２に関して、思考力・判断力・表現力等を育むために、例えば「自分たちの表現を工夫しよう」というページでは、主体的に話し合い、試行錯誤しながら表現活動に取り組むことができるようになっている。共通事項である「音楽を形づくっている要素」が示され、「感じ取ったことをどのように歌うか」は、合唱コンクールや自由曲などでも用いることができる。二次元コードを読み取ると伴奏のカラオケピアノが流れ、グループでも歌えるようになっている。この他、項目１、３、４、５、６、９、１０と、多くの項目において優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２では、創作活動における課題や条件が具体的に明記されている。例えば音楽用語で、順番に進む「順次進行」や、音が飛ぶ「跳躍進行」について説明されており、音のつながり方について考えやすくなっている。二次元コードは、「創作ツール」で書き込みと音を出すことができ、創作活動を行う手だてが大変工夫されている。その他、項目１や項目３についても優れた内容が見られる。

質疑の中で先生方からは、「合唱コンクールなどの歌唱指導で学年や段階を踏んでポイントが明確に示されているのは教育芸術社である」「生徒が興味をもつ教材として、教育出版はコンピューターミュージックについての説明があり、作曲をしてみようという気持ちにさせてくれる」「教育芸術社は『ラ・ラ・ランド』など最近上映されたミュージカルまで紹介されており、フォークソングから最近の渋谷系、アニメソングに至るまで幅広いジャンルが紹介されている」「教育芸術社は、西洋音楽の鑑賞について、例えばバッハの『小フーガト短調』で用いられるパイプオルガンが一体どのようなものであるか、ヤコビ教会内部の映像をコンテンツから見ることができる」「金沢市の観能教室などの文化事業との結び付きを考えると、教育芸術社の学年における楽曲配置の方が扱いやすい」「どちらの教科書についても話し合いを多くしている特徴がある」という意見、感想があった。

選定委員会の委員からは、「教育芸術社の方が『勧進帳』などを取り上げていて子供の興味が引きやすい」「教育芸術社は吹き出しのコメントが子供たちが考えるときの手立てにもなっている」という意見、感想があった。

［音楽一般：質疑応答］

田邊委員	報告書でまとめていただいたことについて幾つかお伺いできればと思っています。今回の採択に関して特に重視しなければいけないのが、金沢型学習スタイルをどのように進めていくのかということに関わることだと思っているのですが、音楽一般の２者で、この点については答申では、教育出版は対話的な学習が展開できるように工夫されている一方で、教育芸術社は主体的・対話的な学習が展開できるように構成されているという違いがあります。両者とも対話的な学習は重視され、工夫されていますが、主体的という点に関しては教育芸術社の方が特に強調して報告されています。教育芸術社の教科書に関して、どういう点が主体的というところに関して評価できるのか、指摘いただければと思います。
音楽一般調査委員	主体的・対話的な金沢型学習スタイルということで、自分で課題を発見し、その解決に向けて主体的に探究する姿と、みんなで協働的に探究する姿、その両方の点で２者の教科書を比べました。 教育出版と教育芸術社を比べたときに、教育芸術社の方がいいと思った点をお話しします。２・３年上の教科書２２ページ、「夏の思い出」の歌唱

の学習についてのページをご覧ください。このページを見ると、考え方の流れが大変分かりやすく①②と説明されているのと同時に、横に吹き出しの形で、この楽曲についてさらに詳しく説明がなされています。「調べ方の例」という部分を見ると、その例を参考しながら自分で考えたり話し合った内容を記入して、感じ取ったことと実際の表現を照らし合わせて、楽曲について学びを深めることができるように工夫されています。思考の流れごとに、どのように活動していけばいいかということが明確である点を考えると、教育芸術社の方が大変優れていると感じています。

田邊委員

ありがとうございます。主体的にという点がこういうところで特に強調されるという説明をしていただき、よく分かりました。一方で、資料Ｃの展示会で寄せられたコメントの中で、これはページを振っていないのですけれども、音楽一般の市民の意見の冒頭に、「若干でも学び方を示している教育出版が良い」というコメントがあります。「学び方を示している」というのが何を指しているのか、どの箇所がという指摘がないので不明ではありますが、この意見を参考にすると、学び方が示されている教育出版が優れているという指摘であって、自立して学ぶというところにかなり共鳴されているような気がします。冒頭のところでしょうか。学習の部分がとてもいいという評価なのですね。分かりました。記述に関して、ちょっと気になりましたのでお尋ねしたところです。ありがとうございます。

長澤委員

資料Ｂの９ページに、音楽一般における報告書が上がっています。お聞きしたいのは、そこに挙がっている点数の横にある項目というのは、事前にこちらが書いた項目として挙がっているのかという点です。例えば３と４の項目で、２者の間で数が大きく違うのですが、加えて、項目の多寡も違っています。例えば４であれば、教育芸術社の方がたくさん項目が挙がっているのですが、こういった項目は、回答する先生方の方で挙げているものなのか、それとも、こちらから既にチェックできるような形で、選べるような形で挙げている項目なのかという点を伺いたいと思います。

２点目は、二次元コードについて具体的にどのような使い方をしているのか教えていただければと思います。

松原選定委員長

最初の項目の点は、自由に書いていただいて、同じようなものはこちらでまとめさせていただいて、そういうものが二つあったということです。自由に書いてもらっているので、なるべく分かりやすく集約しています。ですから、教科書の特徴によって項目が違うし、数も違うということです。

続いて、教育芸術社の二次元コードについては調査委員長の方が詳しいと思いますので、お願いします。

音楽一般調査委員

二次元コードの件について説明させていただきます。最近は１人１台端末の使用が増えてきて、現行の教科書だとデジタルコンテンツというものがあり、それを使って活動することが可能ではあったのですが、デジタルコンテンツは、購入しないと利用できないというデメリットがありました。実際に学校では必ずデジタルコンテンツを使用するかというと使わない場合もあり、その場合は自分で教科書のワークシートを印刷したりして、特に創作などは手作業で活動している人もいます。そうすると、実際に作ったものがどんな音で演奏されているのかというのは、誰かが演奏するか、自分で演奏するかしないと分からないのが現状です。演奏が得意な子であれば特に困らないのですが、楽器を演奏するのが苦手な子や、作ったけれども音符の意味がよく分からないという子にとっては、創作の授業はなかなか大変なものです。

そのような中で、今回の教科書では、特に２・３年下の教科書の２８ページを見ていただくと、ワークシートの部分に「創作ツール」というもの

があります。ここの二次元コードを読み取るとワークシートと同じ画面が出てきて、その部分に何の音を入れようかと考えながら、画面操作で音符を入れたり長さを変えたりすることができます。書くことが苦手な子でも、画面をタップすることで操作できるのは大変良いと思いました。そして、何よりすごいと思ったのは、実際にその演奏を再生できることです。私も実際に使ってみて、再生できることに一番感激しました。これなら演奏が苦手でも、再生ボタンを一つ押すだけで、自分がどんなものを作ったのか一目で分かり、もっとこうしたいという思いをさらに引き出すことができるのではないかと思いました。そういった点が一番だと思っています。

大島委員　両者とも、日本の伝統的な楽器や、周辺のアジアの楽器などが非常に多く見受けられますが、実際にそういう和楽器やアジアの楽器などを子供たちが手にすることができる環境にあるのか、あるいは写真だけで説明していくのか、その辺の授業との関連性をお聞きしたいと思います。

音楽一般調査委員　音楽の授業の中で、３年間のどこかで必ず実際に和楽器を体験するということが位置付けられています。全ての学年で毎年執り行われるかというと、現状として厳しい部分はありますが、実際に和楽器を体験する授業はどこでも執り行っていると思われます。１年生を対象に、お琴を体験する授業を行っている学校もあります。お琴を金沢市教育プラザ富樫から借りたり、持っている学校から借りたりする学校も多くありますし、篠笛を購入して体験するというような学校も多く見受けられます。楽器の体験は３年間のうちのどこかで、あるいは３年間を通じて行われているのが現状だと思いますが、充実まではいかない部分を、鑑賞教材で補足しながら授業を行っています。

大島委員　今の視点でいうと、この２者で何か優劣が出るようなところはあるのでしょうか。

音楽一般調査委員　それぞれの面で良い点がたくさんあります。教育出版だと、例えば能の舞台を実際に体験してみるという活動や、歌の体験というものがあります。教育芸術社にもないわけではないのですが、教育芸術社の良かった点は配列です。文化事業では、１年生でオーケストラ、２年生で金沢素囃子、３年で観能教室という順で文化事業が行われています。金沢素囃子に関しては、それに付随して歌舞伎も紹介できるという点があるのではないかと調査の中では話し合われました。そのときに、歌舞伎と能の学年配列が、実は教育出版と教育芸術社で逆になっています。教育出版では、能を２年生で、歌舞伎を３年生で学習する配列になっていますが、金沢市の文化事業と照らし合わせたときには、２年生で歌舞伎を、３年生で能を学習できる教育芸術社が良いのではないかという点で相違が見られました。

野口教育長　現行で使っている教科書と、新しく出てきた教科書で、何か変更されたところはありますか。

音楽一般調査委員　大きく４点ほどあります。
１点目は、思考力・判断力・表現力を育む活動として、現行だと「深めよう音楽」というものがあるのですが、新しい教科書では「学びのコンパス」に名前が変わりました。そして、現行の教科書は数が五つだったのが七つに増えました。そのことで、思考力・判断力・表現力を育む活動がより充実しているのではないかと思われます。
２点目は、教育芸術社のいいところとして、思考の流れが大変明確に書かれており、先ほども説明しましたが、吹き出しが結構たくさん使われています。その吹き出しを見ると、どのように考えたらよいか、どのように

表現したらよいかというヒントとなっており、思考の流れがより明確となるのではないかと考えています。

３点目は、生活と音楽のつながりという点です。最近では、例えばいろいろな演奏会を学校の方で聴かせていただくなどのアウトリーチ活動があったり、教育芸術社では、６９ページの「生活音を実際に聴き取ってみよう」ということで、音と生活は切り離せないということ、音や音楽が生活と結び付いているということを実感できるような内容が多く掲載されるようになりました。

４点目は、先ほども説明しました二次元コードの充実です。思考を働かせながら課題に取り組むことができるということが、一番優れた点ではないかと思っています。

野口教育長　教育芸術社について説明していただきましたが、もう１者の教育出版についても、何か今回新しくなった点はありますか。

音楽一般調査委員　比較活動というものを取り入れている部分が、今まで見た教科書とは違うように思います。歌唱でも、必ず「比べてみよう」というところがあり、例えば同じ「サウンド・オブ・ミュージック」の中の「ドレミの歌」と「エーデルワイス」の２曲を比較してみたり、鑑賞教材でもいろいろな曲と比較したりしながら音楽を味わう活動を取り入れている点は、現行とは違うように感じています。

野口教育長　先ほどの田邊委員からの質問と関連するのですが、音楽だけではなくどの種目を見ても、巻頭のページがすごく充実しています。学習ノートや「中学校の音楽１」の学習内容などに記されているのですが、実際にこういうものは授業で使いますか。

音楽一般調査委員　１年生の最初の授業で、音楽の授業ではどんなことを学習するのかということを必ず説明しています。そのときに、音楽はどうしても活動ばかりに目が行きがちだけれども、活動というのは歌うこと、弾くこと、作ること、鑑賞することの４領域に分かれていることや、それぞれが関連性をもって音楽は作られているということを説明するのに使っています。

野口教育長　せっかく掲載されているので積極的に使うとよいと思って質問しました。ありがとうございました。

［音楽一般：審議］

大島委員　２者とも、それぞれ非常に優れた点があり、どちらか決めるのはなかなか難しい部分があるのですが、金沢の子供たちに対してということで考えると、教育芸術社の方がいいのではないかと思います。

野口教育長　ありがとうございます。教科書をご覧になられて、子供たちの実態を踏まえると、教育芸術社の方がいいのではないかというご意見でした。

木村委員　どちらも本当にそれぞれいい点があると思いました。教育出版は、「コンピューターで表現しよう」という作曲の部分が面白いと思いましたし、２・３年下の「日本と西洋の音楽の歩み」という比較も大変面白いと思いました。

一方で教育芸術社を見ますと、自分の専門になりますが、邦楽をやっている者としては、歌舞伎や能について非常に丁寧に書いてありますし、「勧進帳」については、私は「これやこの」というところが本当にみんなに聴いてほしいところだと思っているのですが、そこが教育芸術社では載っているのに対して、教育出版はその先の「月の都を立ち出でて」からが出て

いるので、取り上げている場所としては、やはり教育芸術社の方がいいのではないかと思います。また、２・３年の下のところで、「勧進帳」に対して、同じ題材なのだけれども能では「安宅」といい、文楽では「鳴響安宅新関」という言い方をするという、大変詳しいことが載っていると思いました。

教育芸術社は、先ほど申し上げた教育出版の「日本と西洋の音楽の歩み」に対して、「耳でたどる音楽史」というものがあるのかなと思いました。

２年生に今年初めて素囃子を聴いてもらったのですが、生の音を聴いて、皆さんとてもいい反応をしてくれて、きちんと聴いていてくれたことが分かって本当にありがたかったです。学んでから見るのと、見てから学ぶのと、どちらも大事なのかもしれませんが、やはり先に学んでから見てもらえると、われわれとしてはすごくありがたいと思いました。ですので、教育芸術社の方が、金沢の子供たちが２年生で学ぶのにはいいかなと思いました。

長澤委員

「魔王」という項目が、必ず中学校のときに学ぶものなので、両者で見比べてみました。教育出版は１の４８ページから、教育芸術社は１の４６ページから取り扱っています。

教育出版の「魔王」は、どういう作品なのかということが最初に視覚に入ってきます。一方、教育芸術社は、楽譜が最初に入ってきています。恐らく１年生の生徒たちが触れる場合には、作品の全体像を捉えてからアクティブの方に入っていく教育出版の方がなじみやすいのではないかと思います。一方で、教育芸術社は、楽譜から入っているのですが、進めていくと「学びのコンパス」というところに入っていき、吹き出しで思考の導きやヒントを与えながら学びを深めていくという流れがあります。

全体的に見ると、導入は教育出版の方が入りやすい印象はあるのですが、最終的な学びの深さというところまでいくと、教育芸術社の方が優れているという結論をもっています。また、教育芸術社の中でも、現行の教科書と比べて今回の教科書は「学びのコンパス」の数が増えていたり、吹き出しがよく活用されていたり、二次元コードが大変充実していたりとバージョンアップしており、その点を踏まえても教育芸術社が優れていると感じます。

資料Ｂの現場の先生方の意見を見ても、９ページの項目３、４を比較すると、教育出版に比べて教育芸術社が倍以上の「良い」という評価が出ています。現場の先生方の評価が高く、また、それに甘んじることなくさらにバージョンアップしていることを考えると、教育芸術社の教科書が優れていると考えました。

櫻吉委員

両者を比べたときに、二次元コードの充実度に差があるように思います。教育芸術社は全ての曲が聴けるので、１人１台の端末で、興味がある曲をどんどん聴いていけるのではないかと思います。私は楽譜が全然読めないのですが、曲を聴きながらだとイメージしやすいですし、教科書の内容的にはどちらも甲乙つけ難いのですけれども、音楽の知識がなくても、どんどん聴いてみようという好奇心で入っていきやすい教育芸術社の方がいいのではないかと思いました。

田邊委員

２者ともあまり遜色のない教科書で、逆に音楽でこういうことを学んでいるのだなと、教科書を見比べながら、こちらが学ぶことがたくさんありました。

とはいえ、どちらかを選択しなければいけません。それぞれの持ち味があるのですが、いろいろなところに比較の目を向けてみると、教育芸術社は、そもそも音楽とは何なのだろうという問いからスタートしていました。それに対して教育出版は、音楽はメッセージだというところからスタート

	していています。「メッセージだ」と言われると、ああ、そうなのだと同調しがちですが、「何だろう」と言われると、何なのかなと子供たちは思考を巡らせる気がします。そういうスタート地点の置き方や、工夫しながら自分で考えたり、他の子供たちは何を考えているのだろうということをヒントとして盛り込んでいたりする点が大きな違いになると思いました。 また、金沢は文化に力を注いでいくというスタンスからすると、中学生が経験する文化活動の流れと教科書がいかにマッチしているかということはとても大事なポイントではないかと思っています。楽曲配置と照らし合わせてみると、2者ともそれぞれ工夫していて遜色ないとは思うのですが、金沢における音楽活動・文化活動の展開や、主体的に考えるというところにアクセントを置くという持ち味という点で、教育芸術社を選択した方がいいのではないかと思いました。
野口教育長	ここまで5人の教育委員の皆さんが、教育芸術社の方がよろしいのではないかということでした。私もお話しさせていただきます。 スタートの部分に調査研究項目が示されました。特に報告書A－1では、9つの項目がありましたが、どの項目も大事とはいいながらも、1～3の学習指導要領に関係する項目と、金沢の子供に関係する8、9の項目が大事ではないかと考えました。また、資料Bですと、学校の先生方に聞いておられる1～4の項目が大事ではないかと感じました。 私は自分なりに、どの種目も同じ視点で見ていくということで、1番目に興味・関心がもてる内容かどうか、2番目に編集に工夫が見られるかどうか、3番目に授業を通して思考力・判断力・表現力が育成できるか、4番目に、これは音楽にはないと思いますけれども、単元のまとめが充実しているかどうか、5番目に内容が多角的・多面的になっているかどうか、最後に金沢型学校教育モデル、特に来年から新しい学校教育モデルになるので、そのモデルに沿っているかどうかという視点で教科書を見ていきました。 これまでの学校の先生方の考え方、調査委員会の先生方の考え方、そして選定委員会の考え方、いろいろな視点を見させていただきながら、自分なりの視点でも見ましたが、やはり教育芸術社の方が思考の流れを大事にしていると思いました。特に「学びのコンパス」は私も注目しました。これは非常にポイントになると思っています。甲乙つけ難いかもしれませんが、教育芸術社の方が子供にとっては学びやすい教科書ではないかと結論づけましたので、皆さんと同じ意見であるということをお伝えしたいと思います。 それでは、特にこれ以上ご意見がないようでしたら採択を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。皆さん一致しているので、音楽一般については、教育芸術社でよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
野口教育長	それでは、音楽一般については教育芸術社に決定しました。

○種目「音楽器楽」

［音楽器楽：説明の概要（選定委員長）］

音楽器楽は、2者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

教育出版は、A－1の項目7に関して、例えば和楽器の篠笛を吹くときの口の形や息の入れ方が分かりやすく、大きな写真や図などで理解が深まり、基礎的・基本的な技能が習得しやすくなっている。その他、項目1、6、8においても特に優れた内容が見られる。

A－2の項目3に関して、日本と諸外国の楽器、例えばリコーダーと篠笛や尺八について、音

の出る仕組みや音色、旋律を比較しながら理解できるように工夫されている。楽器に加え、その背景にある文化や伝統にも触れられるようになっており、より広く深い学習へつなぐことができる。その他、項目１においても特に優れた内容が見られる。

教育芸術社は、Ａ－１の項目２に関して、イラストの会話、吹き出し型によって曲の構成を理解し、表情豊かに演奏するために必要な見方、考え方や思考の流れが示されている。その他、項目１、３、６、７、８、９においても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２に関して、例えばアルトリコーダーでは「喜びの歌」「威風堂々」などクラシックの名曲や、「かっこう」「聖者の行進」「アニー・ローリー」など世界の民謡が多く扱われている。楽器の技術習得と同時に、美しい旋律に触れることができる。アンサンブル曲やミュージカル曲、映画曲、テレビ番組曲など、多くの生徒が主体的かつ協働的に演奏活動に取り組むことができるように配慮されている。その他、項目１や３においても優れた内容が見られる。

選定委員会における質疑の中では、楽曲の違いについて、「教育芸術社は、『千の風になって』という耳にしたことのある楽曲を、得意・不得意のある中で、吹く楽器、弾く楽器など、演奏の違いもグループで選ぶことができる点で、幅広い生徒に対応できる楽曲のつくりになっている」「教育出版は、新規技能を習得した後に仲間と合わせるという視点で、一つ一つの楽曲で習得した技能を生かしながら合奏となっているが、時間の確保の視点には配慮が必要である」というコメントがあった。

生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習については、「教育出版は、内容を基に身に付けたい能力がはっきりと具体的に設定されている」「教育芸術社は、目標設定等があり、自分たちで演奏を選択すること、例えば楽器の中でリコーダーを選んで演奏することができ、生徒に活動の幅をもたせる設定がされている」というコメントがあった。

金沢市で一般的によく使われる楽器である和楽器については、「どちらの教科書も和楽器は丁寧に掲載されている。その中で教育芸術社には、伝統音楽一覧というページがあり、３年生の観能教室で見に行く能で使われる楽器や、２年生で見に行く素囃子など、伝統文化と楽器の関係性が分かるページになっている」というコメントがあった。

内容については、両者とも、「演奏等を自分のタイミングでより深めることができる二次元コードが備わっており、授業や自分でさらに学びを深めていける」というコメントがあった。

和楽器については、「学校のそろえ方に差があるが、足りない部分は市の施設から借りたり、学校との打ち合わせで共に使ったりという工夫をして触ることができるようにしている。太鼓なども体験させることもある」ということだった。

選定委員会からは、「楽器に自由に触れるような雰囲気を大切にしてほしい」「教育芸術社は二次元コードで一流の奏者の名前があり、そのメッセージもあるので非常に興味がもてるのではないか」「教育芸術社の最初の見開きに読み物があり、世界に目を向けて、いろいろな地域のいろいろな音楽の情報があるところが良い」という感想・意見があった。

［音楽器楽：質疑応答］

田邊委員	中学校で音楽の授業をするときに、時間割上は「音楽」という名称で時間割が組まれると思います。教科書は一般と器楽で分かれていますが、時間割上の「音楽」の中で、一般と器楽の区分はなされるのでしょうか。「音楽」というひとくくりの中で、時には一般の教科書を使う授業があり、時には器楽の教科書を使う授業があるということなのでしょうか。授業構成がどうなっているのか伺いたいと思います。
音楽器楽調査委員	年間の教育課程の指導計画の中で、特段、一般と器楽ということが生徒に伝わるように明記することはないのですが、その学校の実情に応じて、この時期には器楽の授業を盛り込むというようなことを教育課程の中に明記する形で授業を計画しています。１年生でいうと、例えばお琴は、楽器

が限られないこの時期に組み込み、２年生の三味線は歌舞伎の勉強の前後に組み込むという形で、教育課程で明記しています。

田邊委員　では、「音楽」というくくりの中で、一般と器楽の教科書は発行者が異なってもいいのでしょうか。一緒の方がいいのでしょうか。使いやすさという点ではどうでしょうか。

音楽器楽調査委員　私の経験になってしまうのですが、私は今まで同じ発行者の教科書を使っていて、違うものを使った経験がありません。同じであれば、教科書を行ったり来たりしながらつながる部分があったり、用語の使われ方やレイアウトなど、見方がそろっている方が、生徒にとっては対応しやすいのではないかという実感はもっています。

田邊委員　生徒にとっても先生にとっても、発行者が一緒であれば、違和感なく使いやすいというメリットがあると理解してよろしいでしょうか。

音楽器楽調査委員　私の経験上はそうです。

木村委員　Ａ－２の器楽教材の選択に関する項目のよさが教育出版と教育芸術社で違うのですが、具体的に何が違うのか教えていただければと思います。

音楽器楽調査委員　教育出版の教材は、いろいろなジャンルで、生徒が親しみをもって意欲的に取り組むことができるように配慮されている点が、調査委員会で話し合った中ではとても評価できるポイントとして挙がりました。
教育芸術社の教材も、同じく世界や日本で歌い継がれている楽曲を幅広く取り扱っている点で評価のポイントは挙がったのですが、例えば１４ページあたりのリコーダーのページをご覧いただくと、世界の名曲を生徒に分かりやすい形で楽曲に落とし込んでおり、親しみやすいだけでなく、音楽の美しさに基本段階から触れることができるようになっています。そして、「かっこう」や「聖者の行進」、オーストリア民謡、スコットランド民謡の「アニー・ローリー」など、民謡を旋律にしており、歌の息遣いの延長でリコーダーも歌うように吹くというように、つながりがもちやすい選曲になっているのではないかという意見が委員会では出ました。

長澤委員　今の質問の流れで、教育出版社のリコーダーのところで取り上げている楽曲は、どういう基準で選ばれているとお考えでしょうか。

音楽器楽調査委員　恐らく、リコーダーの練習になるという視点で創作された楽曲ではないかと思います。作曲家も、民謡からというよりも、この人が作曲した曲というものが続いているので、リコーダーの奏法や練習といった点で非常に効果的な曲が採用されているのではないか思います。加えて、１２ページ以降の「喜びの歌」やドヴォルザークの「家路」といったクラシック曲も採用されており、教育的に奏法をマスターするための曲とクラシックが共存しているのが教育出版であると感じています。

長澤委員　時間的な制約や、実際に手に取れられる楽器の制約との関係で、この教科書に挙がっている全ての楽器に触れることは難しいと思うのですが、教科書だけで完結する楽器に関しては、授業では実際にどのように進めているのでしょうか。

音楽器楽調査委員　金沢のベーシックカリキュラムを基にしつつ、各校の実情に応じて楽器の種類や時間設定などの差は出てくると思いますが、私の経験と周りの状況でいうと、アルトリコーダーを扱っている学校が一番多く、曲の中でよ

り多くの生徒が確実に技能を習得するような時間設定や曲選択、授業の進め方を多くの学校が大事にしていると思います。
　和楽器のお琴については、楽器の数が足りない分は金沢市教育プラザ富樫から借りるなどして、短い時間でもたくさんの生徒が触れることができるように台数を確保している学校もあります。三味線の場合は、お琴以上に楽器の扱いが大変で、少し困難な生徒も出てきます。正直、教科書に載っている曲の演奏を生徒全員が習得するには個人差が大きく出てしまう楽器なので、やはりこれも触れること、体験することを大事にするために、一曲丸々仕上げるというよりは、ここまでは頑張ってみよう、得意な子はこの先までマスターしてみようというように段階を分けるなどの工夫をしています。全ての楽器に触れることは大変厳しいのですが、楽器の難易度、楽器の数、時間等によって工夫し、できるだけたくさんの体験を生徒にさせるようにしています。

長澤委員

　そうしますと、全く触れない項目もあるのでしょうか。すなわち、生徒が授業では触れずに自主的に見るような項目もそれなりにあると理解すればよろしいでしょうか。

音楽器楽調査委員

　教育芸術社の目次を見ていただきたいのですが、アルトリコーダーは１人１本購入して持たせています。ギターも、学校によりますが、人数分そろっていることで必ず触れている学校もあります。お琴と三味線も台数を調達して触れている学校があります。ただ、太鼓、篠笛、尺八、打楽器等に関しては、生の楽器に触れることが難しいため映像で触れています。「中学生の音楽」の一般の教科書で出てくる地域のお囃子祭りなど、郷土芸能に絡めて映像で鑑賞し、紹介にとどまっているのが実情です。

［音楽器楽：審議］

長澤委員

　音楽一般と同じく、教育芸術社がよいのではないかと思います。今の調査委員長からのご説明を受けて、実際に触れることがない楽器に関しては、音楽一般の教材に基づき映像や歴史的なものを見るということになると、音楽一般の教科書との連携がとても大事だと思いました。
　リコーダーに関しては、実は教育出版の方が優れている部分があるのではないかと思っています。というのも、楽器を習得するには、段階を踏んで、スモールステップで一つずつクリアしていき、より高度なものに挑戦していくことがセオリーだと思うのです。教育出版社は、１０ページの「一つの音で吹いてみよう」というところからスモールステップで、左手を練習して、右手を練習して、そして「喜びの歌」という素敵な旋律を奏でるということが、学習という意味でも理想的だと思いました。ただ、先生方のご意見のように、歌の連続の中でリコーダーに触れてみるという意味では、技術習得の前にまず楽器に触れて楽しむことを重視するならば、リコーダーという楽器の性質上から考えても、必ずしも技能の習得から考えなくてもいいのではないかと考え直しました。そういった意味で、トータルで考えて、教育芸術社の方が望ましいと感じています。

田邊委員

　どちらも遜色ないといえば遜色ないと思うのですが、長澤委員と同じく音楽一般との連動性だったり、教科書の中で取り上げられているたくさんの楽器を必ずしも全て網羅して学習するわけではないということや、楽器は楽器で理解を深め、演奏は演奏で楽しみ親しむというスタンスからすれば、答申にもありましたように、自発的な学習を促す、音を合わせてみんなで楽しむということが配慮されている教育芸術社の教科書の方が望ましいと思います。

櫻吉委員

　副読本ではなく単独の教科書で、音楽一般と同じ扱いで考えるとすると、

	音楽一般が教育芸術社なので、同一の発行者の教科書の方が当然混乱も少なく指導もしやすいだろうと思います。それぞれに特色があるのであれば、音楽一般と同じ発行者の教科書を採択するのがいいと思います。
木村委員	教育出版は巻頭の「音楽の力」というところでストリートピアノが取り上げられていて、人と人のつながりを生むという内容があり、どちらも優劣をつけ難いという思いがあります。 ただ、器楽の場合、非常に詳しく載っている方がいいのではないかと思いっています。構え方や形など、きちんとした基礎を丁寧に教えているのはどちらなのかと考えると、教育芸術社ではないかと思いました。「日本の伝統音楽の楽器編成」というところも、例えば同じ三味線であれ笛であれ、全部一本ではないのだということが分かりやすくていいという点にも注目しました。あとは、やはり音楽一般と同じ発行者の教科書の方が良いのではないかと思います。
大島委員	今までの皆さんの意見に全く同感です。一般も器楽も「音楽」としての授業構成等を考えた場合には、同一者の方が適切ではないかということで、教育芸術社の方がよいのではないかと思います。
野口教育長	私も、どちらかというと教育芸術社の方が、１時間ごとの学びの視点や学習課程が明確になっていると感じました。金沢型の考え方に非常に沿っていると思いますし、特に「学びのコンパス」も、思考や学びの連続性を図るのに非常にいいと思います。 また、目次を見ていいなと思ったのは「アンサンブルセミナー」のところです。非常にアカデミックな感じを受けました。教育出版でいうと「合わせて演奏しよう」のところにつながるのでしょうけれども、教育芸術社は、「アンサンブルセミナー」の横に、それをフォローするページがきちんと添えられていて、子供たちにとっては非常に学びを進めやすいのではないかと感じました。応援のメッセージなどもあり、私も教育芸術社がいいと思いました。 私と教育委員の皆さんのご意見が一致しているので、教育芸術社でよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
野口教育長	それでは、音楽器楽については、教育芸術社に決定したいと思います。

○種目「地理」

［地理：説明の概要（選定委員長）］

地理は、４者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目９に関して、自分でみんなで考える金沢型学習スタイルに基づく展開・構成が見られる。例えば「世界の窓」のコーナーで多くの写真を提示し、生徒の興味・関心を喚起し、課題設定と学習の見通しをもたせ、探究課題の解決とともに単元のまとめを行うこと、振り返り、図やチャートを使った情報の整理・分析、グループでの対話など、多様な活動の工夫が優れている。その他、項目２、３、８においても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、大陸ごとに色を変える工夫がされていて、地域構成に関する事項が優れている。その他、項目２、４において優れた内容が見られる。

教育出版は、Ａ－１の項目５に関して、例えばオセアニア州の学習の導入で「人や国の不平等をなくそう」など、多民族共存の問題も挙げ、ＳＤＧｓに配慮した課題解決に向けて主体的に追究することができるよう配慮されている。

Ａ－２の項目７に関して、より良い未来への提案に向けてどのように課題解決を考え追究していけばよいのかということについて、水俣市を例に挙げ、生徒一人一人が主体的に発信・提案まで取り組みやすくなっている。その他、項目５、６においても優れた内容が見られる。

帝国書院は、Ａ－１の項目１に関して、学んだことを確かめ、「学習内容を振り返ろう」では地図と結び付けながら用語や都市の特徴を振り返ることができるなど、各単元の終わり、まとめ、振り返りの部分を中心に、基礎的・基本的な知識・技能の習得ができる。

Ａ－２の項目４に関して、「技能を磨く」では、統計資料の読み方や地図の使い方などが示され、地域調査は生徒にとって難しく苦手と捉えがちな単元だが、意欲的に取り組む工夫がより充実している。その他、項目２、６、７、８において優れた内容が見られる。

日本文教出版は、Ａ－１の項目８に関して、中部地方ではどのようにして特色のある産業が盛んになったかという単元の問いで、思考ツールを活用し、協働的な学びの場で自分の言葉で説明や対話をして学びを深めるための工夫がある。

Ａ－２の項目６に関して、中部地方を広い視野から眺め、「問いを立てよう」では多様な資料やグラフが示され中部地方の課題解決や将来について深く考える工夫がされている。

質疑応答では、「情報を分析し、より良く課題を解決する点では、東京書籍が優れている。全体を俯瞰させてから、ここで考えたいことは何かということを自分で問わせるようになっている。また、課題を解決するためにグループで話し合い、そこで自分の意見を述べ、協働的な場の中で自分たちの考えをまとめていくという一連の流れが優れている」「東京書籍は、『何々を学ばせる場』というのが優れている」「帝国書院は、『何を何で学ばせるか』という視点が優れており、資料の数も豊富である。協働的な学び、コミュニケーション力を高めるような場も盛り込まれており、教科書から対話を促すアイコンを新設して教科書の中に示している。「地理の分野と地図の分野で出版社が違っても特に困ることはない」「北方領土に関する記載は帝国書院の方が優れている。国際法上の内容も踏まえた歴史的な学びができる」「防災に関する学習については、４者ともさほど差はない」「金沢市については、中部地方の伝統工芸や金箔など、特に伝統工芸について取り上げている部分がどの者も多かった」という意見・感想があった。

選定委員からは、「領土・領海・領空に関しては、帝国書院は「固有の」という表現を比較的強く出している」「領土に関しては、帝国書院の方が、他の教科書に比べて少し詳しくされている部分が見られる」「教材研究にかかる時間を考えると、先生方が教材研究しやすいような資料をたくさん提供している教科書が望まれるのではないか」「教科書と地図帳で発行者が違っていたとしても、先生の技量で対応できるので、地理の教科書は独立で考えていいのではないか」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に４者のうち東京書籍と帝国書院が高く評価された。

［地理：質疑応答］

櫻吉委員	書き込みを促す教科書と、全くそうではない教科書があるのですが、これについて差はありますか。
野口教育長	選定委員会では特にその話は出なかったのですが、調査委員会からはどうですか。
櫻吉委員	帝国書院以外の教科書は必ず書き込むところがあったと思います。
地理調査委員	帝国書院にも書き込む場所はあります。それぞれの教科書会社によって場所は違うと思いますが、調査委員会としては、書き込めるかどうかはあまり重視していません。ノートを子供たちに持たせてノートに書かせることができますし、二次元コードにもワークシートや白地図が配備されているので、そこについてはあまり議論しませんでした。

櫻吉委員　各単元に必ず学習の振り返りがあったと思います。金沢市の教育指針の中で振り返りが重視されていたと思いますが、振り返りのしやすさ、まとめのしやすさについては、教科書によって差はありますか。

地理調査委員　各者、まとめの部分で振り返らせる場面が設けられていますが、帝国書院については、１２６～１２７ページが単元のまとめの場所になります。ここではオセアニア州について学び、１２６ページで基礎的な部分を振り返り、１２７ページで、各単元で考えたことや資料から読み取ったことをまとめる形になっています。これを踏まえて話し合いなどを行い、より深い学びにつなげていく構成になっています。また、１２７ページの右下で、この単元で自分は主体的な学びができたのかということや、この単元で学んだことを次にどう生かしていくのか、さらなる課題は何なのかということまで考えさせる部分が設けられています。これらの点から、帝国書院の教科書がよりよいのではないかと考えました。

木村委員　帝国書院の１０ページに「地図帳を活用した学び方」というところがあり、「地理の学習に役立つ資料は地図帳にも載っています。地図帳も利用して地理の学習を深めていきましょう」と書かれているのですが、これは帝国書院以外の地図帳であっても授業には影響しないでしょうか。

地理調査委員　はい。教科書と地図帳の会社が別々でも問題なく教授することができ、問題はないと思っています。

木村委員　同じ方がいいということもないですか。

地理調査委員　特にないです。例えばそこにページ数や見る場所が示されていたら同じ方がいいと思いますが、そういったことはないので、別々でも大丈夫だと思っています。

松原委員長　選定委員会でも、社会を専門とする委員から、教科書と地図帳の発行者が違っていても先生方は普通に対応できるというコメントがありました。

大島委員　私は総合的に言うと東京書籍と帝国書院がいいと思っています。社会における地理的分野においても問題解決がかなり重要視されていると思いますが、その点、Ａ－１とＡ－２の資料を見ると、東京書籍の「資料から発見」「もっと知りたい」「みんなでチャレンジ」の部分が非常に使いやすそうだと感じます。帝国書院も同じように課題解決は非常にうまくされていると思うのですが、このあたりについて、この２者を比べたときに、東京書籍の優位性に関して何か意見はありますか。

地理調査委員　どちらが優位かという話は調査委員会ではなかったです。どちらの発行者も、さまざまな視点から子供たちに課題解決させる手立てを講じていると思います。

田邊委員　東京書籍の「みんなでチャレンジ」では、これはグループ活動、これは個人活動ということが明記されていますが、こういう明記がされている方がいいのかどうかというのが逆に気になります。いろいろな状況や展開に応じて、グループ活動をするもよし、一人一人で探究するもよしと思ったりするのですが、こういう指示があった方が学習の展開がしやすいのでしょうか。

地理調査委員　東京書籍は、「資料から発見」「もっと知りたい」などのコラムの中で、課題解決や協働的な場を設けるようにという内容がありますが、帝国書院

の場合は、本文のところに話し合いを勧める対話マークが設けられています。対話マークや話し合いの場を設ける指示があるからといって、そうしなければならないということではないのですが、若手の先生方にとっては、この資料からこのような視点で子供たちに考えさせることもできるのだなというヒント的な捉え方をすることができますし、子供たちにとっても、授業だけの学びではなく、家庭に帰って教科書を見たときに、この視点で考えてみる必要もあるのかなと思うきっかけになるかと思います。そういった部分で、こういったマークがあることはプラスになるのではないかという話が調査委員会では出ていました。

田邊委員

良しあしなのかとは思います。また、答申の金沢ベーシックカリキュラム、金沢型学習スタイルの箇所にある「単純な課題が設定されている」という記述は、探究課題がまとめのところにあることを指しているのだと思いますが、一人一人がいろいろなことに疑問をもって探究していくのが筋ではないかと思うと、探究課題が指示された上で探究を進めていくことは本当にいいのだろうかと疑問に思います。そのあたりはいかがですか。探究課題が提示されている方が展開しやすい一面があるのでしょうか。

地理調査委員

これも良し悪しなのかと思いますが、はっきりと提示されていることによって、子供たちがそこに乗って、または先生方もそれに乗って学習を進めていけるということはあるかと思います。ただ、私たちが地理を教える上では、資料やグラフ、教科書に示されている図などをとても重要視しています。そう考えたときに、東京書籍は、このように学んでいくといいというきれいな道がある感じを受けますが、帝国書院の方が資料は豊富です。もちろん課題が提示されているところもあるのですが、どの資料を使うかによって課題への迫り方や子供たちへの問い、そして子供たちが受け取るものも変わるのではないかと感じました。

田邊委員

何となく微妙な気がします。もちろん、筋道がはっきりしていた方が、技量にかかわらず共通した目標に到達し得るということはあると思いますが、逆にフレキシブルさが失われないかということも気になるのですけれども、その辺はそれぞれの教科書のつくりですね。

野口教育長

現在は帝国書院の教科書を使っていますが、今回提示されている新しい教科書と現在使っている教科書の違いがあれば教えてください。選定委員長からは帝国書院と東京書籍という話がありましたので、東京書籍についても何か違いが見られるようであれば教えていただけたらと思います。主観でも結構です。これが１点目です。

２点目に、どの会社も冒頭で教科書の使い方がすごく丁寧に説明されているのですが、これは社会科の授業の中で使いますか。

３点目に、章末に確認問題がたくさん出ているのですが、これは使われていますか。

地理調査委員

１点目について、現在使っている帝国書院に関して言えば、新しい方の９ページに学びに使える思考ツールを紹介するページが新設され、先ほどの対話マークなどのアイコンも増えています。良し悪しはあるかもしれませんが、いろいろな視点から考えられるという点では、アイコンの新設は効果的ではないかと思っています。

また、１５０ページに「アクティブ地理」というコラムも新設されています。これも良し悪しかもしれませんが、地域で見られる課題について、解決に向けて自分で考えをもち、さらに協働的に対話をしながら学びを深めていけるコラムになっています。

あとは、先ほどと重なりますが、今度はアフリカ州についてのまとめの

活動のところです。ここでは、思考、判断、表現のまとめをし、さらに、協働的な場で対話をしながら学びを深めていくという部分が充実したと思います。先生方にとっては、このような対話の場で子供たちがどのような話をし、最後にまとめているのかということが、思考力、判断力、表現力等の評価の判断につながるという良い面があるのではないかと思います。

また、繰り返しですが、主体的な学びをきちんと振り返らせている点が、新金沢型学校教育モデルの金沢リフレクション等に結び付いていくのではないかと捉えており、これらが現在使っている帝国書院の良くなった部分だと思っています。

東京書籍については、実際に今使っているわけではないので深くは分かりませんが、資料が薄くなったような印象があります。少し空白が目立つようになりました。それはユニバーサルデザインの視点から捉えれば、見やすさにつながるのかもしれませんが、資料に物足りなさが出たというのが調査委員会の意見です。

２点目の、巻頭の教科書の使い方の部分を利用しているかということについては、社会科では利用しています。特に小学校から中学校１年生になって初めての授業のときには、どの教科も授業のオリエンテーションを行います。小学校で学んできた社会科をなぜまた学ぶのかといったときに、社会科が歴史、地理、公民に分かれていくことの解説や、どのような視点で考えるのかということが示されている点、また、教科書の中のさまざまなマークについての解説があることも重要です。特に、巻頭ページに「地理的な見方、考え方」というものが示されています。この視点で勉強していくのだということを最初に説明するのですが、この「地理的な見方、考え方」は、３年間の学びで毎回確認すべき事柄です。それが巻頭にきちんと記されていることで、子供たちも先生方もそこに立ち返って学びを深めていくという意味で、十分活用しているところです。

３点目の、各単元のまとめのコーナーですが、どの教科書会社もまとめや振り返りのコーナーはだんだん充実してきていると思います。充実しているからこそ授業でも使用しています。これ以外にも、もちろん現場の先生方は、別のまとめや振り返りを行っていますが、より充実してきたからこそ、皆さん活用していくのではないかと思っています。

野口教育長　採択を繰り返すごとに、どの教科書も似てきて、今後、教科書採択がなくなってもいいのではないかと時々思うこともなくはありません。非常に明確になりました。ありがとうございます。

［地理：審議］

野口教育長　先ほど選定委員長から、選定委員会で評価が高かったのは東京書籍と帝国書院という説明がありました。これ以外で発行されている教育出版と日本文教出版について、審議に入れてほしいというご意見がありましたら、その教科書も入れて審議したいと思いますが、何かご意見はありますか。限られた時間での審議になりますので、もしご意見がないようでしたら、選定委員会の評価を尊重し、評価の高かった２者で審議したいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、この後は東京書籍と帝国書院の２者について審議したいと思います。

櫻吉委員　２者ということですが、４者で比較してみたときの考えを一つずつ述べさせてください。

世界の地理・日本の地理の知識に関する領域は、各者とも工夫をこらしていて、これを選んだからいい、悪いということはないと思います。ただ、同じものを扱う分野を比較したときに、気になったことが３点あります。

１点目は、日本の領域の分野です。帝国書院は１８ページ、東京書籍は

２５ページ、あとは全部１８ページになりますが、沖ノ鳥島の写真が出ています。これを見ると、帝国書院と東京書籍は写真が二つ出ていて、マクロな形の写真で、領土を守っているのだなということが伝わるのですが、教育出版と日本文教出版の写真を見ると、領海を守ることの苦労が伝わりにくいように思います。この点でも、東京書籍と帝国書院の方が、教育出版と日本文教出版に比べると優れていると思います。

２点目は、ロシアのウクライナ侵攻についてです。この教科書が採択されたときにはどうなっているか分かりませんが、そういう侵攻の問題があったときに、地理的にどういう影響があるかという記載があるか見ると、日本文教出版は７５ページに「ウクライナ問題に揺らぐヨーロッパ」という形で、一つのコラムとして詳しく記載されています。帝国書院と教育出版は長文の中に少しだけ書かれています。東京書籍は全く記載がなかったと思います。この点では、日本文教出版の方が優れていると思います。

３点目は、災害についてです。選定委員会からは、災害に関してはあまり差がなかったというお話がありましたが、この部分は地理の中では重視して教えていただきたいと思っています。というのも、金沢市の中学生はずっと金沢市にいるわけではなく、将来いろいろなところに行く可能性があります。ですから、金沢市独自の災害だけでなく、各地域の災害をきちんと知識として知った上で他の地域に行き、危機意識をもって生活することが、命を守る上で大切だと思うのです。

帝国書院は１４６ページから、東京書籍は１６４ページになります。この２者を比べると、確かにいろいろな災害は出ているのですが、帝国書院は１５１ページに「ハザードマップを使って避難先を考えよう」というものがあり、実際に地域ごとの地図を使って活動できるようになっています。東京書籍は１６４ページに「読み取ろう」ものがあります。採用されている写真などを見ると、帝国書院の方が災害に関しては記述がしっかりしていていいのではないかと思いました。

先ほどのまとめも帝国書院がしっかりしているということだったので、トータルで見て、帝国書院がいいのではないかと思います。

長澤委員　資料Ｂの先生方の意見の３ページを見ると、教科書の一丁目一番地である項目１に関して、東京書籍は意見数が２１と大変突出しています。東京書籍はどの科目もそうなのですが、課題を設定し、それに対してどのように解決していくかということがきれいに整理されていて、整理するのがとても得意な発行者という印象をもっています。

一方で、先ほどご説明があったように、資料が少なくなっていることに関しては私も気になっています。見た感じはすごくすっきりしていますが、さまざまなところから出てきている多面的なデータの中から、どの場面でどの情報をピックアップして自分の見解につなげていくかということを判断する能力を、これからますます子供たちは培っていかなければならないことを考えると、特に地理の教科書においては、なるべく多くの情報を提示しているものが望ましいと思っています。

例えば、帝国書院は１２４～１２５ページがオセアニア州の産業に関する記述になっています。同じ内容が東京書籍では１３４～１３５ページに書かれていますが、見開きを見ただけでも、帝国書院の方が資料が多いですし、観光客の変化や、かぼちゃの産地など、細かな内容もいろいろ出てきています。

そして、それに関して、子供たちにどのように考えさせるかというと、帝国書院は１２５ページの右下の「確認しよう」で大事な情報を書き出してみる部分があり、その後の「説明しよう」では具体例を挙げながら説明しようという形で、何を引っ張ってくるかということは子供たちに委ねています。これがまさに地理の学びで大事なところではないかと思っています。東京書籍の場合は、今話した見開きのところで「チェック項目」と「ト

ライ」という項目があり、大体似たような感じではありますが、「貿易に着目して説明しましょう」と書いてあり、何に着目すべきかということが指摘されています。これは、限られた時間の中で学習の成果を得るという意味ではやりやすいですし、みんなが等しくできるかもしれませんが、勉強の範囲をあえて狭めてしまっている恐れがあります。

１３７ページの下の「トライ」のところでも、「次の語句を使って説明しましょう」という形で、権利と共存という語句を使って説明するように指摘されてしまっています。テスト問題であればこういうことになるのだろうと思いますが、生のデータに触れ、それをどのように読み取るかということを学ぶ場面では、ちょっと親切過ぎる印象があり、私としては帝国書院の方が優れていると感じています。

田邊委員

それぞれの持ち味、良さがあると思いますし、いずれも学習指導要領に基づいて作成されているので、当然、甲乙はつけ難くなります。ただ、地理の学習は、世界や日本のことを地理の観点から理解することが趣旨であり、日本については日々情報に接しているので、差はあるにしてもおおよその推測はできると思いますが、世界については地理を通してイメージをふくらませていくことになると思います。

いろいろな資料やデータを取りそろえて学習を進めていくという観点で、例えばヨーロッパの単元で見比べてみると、どちらも地図を手がかりにしてビジュアル的に理解することをスタートにしていることが分かります。特に帝国書院は、６６ページにまずヨーロッパの地図が出ていて、日本との違いも地図に明記されています。これは他の者にはなかったことです。日本を拠点にしながら世界の位置関係や特色を考えるときの手がかりになるでしょうし、そういうイメージを地図との関連で記されていることは非常に大きな持ち味だと思われます。

地図の表記も各者ともビジュアル的に工夫されていますが、平原がどれくらいで、高い山がどの辺りにあるのかというようなビジュアル的な把握、それから写真を通しての把握、データを通しての把握ということを総合的に考えると、帝国書院は、本文に加え、データをかなり駆使して理解させようとしているように思います。ヨーロッパで比較してみた場合に、帝国書院は、最初に地図が示され、それから気候環境が示され、次のページへいくと宗教や言語の特色が示されています。東京書籍は、最初に地図が示され、同じページで自然環境が説明され、次のページで言語等が示されています。つまり、４ページを費やして展開される学習と、２ページを費やして展開される学習で、情報量が違うように思うのです。２ページであっても、もちろん授業の中ではいろいろなデータを駆使して学ぶと思いますが、教科書を使って復習して活用するということからすれば、情報量の違いというのは大きな違いになっていきます。

全部は熟読していませんが、文字数を計算すれば一目瞭然なのかもしれませんが、東京書籍と帝国書院で本文の量が違う気がしてなりません。丁寧に本文で理解させようとするのが帝国書院であり、東京書籍は、コラム的な表現で知識を積み重ね、ナビの導きに沿って理解するというイメージで作成されている教科書という印象が強いです。本文を読み通して理解するというスタンスが大事だと思いますし、資料やデータを活用して理解するという地理の狙いからすると、帝国書院の方がそのあたりを丁寧にまとめられていると思います。

大島委員

本当にどちらもそれぞれの良さがありますし、皆さんのご意見にも非常に共感するところがあります。東京書籍は非常に丁寧に筋道を立てて展開されるのですが、あまりにも丁寧過ぎて、課題解決の本質である多様な意見や考え方を引き出しにくい感じがありますし、データ不足や資料不足も考えると、帝国書院の方がいいのではないかと思います。

木村委員

東京書籍と帝国書院で非常に迷っています。Ａ－１の１の項目を見ると、全部「学習のまとめにおいて」という言葉からスタートしていて、結局、どの教科書も「まとめの活動」「まとめと表現」「まとめの学習を振り返ろう」「まとめと振り返り」という形で、まとめて次のところへ移るという形で学びを深めていくのだと思います。

東京書籍は、個人活動に加えてグループ学習の「みんなでチャレンジ」というものがあり、金沢型学習スタイルに沿っているように感じますが、内容としては本当にどちらも甲乙つけ難いです。教科書を見たときは帝国書院がいいのではないかと思っていましたが、東京書籍も良くて、非常に迷っています。どちらの教科書も、また見たいと思う教科書でした。

野口教育長

私も木村委員と全く同じで、どちらがいいか非常に決めかねていました。

金沢型の学習を考えると、東京書籍の方が学習課程がしっかりしていると思います。編でスタートして章があって節があってという組み立ても非常にしっかりしていて、課題設定ができます。来年度から探究をキーワードにして新しいモデルをスタートしようとしている中で、例えば３５ページの下に探究課題が明確に書かれていますが、次のページにいくと、それぞれの時間ごとの学習課程がきちんと設定されています。しかも、問題解決的な形での表現になっています。この章をずっと進めて、例えば１２７ページにいくと、最後に「探究課題を解決しよう」ということで、地球的課題の振り返りをかなりたくさんさせているところが非常に合っているなと思いました。先ほどの田邊委員のお話のように、これが本当に探究なのかという議論もありますが、そういう視点で見ていました。

私は理科の教員だったのですが、理科も含めて恐らくどの教科においても、本文があり、その本文を補完するものが周りの資料なのではないかと思っています。資料から入って本文に入る授業はないだろうと思っています。どちらかというと帝国書院の本文の方が、しっかりとした文章を書かれていると思っています。

最後に、これから金沢の地域課題を大事にしながら探究的な学びを進めていくことになるのですが、東京書籍の方は、２６９ページに「持続可能な地域の在り方」というところがあります。上の方の探究課題も課題解決の表現になっていますし、その後もずっと端的な課題解決になっているのですが、どうもその中身を見ると、本文に対する資料性が弱い感じを受けます。

反面、帝国書院の方は、課題が全て活動型課題になっています。子供たちが１時間で学びを焦点化していくときには問題解決的な課題設定がいいと思っているのですが、トータルで地域の課題というのを探究的な学びをとおして学んでいくという視点で見ていった時には、その様な進め方でもいいのではないかと思っています。社会という教科の特性を考えると、やはり本文があって周りの資料があるということが大事だと思うので、いろいろなコラムなどもありますが、それをトータルしても、今は僅差で帝国書院がいいのではないかと感じています。

それでは、委員の方々の考えを聞かせていただき、金沢は帝国書院を採択するということで意見が合致したかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、地理については帝国書院を採択したいと思います。

○種目「地図」

［地図：説明の概要（選定委員長）］

地図は、２者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目１に関して、例えば「チベット高原から流れ出る川を５本探し、河口までたどってみよう」という、キャラクターによる問いがある。世界の各州や日本の各地方の特色を大まかに捉えることができるように、それぞれの巻末にはキャラクターによる問いが示され、基礎的・基本的な知識を誰もが読み取ることができるよう、問いの質の工夫が見られる。その他、項目５、９においても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、「三つの図を見て大豆の生産地がどのような地域に拡大してきたかを読み取ろう」など、三つのキャラクターの質の異なる問いによって地図や資料を段階的に読み取り、複数の地図や資料を活用することができるように工夫されている。

帝国書院は、Ａ－１の項目３に関して、ヨーロッパ州、オセアニア州、北アメリカ州などの鳥瞰図があり、地域の特色が体感でき、地形だけではなく自然環境や生活、文化、産業などがイラストによって視覚的に分かりやすく、生徒の興味・関心を引き出し、さらに自主的・自発的な学習を促す工夫が見られる。その他、項目５、６、７、８、９についても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２に関して、琉球・沖縄の歴史年表が掲載され、東アジアと日本の交流を表した絵図があり、地理と歴史を関連付けて多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。その他、項目１、３においても優れた内容が見られる。

質疑応答では、「帝国書院の方がＳＤＧｓやさまざまな地球環境問題が出ていて、いろいろな国の環境問題の取り組みなど、多角的に学べる資料がたくさんある」「最近、地図は教室の後ろのロッカーに入れておいて、いろいろな授業でも使えるようにしていることが多い」「地理だけで使うのであれば同じ発行者がいいかもしれないが、公民や歴史でも使うので、発行者が違っていてもいい」という説明があった。

選定委員会からは、「帝国書院の方が多面的・多角的な視点で学習に取り組めるような工夫がある」「東京書籍は、子供たちに考えさせるようなテーマ設定が分かりやすい。一方、帝国書院は、例えば人口に関することが、政策の変化とひも付けられて示されており、今後の学びに必要な内容がある」「帝国書院の方が索引ページが２ページ多く、単なる地名だけでなく名所旧跡、歴史や地理の授業とも結び付くようなものが索引の中に入っている」「各種学力調査などで、複数の資料を読み取って課題について考える・答えるということがあるが、帝国書院はそれによく対応しているのではないか」「帝国書院の方が、他教科での使いやすさ、見やすさがある」「情報が多いと、どこを見ればいいか分からないことがあるが、帝国書院は、例えば南アメリカの細かい地図で詳しい情報を示している一方、南アメリカの鳥瞰図では大切な情報のみを示してあり、興味・関心がもてるようなところもあって良い」という感想・意見があった。

［地図：質疑応答］

櫻吉委員	東京書籍の１０ページ、帝国書院の１６ページで、世界地図を比べてみると、南アメリカの一番南が、東京書籍ではホーン岬、帝国書院ではオルノス岬と記載されています。最近は現地語で表記する流れがあるように思いますが、地図の中を詳しく見ると、帝国書院は、例えばウクライナならキエフとキーウが併記されている一方、東京書籍は一つだけの記載になっているところが多いように思います。これは教える段階ではどちらがいいというのはありますか。
地図調査委員	どちらがいいという話は授業の中ではせずに、こういう現地表現というか表記もあるということを子供たちに伝えます。どちらがいいという言い方はしていません。
櫻吉委員	ただ、ホーン岬とオルノス岬では全然違いますよね。私はホーン岬で習ったので、いつ名前が変わったのだろうと一瞬思ったのですが、今の子供

たちはどう習っているのですか。

地図調査委員　現在は帝国書院を使っているので、帝国書院の表記で伝えています。

櫻吉委員　一昨年、高等学校の地図で、検定を通った教科書にかなり間違いがあるという問題があったと思います。その出版社がこの中に含まれていると思いますが、間違いに関しては、何か目に付くものはありませんか。大丈夫ですか。

地図調査委員　訂正箇所があれば通知が届くので、それを見て子供たちに伝えています。

櫻吉委員　東京書籍の２９ページを見ると、ウクライナの国境が黒海の部分で引かれていません。クリミア半島の所です。この部分の地図は、東京書籍では３カ所に出てきますが、１カ所は国境線が引かれていて、２カ所は引かれていないのです。帝国書院の地図は、全てクリミア半島の所で国境が引かれています。子供たちも注目してそこを見たりするのではないかと思いますが、これは間違いではないのでしょうか。
東京書籍では、ウクライナ周辺の地図が３回出ています。具体的には、２９ページ、４５ページ、４１ページに出ていて、２９ページと４５ページでは国境線がないのですが、４１ページには国境線があります。同じ地図帳の中で、クリミア半島とアゾフ海・黒海の間に国境線があるものとないものがあって、違うように思ったのですけれども。子供たちの中には、気付く子もいるのではないかと思います。

事務局　教科書に修正が入ったら、「ここの記述が誤植でした」などの連絡が必ず教育委員会に入りますが、今のところ、東京書籍からそういう話は来ていません。確かに国境線が引かれていないことは今の話で分かったのですが、そこについて、こちらには何の連絡も来ていない状況です。修正が入るときは、必ず教育委員会に連絡が入り、そこから学校に通知するという形を取っており、これまでもそういうケースはありました。ただ、この箇所については今のところ何も通知は届いていない現状です。

木村委員　他の教科との関連を考えるとしたら、この２者のうち、どちらの方がよろしいでしょうか。

地図調査委員　調査委員の中では、帝国書院の方が歴史や公民に関係する資料が多いという話は出ました。

［地図：審議］

櫻吉委員　地図を選ぶときは、２次元のものをいかに３次元に、立体的に見せられるかということが大切だと思っています。例えば東京書籍の３８ページ、帝国書院の５４ページで、ヨーロッパの立体図を見たときに、東京書籍は海底まで出ているので、そこの部分はイメージしやすいのですが、陸地の部分を見たときには、帝国書院の方が立体視しやすいのではないかと思います。
資料としてはボリュームが多い方が、何か疑問があったときに調べやすいのではないかと思います。今は何でも検索すればすぐに分かる時代ですが、実際に手を動かして自分の知りたいことを見つける経験をたくさんしてほしいと思っていて、そのときには、ある程度ボリュームがある方が良いのではないかと思っています。その点からも、帝国書院の地図が優れているのではないかと思います。

長澤委員　防災に関する記述を比較すると、東京書籍は１３５ページ、１３６ペー

ジの見開きのみですが、帝国書院は（1）（2）という形で、１５９ページから１６２ページまで大変充実しています。特に１６１ページの台風に関する記述では、台風の仕組みや降雨の様子などのデータが出ていますが、帝国書院のこのあたりの資料は、他の教科でも使われたりするのでしょうか。

地図調査委員　台風の仕組みの話がありましたが、線状降水帯や気象災害に関する資料は、現在使っている帝国書院の地図帳にはなく、新たに増えたものです。今の課題に合うように新しく出てきた資料であり、理科と社会のどちらからも学習できる資料だと思います。

長澤委員　帝国書院は、災害にはいろいろなものがあるということを資料から視覚的に訴えているところが優れていると思っています。地震で倒壊した建物や、噴火による火山灰の被害なども写真で示されており、帝国書院の方が優れているのではないかと思っています。

田邊委員　２者を見比べると、どちらも情報が満載で、多様に活用されていくような地図になっていることを改めて理解しました。特に帝国書院は、単に「ここがこういう場所だ」ということのみならず、その土地がどういう場所なのか、ヨーロッパでいうと先ほど櫻吉委員もおっしゃったように、陸地にはどういう文化や民族があったのかということが、東京書籍と比べるとはるかに多く明記されています。また、歴史的な場所や名所旧跡が地図の中にも明記されています。どちらにも明記されているのですが、分量でいうと帝国書院の方がたくさん記述されていて、いろいろな教科と関連させながら理解を深めるような活用のされ方が期待されるつくりになっていると思います。
また、帝国書院は、日本の各地域の話に移る前に８１ページで日本列島が記載されているのですが、東京書籍は、各地域・地方の詳しい地図は載っているものの、全体の鳥瞰図は巻末の１３１ページに、いろいろなものとの関連の中で示されています。いろいろな視点で見比べるとそれぞれの特色が浮かび上がってくると思いますが、地図の活用を広げるようなつくりになっている点では、帝国書院の方が望ましいと思います。

大島委員　私も皆さんの意見とほぼ一致しています。帝国書院がいいのではないかと思っています。自然災害などについて、きめ細やかに記載されていますし、生活・文化・産業についても細かいイラストでうまく表現されていて、非常に使いやすいのではないかと思いますので、帝国書院が良いと思います。

木村委員　私もどちらかといえば帝国書院がいいと思います。まず、同じ大きさなのに見やすいと思いました。それから、東京書籍は、鳥のキャラクターが設定されて学びを深める工夫はあると思いますが、帝国書院を見ると、資料がすごく豊かで、資料を基に学びを深めることができ、とてもいいと思いました。「地図で発見」という問いで、地図と歴史や防災を結び付ける工夫もいろいろなところに見られて、子供たちが興味をもって勉強するのではないかと思いました。

野口教育長　異論はありません。両者を見比べてみても、帝国書院の方が、地理や歴史の分野、他の教科に関係するような資料がたくさん用意されています。元日の能登半島地震の関連でいうと、東京書籍の１４８ページと帝国書院の１６５ページに「宇宙から見た夜の日本列島付近」という写真が載っていますが、東京や名古屋、大阪が明るくて、それと下の地図を見比べると、同じ所に火力発電所などが多いことが一目で分かります。しかし、東京書

籍の地図は、主な発電所や再生エネルギーを利用した発電所の地図が二つに分かれていて、両方を見ないと分かりづらいのですが、帝国書院は一つの日本地図に全部入っていて、しかも色がきちんと分けられていて、発電量の違いもはっきりと分かるという、非常に細かい配慮がされていると思います。

また、東京書籍は１４８ページ、帝国書院だと１６５ページの上に、この資料を使ったときの学習課題が出ているのですが、東京書籍はどの課題を見てもやはり活動型なのです。それに対して帝国書院は問題解決的な課題設定がされていて、どのように物事を考え、最後に自分の考えに結び付けるといいかということが、非常に明確になっています。どちらを手元に置きたいかというと、やはり私は帝国書院の方がいいと思います。

最後に索引ですが、これまでは３色程度だったのが、今回、帝国書院では緑色が加わりました。史跡的なものの色が加わっていて、歴史に使えると思いますし、こういう点も非常に細かい配慮だと思います。従って、私もどちらかというと東京書籍ではなく帝国書院がいいと思います。

ということで、全会一致で帝国書院でよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、地図については帝国書院で決定したいと思います。

本日予定しておりました４種目の審議が終了しました。最後に確認させていただきます。音楽一般については教育芸術社、音楽器楽については教育芸術社、地理については帝国書院、地図については帝国書院を採択することに決めたいと思います。よろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　ありがとうございます。

次回は、８月６日（火）１６時から、この会場において、技術、家庭、数学の３種目の審議を行いたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

以上をもちまして本日の審議を終了します。ありがとうございました。

以　上

令和６年　第７回教育委員会定例会議　会議録（第２回）

１　日　時　　令和６年８月６日（火）
　　開会　　１６時００分
　　閉会　　１８時００分

２　会　場　金沢市役所　第二本庁舎　２階　２２０１会議室

３　出席委員（５名）

教育委員長	野口　弘
教育委員	田邊俊治
〃	大島淳光
〃	木村陽子
〃	櫻吉啓介

４　欠席委員（２名）

教育委員	丸山章子
〃	長澤裕子

事務局

教育次長	堀場喜一郎
担当次長（兼）学校指導課長	貞廣賢了
学校指導課担当課長（兼）課長補佐	小川隆庸
学校指導課主席指導主事	古川雄次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

委員長	松原道男
副委員長	伊藤伸也

教科用図書調査委員

５　案　件
非　　議案第３１号　令和７年度使用中学校教科用図書の採択について　　（学校指導課）

６　議事の経過等　　以下のとおり
議案第３１号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、技術、家庭、数学について採択を行った。

［案件の説明及び諸報告について］
案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

［主な質疑・応答の内容について］
○ 議案第３１号 令和７年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）
○種目「技術」
［技術：説明の概要（選定委員長）］
技術は、３者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見

等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目１に関して、基本的な知識や技能の習得に関する内容が優れており、例えば「材料と加工の技術」の分野で、問題解決のために技術の原理・原則や基本的な技術の仕組みを「技術のとびら」に、身に付ける必要のある技能を「ＴＥＣＨＬａｂ」にまとめ、取り組む課題に応じて習得した技術を適切に選択できるように工夫されている。また、図の掲載により、科学的な思考に基づく知識が習得できるよう工夫されている。その他、項目２、５、６、７、８において特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目４に関して、「すごいぞ！技術」では、持続可能な社会の構築に向けて情報技術の活用例が具体的に掲載され、ＡＩやメタバース、防災教育など、他教科とのつながりのある内容が充実している。さまざまな技術によって社会を豊かにしようと活躍している方々の具体例を知ることで、子供たちの積極的な学びにつながると考えられる。

教育図書は、Ａ－１の項目３関して、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるようになっている点が優れている。例えば、生物育成の分野で、問題解決する手順が丁寧に掲載されている。特に４コマ漫画で計画・実行・評価・改善のプロセスが具体的に示され、会話式になっており、生徒たちが自主的・自発的に取り組めるよう配慮されている。また、「なぜだろう」で改善の視点が、「考えてみよう」で次の改善点や新たな視点が明記され、未来に向けてより具体的に考える機会がもてるように工夫されている。その他、項目４においても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、ペットボトルを例に、製品に込められた工夫を調べ考えることで、生活や社会からの要求や安全性、環境負荷の軽減、経済性など、社会的・環境的・経済的な視点で技術を評価し、活用する能力を育成できるように工夫されている。その他、項目２においても特に優れた内容が見られる。

開隆堂は、Ａ－１の項目９に関して、「金沢型学習スタイル」に基づいた学習ができるようになっている点が優れている。問題解決の振り返りシートで成果の発表や自己評価、相互評価を行うなどの言語活動を充実させ、言語能力を養えるように工夫されている。また、最適化やトレードオフの観点から、自分がどの内容を重視しているかを記入し、作品をより良くするためにどのように考えるのか、基礎を深める手立てとなっている。その他、項目１においても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、これからの技術についての活用事例が具体的に数多く取り上げられており、３Ｄプリンターなど、将来的にも技術に関心や課題意識をもてるように工夫されている。未来に向けて、新しい材料や技術がどのようなものかという問題提起もあり、未来の在り方について他者と考えるような手立てになっている。

質疑応答で述べられた意見は以下のとおり（調査委員長のコメントも含む）。

思考する内容の工夫について、「東京書籍は、実際に自分たちが考えたり取り組んだりすることで、自分たちの思考を広げたり深めたりできる点で評価できる。教育図書、開隆堂は、実際の課題は出ているものの、それを深めたりする部分が少し弱いと評価した」。

各者の「金沢型学習スタイル」に基づく問題解決に関する学習展開について、「東京書籍は『問題の発見と課題の設定』で学習課題が示され、課題を設定し、最終的に『まとめ』をし、そして『振り返ろう』という構造になっている。教育図書は漫画で分かりやすく説明し、基本的には『めあて』があり、『学ぶ』というところで問題解決の流れを示し、実行し、最後に『振り返る』という形で構成されている。開隆堂は、学習課題、問題を解決するための手順、そして原理・原則を技術の仕組みとして捉え、最後にそれらについて調べ、まとめを行うという形で構成されている」。

各教科との関連について、「教育図書では『学ぶ』というところの『電気回路のしくみ』で『中学校・理科』との関連が見られる」。

Ａ－１の項目８の金沢ベーシックカリキュラムに関する各者の違いについて、「東京書籍は、コンピュータを利用した防災に関わる内容が非常に詳しく工夫されている。開隆堂は、環境や共生

に関する内容はあるが、金沢市のベーシックカリキュラムの内容はやや弱かった」。

道具の使い方や安全性について、「３者とも安全マークがあるが、開隆堂では、今使っているコンピュータやスマートフォンなどを使うときの注意事項についても述べている」。

ＡＩの扱いについて、「教育図書は、今後の社会の発展の中で情報技術がどのように扱われるようになるかなど、ＡＩについて２ページほどの内容がある。東京書籍は、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０の内容が見開きになっており、ＳＤＧｓの内容についても２ページほどある。開隆堂は、２ページほどで四つの領域に関連した内容が述べられている」。

これからの科学技術でわくわくできるような内容について、「東京書籍は『すごいぞ！技術』で、例えば洋上風力発電について紹介している。教育図書は過去からの技術、そして現代、その先までどういう技術がつくられているのかという製作者の思いがある。開隆堂は、四つの領域の融合で何ができるのかということを紹介している」。

その他、「東京書籍がこれからの防災やＡＩなど、いろいろなことについて詳しく書かれているのではないか」「どの教科書を見ても、工業系へ進む子供には後押しになり、十分であるが、他教科との兼ね合いでいうと東京書籍などは丁寧に書いてある」「情報モラルを取り扱った項目は東京書籍が一番分かりやすかった」「ものづくり大国日本において、工業高校への進学は少ない。ものづくりをするに際して、最も適した教科書を採択できれば良い」「技術分野は、持続可能な社会の構築を考えることのできる分野で、技術を使いこなすだけではなく、子供たちの興味・関心が技術をつくる能力へと広がっていき、ＡＩをどう使いこなすかということまで考えてくれれば良いのではないか」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に３者のうち東京書籍と教育図書が高く評価された。

［技術：質疑応答］

櫻吉委員	技術は、知識の部分と実技の部分が含まれていると思うのですが、教科書の内容については、全てのことを網羅的に３年間で行うものなのか、選択的に授業を行っていくものなのかを教えていただけますか。
技術調査委員	教科書の内容を全て行うことは時間の都合上できないので、学習指導要領に出ている押さえるべきポイントを教師サイドで図りながら、取捨選択して授業を行っています。
櫻吉委員	では、教科書のボリュームとしては、なるべく大きい方が選びやすいのでしょうか。それとも、情報量が少ない方がかえって選びやすいですか。
技術調査委員	題材の種類が多い方が、地域性や地域の実情に合わせて選択できると思いますので、教科書の厚さというよりも、題材の種類が豊富な方が良いのではないかと考えます。
櫻吉委員	そういう点からいくと、３者で差はありますか。
技術調査委員	はい。題材の種類でいきますと、開隆堂がたくさん載っていると思います。ただ、それ以外の、知識・技能を身に付ける上での教科書の配列や中身については、別のところが良いという意見が調査委員会で出ています。
大島委員	各者とも二次元コードをうまく使い、製作動画やインタビュー動画などの工夫をされていると思うのですが、実際の授業の中では、その動画を教科書と合わせて使うのか、あるいは補足のような感じで使うのか、その使い方についてお聞かせいただきたいと思います。
技術調査委員	二次元コードが各者とも載っていると思いますが、主体的な学習という

ことを考えると、生徒自身が二次元コードを１人１台端末で読み込み、自分でやってみるということも、今後は大事ではないかと考えています。

大島委員　そういった意味では３者それぞれ工夫されているのですが、どこが優位性が高いということがもしあれば、教えていただけますか。

技術調査委員　二次元コードを見ると、教科書の中身をそのまま映しているところもありますし、例えば実際に材料を切っている動画が出てくるところもあります。そういう点で、二次元コードについては各者、差が見られます。

田邊委員　技術の教科書を見ると、実技についてかなり詳しく書かれていて、授業においては実習の時間がかなりの比重を占めている印象があるのですが、どうでしょうか。

技術調査委員　全体を１０とした場合に、実習の時間が６か７ぐらいはあるのではないかと思います。ただし、全体の時間が少ないので、取捨選択をしながら授業をしています。

田邊委員　実技が６割、７割ぐらいを占めるとすれば、実技をする上での進め方や留意点が丁寧に記載されているものが教科書としてはふさわしい気がするのですが、例えば「スキルアシスト」のような分冊があると使いやすいのか、そのあたりはいかがですか。

技術調査委員　教育図書には分冊の「スキルアシスト」がありますが、他の２者についても、教科書の内容で十分対応できるのではないかと思われます。

田邊委員　授業で使いこなすときに、教科書を扱うより、分冊でいつも携えられるものの方が、ひもときやすいように思いますが、あまりそういうことには、とらわれないということですか。

技術調査委員　はい。そういう話は特に調査委員会の中では出ておりませんでした。

木村委員　教育図書の「未来のテクノロジー」のように、単元ごとに記入するページがある教科書と、ちょっと書き入れる教科書とがあるのですが、これは授業の中ではどのように使われるのでしょうか。

技術調査委員　恐らくＳＤＧｓの観点などについてお話しになったのではないかと思いますが、実は全者ともＳＤＧｓの観点を教科書に取り入れています。ただし、より詳しく書かれているのは東京書籍で、教科書の一部にもマークを記して、こういうことを考える手立てが示されているという話が調査委員会の中ではありました。

木村委員　子供たちが未来に向けた技術の改良・応用としてどういうことを書いてくれるのかすごく見たい気がして、この教科書がいいのではないかと思っていました。
情報社会がどんどん進んでいて、これからもさらに変わっていくのではないかと思うのですが、Ａ－２の「情報の技術に関する事項」に関して、各者の違いについて教えていただけますか。

技術調査委員　今、一番大事なことは、これからの情報の在り方、機器の在り方ですが、最終的には、ＡＩを今後どのように活用するか、データサイエンスの部分がどのように示されているかということがとても重要になるのではないかと思います。併せて、ある学校では３Ｄプリンターも導入されていると聞

いていますので、そういう分野も含めて、新しいものが発明されたときに、どのように活用していくか、それがどのように自分の生活に関わるものなのかということを考えさせられればいいのではないかと考えています。

野口教育長　採用される教科書を使って次年度から授業をスタートするわけですが、同時に、来年度から新しい金沢型学校教育モデルがスタートする中で、探究ということを意識しないといけません。また、技術というと、プログラミング学習が避けて通れません。そのような点で教科書を眺めたときに、私は東京書籍がいいのではないかと思っているのですが、調査委員会の中では、その２点の視点から見て何か優劣はあったでしょうか。

技術調査委員　プログラミングは小学校から導入されており、非常に重要な分野と捉えています。小学校ではＳｃｒａｔｃｈという教材を用いていますが、Ｓｃｒａｔｃｈを扱っている発行者としては、東京書籍がかなりたくさんのレパートリーを紹介しているのではないかと思います。教科書の２２２ページ、２２３ページにありますし、それ以外の場所にも幾つかＳｃｒａｔｃｈを使っているところがあります。

［技術：審議］

野口教育長　選定委員会で評価が高かったのは東京書籍と教育図書ですが、開隆堂を推したい方はいらっしゃいますか。選定委員会の調査を大事にして、２者で審議を進めてよろしいでしょうか。皆さん、うなずいていらっしゃいますので、東京書籍と教育図書について審議させていただきます。

櫻吉委員　技術は、いかに実生活に直結したものを意識させるかということが大切だと思います。そういう観点で見ると、人にスポットを当てたコラム的なものは、どの教科書もかなり工夫して出してあると思います。東京書籍は「技術の匠」、教育出版は「技ビト」です。農産物の販売でも、作った人はこの人ですというと、すごく身近に感じることができるのと同じように、人が見えると、それに対するバックグラウンドが具体的にイメージできるのではないかと思います。そういう部分が東京書籍にはかなり散りばめられていて、一つ一つに興味をもちやすいのではないかと思いました。
また、東京書籍は、学習課題が「何々ができるだろうか」「何だろう」という疑問形です。他の者は「やってみよう」「何々をまとめよう」という形になっているので、Ｑに対するＡを学習で出すという部分が東京書籍は優れていると思いますし、金沢型にも合っていると思いました。

野口教育長　櫻吉委員のお考えでは、東京書籍が金沢型に合っているし、生徒の興味・関心をしっかりと担保できている教科書ではないかということでよろしいですか。

櫻吉委員　はい。

田邊委員　実技の時間が多いということからで、実技を進める上でしっかりとした叙述が教科書にあり、多様な知見を得ることが大事だと思います。叙述の仕方を見ると、やはり東京書籍の方が写真等を活用しながら作られている点で、教育図書と比べると一歩優れているのではないかと思います。各領域を見ても、これからの時代を見据えた情報教育という、技術で最も扱うべき内容に関して、読み比べてみると圧倒的に情報量が多く、先ほど言われたＳｃｒａｔｃｈ等のことも丁寧に叙述されている印象があるので、東京書籍の方が本市の技術の教科書としてふさわしいのではないかと思います。

大島委員　私も結論から申し上げると東京書籍がいいのではないかと思います。教育図書も工夫されているものの、東京書籍の方が、防災への取り組みやＡＩ、情報モラルなど、これからの社会の課題についても非常に分かりやすく表現されており、総合的な観点から東京書籍がいいのではないかと思います。

木村委員　３者それぞれに良いところがあると思いますが、東京書籍は巻頭の「技術分野のガイダンス」がとても良いです。中学校に入って初めて技術の授業があると思いますが、先が見通せるといいますか、こういう考え方で進めていくということがとても分かりやすいと思いました。それから、これからの持続可能な社会のためにということに基づいて、問題解決例が細かく書いてあると思いました。櫻吉委員もおっしゃいましたが、「技術の匠」のコメントもそれぞれ細かく書いてあり、親しみをもって学べるのではないかと思いました。いろいろな工夫の総合点で、やはり東京書籍がいいのではないかと思いました。

野口教育長　本日は４人の教育委員にご出席いただいていますが、４人とも東京書籍がいいのではないかということでした。私も結論から言うと、東京書籍が一番まとまっているという感じを受けています。評価した内容についてメモが多く残っているのも東京書籍です。特に、子供たちが学び終わった後にまとめをしていく段階のところで、「学習したことを確かめよう」「考えを深める」、そして「生活に生かそう」という内容があり、それらをきちんと表現させることで、思考力・判断力・表現力の育成がしっかりと担保されているところが東京書籍は優れていると思います。櫻吉委員もおっしゃいましたが、金沢は問題解決的な学びをこれまで大事にしてきており、加えて、これからは探究的な学びを意識していくことを考えると、そういうことを大事にしている発行者を選ぶことがいいと思います。金沢の子供たちの将来を考えると、私も東京書籍がいいのではないかと思います。

事務局　長澤教育委員からは、技術の教科書について、「東京書籍のガイダンスがとても良い。１６ページ以下の『技術の見方・考え方』においては、具体的な技術を例に取りながら、多面的な視点から検証すること、そのバランスを取ることの必要性が分かりやすく説明されていることから、学ぶ目標や指針が明確となっている。東京書籍の方が、教育図書や開隆堂と比べて良いのではないか」という意見を頂いています。

野口教育長　丸山委員は現在オリンピックのため、パリにおられ、なかなか教科書を全部読むことは難しいと考えます。長澤委員のご意見も頂戴しており、６人の意見が一致しましたので、東京書籍を採択する方向でよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　調査委員長、この後、家庭科を審議いたしますが、技術の教科書と家庭の教科書の発行者が違っても、学校の学びとしては問題ないでしょうか。

技術調査委員　はい。学びとしては問題ないと思います。ただし、教科書の構成の仕方が各者によって違いますので、教科書の発行者が違った場合は、進め方については、技術と家庭で、それぞれの担当の教員が話し合うことが大切ではないかと思います。

野口教育長　ありがとうございます。家庭の調査委員長にも同じことを伺って審議に進みたいと思います。

○種目「家庭」

［家庭：説明の概要（選定委員長）］

家庭は、３者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目６に関して、系統的に学習を進めていく構成が優れている。例えばガイダンスと家庭の仕事や家族の機能等に関する内容を扱う学習を「１編」に、高等学校や社会へつながる内容を扱う学習を「６編」に構成しており、３学年間の学習にストーリー性を持たせて組み立てている。免許外の先生方にも扱いやすい内容となっている。その他、項目１、２、５、９において特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目６に関して、実習の手順が大変分かりやすく示されており、「ぶた肉のしょうが焼き」の調理手順を２ページにわたり横の流れで分かりやすく示している。主菜と組み合わせる副菜の調理についても同ページに記載し、献立としてイメージができるようになっている。写真も鮮明なものを扱っており、生徒の「作ってみたい」という意欲付けに効果的と考えられる。調理上のポイントや火加減なども色やイラストを工夫して分かりやすく示されている点が大変優れている。その他、項目５、７、８、９、１１においても特に優れた内容が見られる。

教育図書は、Ａ－１の項目２に関して、基礎的・基本的な内容の学習から主体的に学習内容を深められるように、「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」などの活動が具体的に示されている。家族との関係について考える活動について、小学生のときと比べて考えることや、他の人の家にショートステイしたらどうかを考えるなど、具体的に示されている。その他、項目３、４、７においても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目５に関して、食品の概量として、１回に食べやすい分量や調理しやすい分量が分かりやすく示されている点が優れている。例えば、各食品群の食品の概量が写真を用いて分かりやすく示されている。また、実際の食品の大きさと同サイズの写真の掲載により、食品をイメージし、より実践につなぎやすいものとなっている点も優れている。その他、項目１、４においても優れた内容が見られる。

開隆堂は、Ａ－１の項目７に関して、実物大の写真やイラストなどで、学習内容を視覚的にイメージしやすく工夫されている点が優れている。例えば、体内の食べ物の変化がより分かりやすくイラストで示されている。また、野菜の切り方について、写真を用いて切り方の過程も分かりやすく示されている。その他、項目２、３、４、５、６、９においても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目８に関して、布を用いた作品例として、学校生活や非常時に備えた作品例が取り上げられている。衣服をリメイクした製作例も取り上げられており、持続可能な衣生活を目指した工夫も盛り込まれている点が優れている。その他、項目２、３、４、６、９、１０、１２においても特に優れた内容が見られる。

選定委員会での質疑応答の内容は以下のとおり。

食文化や衣生活の金沢らしさの違いについて、「東京書籍は雪止めや加賀友禅、かぶら寿し、教育図書は加賀太きゅうりや治部煮の記載がある。開隆堂は、郷土料理の記載もあるが、制服のリユースという金沢市の取組が他の教科書よりも多めに記載されている」。

金沢ベーシックカリキュラムについて、「東京書籍の『１編』から『６編』の構成の仕方が他者と比較して特徴があって良い」。

災害時に対する内容について、「東京書籍は『安全な住まい方』として『中高生が被災時にできたこと』『避難所や仮設住宅での暮らしをよりよくする工夫』など、考えさせられるような例が載っている。また、巻末の資料に災害に備える工夫があり、『防災・減災手帳』が二次元コードで読み取れるようになっている。教育図書は、住まいの自然災害への備えでイラストが多く使われていて、必要な備えや避難の備えも記載されている。開隆堂は、ハザードマップや『私たちの防災』

といった資料も多く掲載されている。平常時の備え、災害発生時の対応等、記載されているページが多く、その関連の資料としてリンクしている二次元コードもある」。

手縫いなどの技能面について、「東京書籍は、色が見やすく写真も使われており、失敗例なども載っているので参考になる。教育図書は、写真もあるが説明等も入れて、ミシン縫いの途中でほつれたときなどにどうすればよいかという補足もある。開隆堂はポイントの説明があり、ボタン付けなども横から見たものが載っている」。

イラストや写真や動画の違いについて、「各者で扱っている『ぶた肉のしょうが焼き』を例に比較すると、「東京書籍は写真が鮮明で、２ページを使い、流す方法やポイント、副菜などの組み合わせが見やすくなっている。教育図書は失敗例が載っていて、どうしてこうなったのだろうというところから考えさせ、食材の働きなども載っている。開隆堂は『調理方法のＱ＆Ａ』が調理手順の下に載っていて、例えば『なぜフライパンを熱してから油を入れるのか』や、組み合わせ例、配膳例なども１ページの中で確認できる」。

幼児との触れ合い体験について、「東京書籍は写真を多く使い、幼児の施設に行って体験するだけでなく、中学校に招く、オンラインで交流するといった紹介もある。教育図書は、触れ合い方のポイントなどが細かくきれいに載っている。開隆堂は、行事、園に行って交流する、学校に招待してみよう、オンライン、子育て支援センターや子育てサークルに行ってみようなど、バラエティに富んだ紹介がある」。

免許外の先生が扱いやすい点について、「東京書籍は、慣れていない先生でもページに従って進めやすい内容になっている。教育図書は、思考力や判断力を身に付けるページが多く、具体的に書いてあり、専門的な内容も詳しく書いてあるため授業を進めやすい。開隆堂は、ガイダンスで『話し合ってみよう』『やってみよう』といったページもあり、考えさせるところは扱いやすい。写真やイラストも多いので、資料などを自分で準備しなくても教科書に沿って進めやすい」。

技術分野と家庭分野の発行者について、調査委員長からは、「今までは技術と家庭で同じ発行者だったので違う場合のイメージは難しいが、技術と家庭では学習内容も進め方も違うので、違っていても先生の力で進められる」というコメントがあった。

その他、「東京書籍はベーシックなもので、まさに１家に１冊あってもいいのではないかと思う」「教育図書はこれからの消費活動において子供たちに知ってもらいたいことのボリュームがあり分かりやすい」「開隆堂はガイダンスが分かりやすい。多様な個人の考えや生活様式といった点にも触れていて、これからの部分は開隆堂がいいと思うが、一般的な部分は東京書籍の方がいい」「開隆堂の教科書の中には、自己肯定感を取り扱う項目や、ヤングケアラーに関するページもあり、社会課題や考えてほしいテーマに触れている」「写真や二次元コードでの動画も出てきているが、写真を見て本当にやってみたいと思えたり、実際にやりやすい表現がされている教科書がいい」「家庭分野の教科書は、健康の一番の基になる食生活の充実が教科書１冊で網羅できている」「基礎・基本に忠実で、生活の営みがきちんと載っている教科書で子供を指導できるといい」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に３者のうち東京書籍と開隆堂が高く評価された。

［家庭：質疑応答］

野口教育長	技術の教科書が東京書籍に決まりましたが、家庭科については同じ者でなくても構いません。そのことも踏まえて審議を進めたいと思います。まず質問があればお願いします。
木村委員	３者とも幼児との生活について書いてありますが、東京書籍は食生活から入って最後に幼児のことが書いてあり、開隆堂と教育図書は幼児のことが先に書いてあります。授業を進めていく上で、例えば体験などをするのであれば、先に載っている方がいいのか、後でもいいのか教えていただけますか。

家庭調査委員　家庭科の題材は、１年生でこれをしなくてはいけない、２年生でこれをしなくてはいけないということではなく、３年間でどのように配置するかということが各学校に任されており、学校の実情に応じて配置しています。金沢市の場合は金沢ベーシックカリキュラムによって統一されており、「１編」の最初にガイダンスを行い、その後、自立というところの家族と家庭生活の内容に触れてから食生活の内容に入ります。食生活の自立を１年生で学んでから、幼児との触れ合いなど、幼児の学習に入っていくという流れです。ですから、教科書を最初から進めるというよりは、今も飛び飛びで扱っているので、配置が違っていても大丈夫だと思います。

木村委員　最初のページから順番にいくわけではないということですね。分かりました。

大島委員　先ほどの技術と同様、家庭分野においても授業の中で実習が出てくると思います。全体のコマ数自体が少ないのだと思いますが、全体の授業の中で実習はどれぐらいの割合を占めるのですか。

家庭調査委員　実習に関しては、調理実習、被服実習、幼児との触れ合いが主になります。それ以外に、学校によっては１時間単位で単発の実験等も設定しますが、やはり全体の時間数が限られる中で、その半分も取れないと思います。ただ、１時間の座学の授業の中でも、問題解決学習として映像を見てグループワークをしたり、ロールプレイングをしたりという体験学習は必ず取り入れています。皆さんがイメージする調理実習や、それ以外の体験学習も含めると、ほぼ毎時間取り入れていると思います。

田邊委員　家庭の教科書を見ると、豆知識や生活メモなど、脚注にすごくたくさん盛りこまれていますが、これは役立つものでしょうか。

家庭調査委員　各教科書の下にある豆知識や生活メモは、学習指導要領に載っている知識・技能から、もう少し深めた追加の内容になります。このあたりについては、各授業者が学校の実情に合わせて扱う内容を考えるときの参考になると思いますし、授業で扱っていなくても、生徒が「この内容にこんなことが関係あるのだ」と、まさに豆知識を得る手がかりになるのではないかと思います。

田邊委員　知識を広げたり、つかんだり、主体的に学ぶきっかけになるのでしょうか。

家庭調査委員　はい。

［家庭：審議］

櫻吉委員　先ほどの技術でも同じことを言いましたが、東京書籍は見開きで見たときに、学習課題が疑問形で、それに答える形になっているので、教科書の体裁としては東京書籍が優れていると思います。

ただ、少し気になったことがあります。教科書に書かれていることは授業で取り上げられる可能性があると思いますが、教科書に書かれていないことは授業で取り上げることはないだろうという観点で、児童の権利の部分を見比べていただきたいのです。開隆堂は７４～７５ページ、教育図書は６４～６５ページ、東京書籍は２５６～２５７ページに子供の権利について出ていますが、東京書籍だけが虐待を取り扱っていません。開隆堂と教育図書では虐待について説明されています。世の中でこれだけ虐待の問題がいわれている中で、就業者の８人に１人が医療従事者といわれていて、

その人たちや教育関係者は絶対に虐待に関する知識をもっていないといけないと思うのですが、将来そういう職に就くであろう子たちに虐待に関する授業が全くないのかという不安感があります。
また、ヤングケアラーや里親など、家族の多様性の記載があるのは開隆堂だけだったと思います。非常にボリュームが多いので、たくさん書いてあると言えばそれまでなのですが、そういう部分を取り上げている点からすると、過不足なく書かれているのは開隆堂ではないかと思います。優劣つけ難いのですが、そこが非常に気になりました。

野口教育長　どちらでもいいですか。

櫻吉委員　どちらでもいいです。

田邊委員　私も東京書籍と開隆堂は甲乙つけ難い印象を持ちました。今ご指摘がありましたように、家族を巡る状況は家庭科で扱う本丸の一つだと思いますが、非常に複雑化しつつあり、子供自身の家庭環境もさまざまだと思います。こういうことを家庭科の中で議論したり扱ったりする機会が大事ということであれば、開隆堂の方が今日的な家族を巡る事柄について扱われているので、学びの大きなきっかけになる気がします。
調理の話題にしても、被服の話題にしても、どうしても甲乙つけ難い気がしますが、中学生なりに家族について考えるきっかけを呼び起こす意味では、開隆堂の方がそのあたりを意識して取り上げている気がして、学びの大きなきっかけを提供している気がするので、そういう点では開隆堂の方がいいという感触をもちます。

大島委員　私は結論から言うと東京書籍がいいと思います。開隆堂も、教育関係ではない人間から見ても非常に写真が多く、表現がうまく、これを見ながらだと実習もやりやすい気がしますが、金沢ベーシックカリキュラムの面や扱いやすさ、金沢の子供たちに対してということを総合的に考えると、東京書籍の方が良いのではないかと思います。

木村委員　私も東京書籍か開隆堂のどちらかだと思っていて、それぞれに特徴はあるのですが、どちらか選べと言われたら開隆堂だと思いました。持続可能な食生活・衣生活・住生活について、丁寧に書いてあるのは開隆堂だと思いましたし、消費生活についてもＡ－２の項目１２において、開隆堂の方が優れていることが報告書からうかがえますし、２４０ページからの特設ページで災害に備えた事例などもありますし、伝統文化マークがあって、日本の伝統、独自の文化に子供たちが気付けるように考慮されているので、私なら開隆堂の教科書で勉強したいと思いました。

事務局　長澤委員からは、「先ほどの技術分野と同様に、家庭分野についても知識の習得ばかりに目が行きがちであることから、学ぶ目標や指針が明確とされていることが望ましいと考える。その視点に立ったときに、家庭科については、開隆堂では１０ページのガイダンスにおいて『自立と共生』について深い思考を展開できるようになっている。家庭分野を学ぶ目標・指針が明確となっており、こちらの方が望ましいのではないか」というご意見を頂いています。

野口教育長　教育委員の方々から頂いた意見としては、選定委員会の説明にもありましたように、開隆堂か東京書籍ということで一致しています。そして、それぞれ意見を頂戴した中では、どちらかというと開隆堂という意見が多かった感じを受けていますが、皆さん、甲乙つけ難い部分があるということでした。

私はどちらかというと開隆堂だと思っています。今まさにこの時代を生きている子供たちが、これからを見据えて考えないといけないことが、開隆堂の方には豊富にある感じを受けています。特に今年１月１日に能登半島地震がありましたが、震災をどう乗り越えていくかという内容や、金沢市も大事にしているハザードマップの使い方など、様々なことの情報量が開隆堂の方が多いと思っています。

また、開隆堂の教科書の１７７ページのまとめのところにキュウリのことが出てきます。折れ曲がっているキュウリと、真っすぐ伸びているキュウリについて考えさせているのです。こういう消費の部分も大事にしなければいけない部分で、細かいところまできちんと配慮されていると感じました。

また、１０４～１０５ページの「食べ物が体の中でどうなるのか見てみよう」というのは、ダイナミックなページの使い方をしていて、見ていてすごく楽しくなります。

４２～４３ページには、「子どもの成長を見てみよう」ということで、足形・手形の絵が実物大で出てきます。ページの無駄遣いではないか、なかなか教科書でここまでやらないだろうと思いながらも、すごく好感をもてます。

問題解決的な課題の設定については東京書籍と開隆堂で大した差はないと思いますが、開隆堂の方が、生徒が関心をもてるような内容が多いと思います。あとはほとんど甲乙つけ難いのですが、どちらか選べと言われたら私は開隆堂だと思っています。

皆さんにご意見を出していただいて、現状では開隆堂というご意見の方が多いと思いますが、大島委員はいかがでしょうか。

大島委員　どちらもいい面があり、本当に甲乙つけ難いのですが、金沢にとってどうかという点でいうと、東京書籍の方がいいのではないかと思っていました。ただ、皆さんの意見を総合すると、本当にどちらで学んでも特に問題はないと思いますし、開隆堂でもよろしいと思います。

野口教育長　それでは、大島委員のご意見も頂戴しましたので、家庭分野については開隆堂で決定してもよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、家庭分野については開隆堂に決定したいと思います。

○種目「数学」

［数学：説明の概要（選定副委員長）］

数学は、７者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目３について、生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるよう大変工夫されている。例えば、導入部分で学習する目標が明確に記述されていたり、導入動画が準備されていたり、ストーリー性のある題材が扱われている。その他、項目１、２、５、８、９で優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目３について、例えば、比例と反比例の利用の導入では、待ち時間を予想するという身の回りの生活に即した題材が用いられている。他の内容でも、飲み物がいつまで冷たさを保てるか、自動車の制動距離はどれだけかなどの題材が用いられている。このように生活に密着した題材や、イラストや導入動画を用いて、主体的に生徒が学習に取り組めるよう、大変工夫されている。その他、項目１、２、４で優れた内容が見られる。

大日本図書は、Ａ－１の項目９について、一連の活動が多く設定されており、生徒がこれまで

の学習を生かして自分の考えを伝え合いながら学習を深めていくことができるよう工夫されている。その他、項目３、６で優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２について、図形の証明についてその仕組みをフローチャートで示し、穴埋めで書き方を習得できるよう配慮されている。また、身の回りの課題から生徒が主体的に考えを深められるよう、題材が工夫されている。

学校図書は、Ａ－１の項目６について、系統的・発展的に学ぶことができるよう工夫されている。各章の冒頭に振り返りのページが設けられ、既習内容を詳細に確認することができる。また、高等学校の学習につながる内容が取り入れられている。

Ａ－２の項目１について、教科書の随所にキャラクターの吹き出しで考えるきっかけが明確に示されていたり、誤答例を考察する記述が見られたりと、生徒の理解を促し、基礎・基本の確実な定着が図られるよう工夫されている。

教育出版は、Ａ－１の項目６について、既習事項と関連付けながら理解できるよう工夫されている。各章の前のページに、関連する内容の復習問題が用意されている。さらに、「学びのマップ」として既習内容が系統的に示されている。また、発展として、高等学校と関連した内容が多く取り上げられている。

Ａ－２の項目４について、例えば「冬日は本当に減っているのかな」という地球温暖化に関連した題材が取り扱われており、生徒の興味・関心を高め、主体的にデータを考察しながら学習を進められるよう工夫されている。

啓林館は、Ａ－１の項目２について、生徒が互いに説明し合ったり話し合ったりする中で表現力が身に付くよう図られている。教科書の随所に「説明しよう」「話し合おう」の記載がある。また、数学的な見方・考え方の充実が図られている。「すでに学んだ形にする」など、大切な数学的な考え方が教科書の随所に明記されている。これ以外にも、項目７で優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１について、例えば、方程式を立てる際の一般的な手順を示すとともに、図や言葉の式を用いて数量を文字で表すまでが丁寧に記載されており、基礎的・基本的な内容の理解が促されるよう工夫されている。

数研出版は、Ａ－１の項目１について、知識や技能が確実に定着するよう図られている。「ふりかえり」として既習内容が明記されていたり、「Ｎｏｔｅ」として注意点が書かれていたり、教科書の随所に既習内容やノートをとる際の具体的な注意点が示されている。その他、項目６で優れた内容がある。

Ａ－２の項目２について、作図の学習に生徒が興味・関心をもって取り組めるような題材を扱い、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう工夫されている。また、生活に即した題材を取り上げ、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。その他、項目４で優れた内容が見られる。

日本文教出版は、Ａ－１の項目６について、系統的・発展的に学習ができるよう構成・配列されている。各章の前の「次の章を学ぶ前に」で、関連する既習内容を復習する問題が設けられている。「やってみよう」や巻末の「数学研究室」の部分で、発展として、高等学校での学習内容を多く取り上げている。

Ａ－２の項目２について、図形の証明についての思考の手順や過程がフローチャートや穴埋めなどを用いて分かりやすく示されており、生徒が主体的に学びを深められるよう工夫されている。

選定委員会での質疑応答では、「生徒の主体的・自発的な学習へのつながりについて、東京書籍で導入等がよく工夫されており、大日本図書、数研出版、日本文教出版でも工夫が見られる」「高等学校とのつながりの記載については、どの者も似たようなところである」「数学の事象について、思考力・判断力・表現力等を育むという観点では、啓林館や東京書籍の題材が良いのではないか」という説明があった。

二次元コードについては、「東京書籍では導入動画やアニメーションに加え、対話シートが準備されていて、生徒が自分の考えをそのシートに書き込んで学び合う協働的な学びができるよう工夫されている。啓林館でも似たようなものが付いている」「事象の変化の様子が目に見えて分かる

教材としては、関数$y=ax^2$の放物線に関する教材や、四角形の各辺の中点を結んで平行四辺形になることについての教材などが東京書籍と啓林館には付いている」という説明があった。

習熟度別に教師や子供たちがより学びやすいものとしては、「東京書籍の『クイックチェック』やハートマークの記載が優れている」という説明があった。

数学的な見方・考え方については、「発行者によって巻頭や巻末にまとめて記載している教科書や、折り込みになっている教科書があるが、その使いやすさについては各者ともうまく配慮されており、大きな差は見られない」という説明があった。

その他、「単元の導入段階で、生徒が学びやすく、かつ、生徒のつまずきという観点で工夫されている教科書としては、東京書籍が当てはまる」「中学校の学び始めである第１学年の正負の数の段階で差がつく生徒が少なくない。正負の数の内容については東京書籍が分かりやすく、正の数、負の数をなぜ学ぶかについても書いてある」「数学の事象について、成り立つ事柄を生徒自身が予想したり証明したりした後で、さらに条件を変えて事柄を発展させていくような記述について、東京書籍と啓林館では、それぞれ現行の教科書からさらなる工夫が見られる」「計算式ばかりだと生徒が興味を持つことが難しいので、文脈が出てくるような教科書が採択されるべき」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に７者のうち東京書籍と啓林館が高く評価された。

［数学：質疑応答］

野口教育長	７者もありますので、評価の高い会社の数がもう少しあってもいいと思うのですが、選定委員会としてあえて東京書籍と啓林館に絞った経緯、また、この２者以外にこの発行者もいいと思っているという意見などはなかったでしょうか。
松原委員長	あと一つ、二つ、候補を出した方がよかったのかもしれませんが、議論の中ではどうしても横並びになってしまい、差がつけられなかったところです。
野口教育長	７者の中で、横並びになってしまうのだけれども、特に東京書籍と啓林館の評価が高かったので二つ挙げていただいたということですね。
松原委員長	はい。もう一つ、二つ出そうとすると、７者全部になってしまうので、絞った方が選定していただきやすいだろうということで、あえて２者にさせていただきました。
野口教育長	分かりました。そういう経緯だったということで、教育委員の皆さまにはご承知いただければと思います。
櫻吉委員	質問が２点あります。１点目に、章末の問題の量が各者でかなり差があるように感じたのですが、そこはあまり関係ないのか、あるいは、このくらいの問題数があった方がいいということはあるのでしょうか。 ２点目は、問題の答えについて、基本的に教科書には答えはあまり出ていないのですが、東京書籍の教科書を見ると、二次元コードで答えが分かって、自分で解いてすぐに○か×か分かるようになっていたと思います。教科書全体を通して、すぐに答え合わせができる点や、章末の問題のボリュームについては差はありますか。
数学調査委員	章末問題の量について、やはり東京書籍と啓林館は問題の量が充実しています。これを授業の中で全部できるかというと、時間がうまく作れたら授業でもしますが、宿題にして家でさせたり、または、その中の幾つかの問題を取り上げて授業で解いたりしますので、問題量が充実していた方が

生徒たちはよく勉強できるかと思います。
また、どの者も自主的に学習を進められるようにという配慮があるようで、二次元コードで解答やヒント、途中の計算式などが出ています。それはそれで十分、意味のあることだと考えます。

櫻吉委員　先ほど選定委員会からのコメントで正の数、負の数についてありましたが、中学生で最初につまずくのは、マイナスにマイナスを掛けるとなぜプラスになるかというところの説明ではないかと思います。東京書籍だと４２ページ、啓林館だと３５ページになりますが、東京書籍は時間を逆再生する、数直線上で考える方法で負の数と負の数を掛けることを教えていて、啓林館はグラフ上の表現で数の増減として説明しています。他にも例えば分配法則などで証明する方法もあると思いますが、中学生にとってはどちらの方が理解しやすいのでしょうか。

数学調査委員　時間の前後で教える方が、生徒にとっては生活に結び付く感じがして分かりやすいのではないかと思います。

大島委員　どこの者も二次元コードを多用していると思います。特に東京書籍はかなりの数のコンテンツがあるのですが、実際に授業においてはどのように使われているのか、お聞きしたいと思います。

数学調査委員　東京書籍の二次元コードを見ると、本当に他者にはないくらいにアニメーションや対話シートが用意されています。要するに、ノートではなくタブレットを使い、自分の考えをタブレット上にペンで書いてみんなで話し合おうという形で、みんなで話し合うためのシートが大変多くあります。その分、二次元コードがどこにでもあるのですが、他の発行者はほとんど補充問題になっています。ただ、現段階で二次元コードを補充問題的に使っているのを見たことがないです。

大島委員　現行は東京書籍の教科書が使われていると思いますが、今回の新しい教科書で非常に良くなっている部分、アップデートされている部分があればお聞かせいただきたいと思います。

数学調査委員　まず、対話シートやアニメーションといったデジタルコンテンツが増えた点が大きなところです。それから、生徒が計算を解いた後、自分の知識・理解を改めて確認できる「クイックチェック」が増えています。また、６０ページに「振り返りレポート」があります。実はこういうものは他の発行者も作っていますが、振り返って今度は身の回りのことで考えてみようという形で、さらに深めるような部分ができたのはいいと思っています。

田邊委員　先ほどの説明の中で、２者に絞り込んだ理由として、数学的思考力を育むのに優れている、そして協働的な学びに配慮しているという説明があったと思うのですが、どういうところがそれに当たるのか、参照できるような例があれば教えてください。

数学調査委員　東京書籍は、例えば１年生の８３ページで、課題をつかんでみんなで考え、話し合い、深めていって課題を解いていくという流れがあります。実は啓林館も今のような流れもあるのですが、啓林館では随所に「説明しよう」「話し合おう」と明確に書いてあり、ここでみんなで話し合うということが非常に分かりやすくなっています。

田邊委員　小学校の算数から、中学に上がると数学になるわけですが、算数と数学の違いについて、東京書籍では導入部分で説明されている一方、他の教科

書ではあまりそういうことをページ数を費やして扱う場面はなかったように思います。算数との違いや、なぜ数学と変わるのかという説明が導入にあると、都合がいいとか、役に立つということはあるのでしょうか。

数学調査委員　それは中学校１年生の最初に授業においては非常に意味があると考えています。

木村委員　東京書籍の教科書の「クイックチェック」は、授業中にみんながやることなのですか。

数学調査委員　新しく入った部分なので、これをどの程度活用できるかはこれからの話です。ただ、３０～４０人の生徒がいると、みんな解くスピードが全然違うのです。解くのが速い子にとってはこれは非常に意味がありますし、中間以上の子にも意味があると思います。一方で、なかなか難しい子の場合には、各問いにハートマークが付いていて、これはしっかり身に付けようということが分かるようになっています。

木村委員　教科書を拝見していて、そういう意味なのかなと思っていました。難しい問題には星印があって、東京書籍はそういう区別も分かりやすいように配慮してあると思いました。

田邊委員　索引に英語表記がある者が２者ぐらいあって斬新な気がしました。国際語でもあるので、数学用語を使うと通じやすい、伝わりやすいとよく言われると思いますし、中学生で数学用語の英語表記を確認できるのはすごくいいことだろうと思ったのですが、いかがなものでしょうか。

数学調査委員　大学にいけば数学を英語で勉強しなければいけないこともありますので、そういう意味では将来につながっていくかもしれないと思います。

［数学：審議］

野口教育長　それでは、審議に移らせていただきたいと思います。全会一致が一番美しいのですが、ご自分の意見を通していただいて結構です。前回の採択のときも、意見が分かれて、最終的に意見が多い方を採択したという経緯があります。譲れないことがあれば、そこは譲っていただかなくて結構ですので、意見をきちんと述べていただければそれでいいのだと思います。
選定委員会では、東京書籍と啓林館の評価が高かったのですが、教育委員の皆さんの中で、他の発行者をぜひ入れてほしいということがあれば、そこも入れて審議を進めていきたいと思います。いかがでしょうか。２者で進めてよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし

野口教育長　それでは、皆さん、うなずいていらっしゃいますので、選定委員会の考えを尊重し、これから２者で話を進めていければと思います。まずそれぞれのご意見を頂戴したいと思います。

櫻吉委員　子供どもたちは、なぜ数学を学ばなければいけないのかと疑問に思ったりすると思うのです。なぜｘを使わなければいけないのか、なぜ二次方程式を学ばなければいけないのか、大人になってこのようなものを使うのかと言われたときに、明確に先生が「こういうことがあるから数学は大切なのだよ」と答えられるような教科書が良いと思います。
なぜ数学を学ぶかというと、物事を論理的に考え、抽象的なことを頭の中で理解するため、究極的には人に騙されないためだと思っています。そ

ういった観点で、例えば東京書籍の１年生の１４９ページ、啓林館の１年生の１１９ページの比例の導入を見ると、東京書籍は身近にある事柄について、数学を通してこのようなことが分かるというメッセージがあると思います。一方、啓林館が取り上げている事柄は、確かに比例で解決するとは思いますが、こういうことが日常生活にあるかというと、ないと思うのです。数学の導入のための導入という感じで、子供たちにとっては身近に感じにくいのではないかと思います。

また、やはり人物が取り上げられているとすごく身近に感じると思うのです。例えば１年生の教科書では伝統工芸士が出ていて、数学はデザインにすごく関係があるのだとか、３年生の教科書では渋滞学の研究者が出ていて、渋滞も実は数学なのだとか、そういうことが分かると、こういうことで数学が生活に必要なのだということがわかって学習意欲が出てくると思います。そういう内容を随所に盛り込んである東京書籍が私はいいと思いました。

木村委員

私も７者の教科書をざっと拝見して、金沢の子供たちが数学を好きになるような工夫がしてあるのは東京書籍だと思いました。非常に身近な題材を使って問題を出していて、数字ばかり並んでいるよりも入りやすいというか、きっと子供たちにとっては身近な問題から入った方が分かりやすいのではないか、それほど難しくないと感じるのではないかと思い、導入は東京書籍が非常に優れていると思いました。それから、日本の伝統模様と数学を結び付けたり、１４９ページの待ち時間の予想も本当に身近な問題なので、学習意欲が湧くのではないかと思いました。巻末には小学校から中学校１年、２年、３年までの学びの設定がはっきりと書いてありますし、優れているのではないかと思いました。

大島委員

結論から申し上げると、私も東京書籍がいいのではないかと思っています。調査委員会からのご説明でもあったように、算数から数学へというところで、１年生でつまずきが発生してしまうことへの配慮については東京書籍が優れていると思いますし、現行の教科書からさらに「クイックチェック」やハートマークなどの工夫がされるということで、東京書籍が良いのではないかと思います。

田邊委員

７者もあるので見比べることに醍醐味がありますが、説明にあったように、数学的思考力を育める内容かということや、話し合いの推進に目配りしているかという点は大事だと思います。そして、数学がどのように生活や仕事の中で役立っているのかということについては、各者とも配慮されていたと思いますが、数学を学ぶことで世界が広がっていくということを３年生までの教科書で数多く取り上げているのは東京書籍だったと思います。数学は単に机上のものではなく、いろいろな職業や多様な世界と非常につながっているということを数学のテキストを通して伝えようとしていて、従前とは違うなと改めて思いました。とはいえ数学を学ぶ上での用語や概念、数学的思考を展開する上で、どこに配慮するのか、どこに注意を払うのかということも色付けで整理されていて、東京書籍はなかなか大事なことを整理して作られているなと思いました。

発展問題なども面白く読んでいくことができます。例えば点字が数学と関係しているというのは、私自身も改めて学習させられました。数学がいろいろな世界につながっているということをかなり多面的に触れながら教科書作りを工夫されている点で、東京書籍が望ましいのではないかと思います。

事務局

長澤教育委員からは、「まずＢの資料で現場の教員からの評価が高い東京書籍と数研出版を比較した」ということで意見を頂いています。

「東京書籍については、マスコネクトというテーマをもって数学の面白さを引き出そうとする試みがある。特に目次が印象的である。一般的な目次としてのテーマは小さな字で書かれており、何をするのかが大きな字で記載されている。これは生徒たちにとって取り組みやすさにつながるのではないか」というご意見を頂いています。

また、先ほど櫻吉教育委員がお話しされたように、１年生の比例と反比例のページを比較検討したそうです。「関数、比例、反比例、比例と反比例の利用という構成については一緒であるが、関数の具体例や、比例と反比例の利用における具体例が、実生活や実社会に関係したものであり、数学が暮らしとつながっていくと伝えてくれている。そういう意味では、東京書籍の方が子供たちにとっていいのではないか」というご意見を頂いています。

野口教育長

教育委員の皆さまに見比べていただいて、東京書籍がいいのではないかというご意見を頂きました。

たくさんの発行者がある中で、私はどういう視点で見たかというと、１年生の教科書を中心に見ました。なぜかというと、小学校から算数を学び続けてきて、中学校入って数学になるわけですが、６年生の段階で算数の勉強が嫌で、学校に行くのが嫌になり、不登校につながることが多いのではないかと思っているからです。

子供が希望をもって中学へ進んだときに、算数から数学になり、気持ちをリセットして「さあ頑張るぞ」という気概で教科書に触れてほしいと思っています。そういう意味では、数学嫌いにならない教科書はどれかという視点で見ていました。特に、私も先ほどのマイナス掛けるマイナスがなぜプラスになるのかという点に注目していたのですが、大人でも子供に聞かれたら説明しづらい内容を、東京書籍は割と数学的に説明してあっていいと思いました。また、１年生が希望を持って勉強できそうかという視点で見比べたときに、東京書籍の教科書は、先ほどのハートマークなどが本当に手堅いですし、きちんと配慮されている教科書だと改めて思いました。私も東京書籍の数学については異存ありません。

ということで、数学については東京書籍を採択してよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

野口教育長

それでは、数学については東京書籍を採択させていただきたいと思います。

以上で本日予定していた審議は終了いたしました。それでは、本日の確認をさせていただきたいと思います。本日は技術、家庭、数学について審議させていただきました。技術については東京書籍、家庭については開隆堂、数学については東京書籍を採用することに決めたいと思いますが、これで間違いないでしょうか。はい、ありがとうございます。

次回は、８月９日（金）１６時から、この会議場で、国語、書写、英語の３種目について審議を行おうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして本日の審議を終了します。ありがとうございました。

以　上

令和６年　第７回教育委員会定例会議　会議録（第３回）

１　日　時　　令和６年８月９日（金）
　　開会　　１６時００分
　　閉会　　１９時１０分

２　会　場　金沢市役所　第二本庁舎　２階　２２０１会議室

３　出席委員（７名）

教育委員長	野口　弘
教育委員	田邊俊治
〃	大島淳光
〃	丸山章子
〃	木村陽子
〃	長澤裕子
〃	櫻吉啓介

４　欠席委員（なし）

事務局	教育次長	堀場喜一郎
	担当次長（兼）学校指導課長	貞廣賢了
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	小川隆庸
	学校指導課主席指導主事	古川雄次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

委員長	松原道男
副委員長	伊藤伸也

教科用図書調査委員

５　案　件
非　議案第３１号　令和７年度使用中学校教科用図書の採択について　（学校指導課）

６　議事の経過等　　以下のとおり
議案第３１号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、国語、書写、英語について採択を行った。

［案件の説明及び諸報告について］
案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

［主な質疑・応答の内容について］
○ 議案第３１号 令和７年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）
○種目「国語」
［国語：説明の概要（選定委員長）］
国語は、４者の発行者について調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等

を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目３に関して、例えば言語活動の目標を達成するためにはどのような活動に取り組んでいくのが良いか、案内役のキャラクターをモデルに、自分のこととして考えられるよう工夫されている。多くの場面でキャラクターや中学生による吹き出しがあり、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるよう配慮されている。巻末の「『言葉の力』一覧」は、３年間の学習のつながりや深まりが系統的かつ明確に確認できるように構成されている。その他、項目４、６、７に優れた内容が見られた。

Ａ－２の項目２に関して、例えば「情報と論理の学び」の「情報の分類・比較」の教材では、情報の扱い方だけではなく、前時に学んだ説明文で取り組んだ段落の役割、段落同士の関係など、重ねて学ぶことができ、系統的に学べるようにするとともに、各領域の言語活動と関連付けながら豊かに学ぶことができるよう工夫されている。その他、項目１、５に優れた内容が見られた。

三省堂は、Ａ－１の項目４に関して、例えば古典学習のオリエンテーションとも言える「月を思う心」の教材において、現代の私たちにも身近な存在である月について、美しい色彩の見開きページで昔と通じる思いに触れることで古典作品への理解が深まることにつながり、伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容や話題、題材が充実している。その他、項目７に優れた内容が見られた。

Ａ－２の項目４に関して、例えばグループディスカッション「話題や展開に沿って話し合いをつなげる」では、話し合いのこつを明示することで学びを焦点化し、生徒が効果的に学習を進めていけるよう配慮されている。話し合いの場面では、青、黄色、赤、紫と、ポイントに当たる箇所を色分けしており、話すこと・聞くことに関する事項において優れた内容が見られる。その他、項目５、６に優れた内容が見られた。

教育出版は、Ａ－１の項目３に関して、例えば１年生の「文法の小窓　文の成分」では、キャラクター同士の交流場面を例に、学習活動の流れを明示することや、随所において会話文から疑問や課題、ポイントに生徒自身が気付くことができる仕掛けがなされ、生徒自らが自分の考えをもちながら学習に意欲的に取り組めるよう工夫されている。その他、項目５に優れた内容が見られた。

Ａ－２の項目３に関して、例えば「四季のたより　草萌」では、季節感やそれに対する先人の思いが表れた文芸作品を紹介することで、特にわが国の言語文化に親しむことができるよう配慮されている。ページの右には具体的な春のイメージが言葉で分かりやすく表現され、特にわが国の言語文化に親しむことができるよう工夫されるなど、わが国の言語文化に関する事項において優れた内容が見られた。

光村図書は、Ａ－１の項目８に関して、金沢ベーシックカリキュラムなどを踏まえた指導との関連が図られている。教材に関連した自伝やインタビュー、絵本、随筆・評論など多様なジャンルから多くの図書を紹介することで、読書体験が豊かになるよう配慮されている。多様なテーマや内容の読書について、各教科やＳＤＧｓなどの視点から取り上げられていたり、有名人による私の１冊を紹介したりすることで、多彩な読書の世界にいざなう仕掛けがなされている。その他、項目１、２、５、６、７、９に優れた内容が見られた。

Ａ－２の項目５に関して、書くことに関する事項においては、「学びのカギ」や「根拠を明確にして書く」では、根拠である文章の引用や図表の引用について、ポイントと思われる箇所をマーカーで色分けしたり、レポートの言語活動例を示していたり、生徒が見通しをもって各学習に向かえるなど、具体的に言語活動を行えるように充実が図られている。その他、項目１、２、３に優れた内容が見られた。

選定委員会での質疑応答の内容は以下のとおり。

学年の関連について、「光村図書は『学びのカギ』一覧で系統的に構成されているが、東京書籍は『言葉の力』一覧で３年間の学習のつながりや深まりが詳しく書かれており、東京書籍の方が良かった」。

ＩＣＴ活用について、「各者、情報のさまざまな部分を工夫している」。

二次元コードについて、「三省堂が大変印象的で、教科書の内容を深めたり、導入で使ったりできる」。

色について、「全体的なトーンや配色等、ユニバーサルデザインを考慮することは大切で、東京書籍は冒頭の扉からカラーのアニメが印象的であり、その点は評価した。だが、国語の評価は必ずしも色ばかりに目を取られるものではない」。

表表紙の裏について、「現場では相当使っている。各者いろいろなこだわりはあるが、光村図書の『朝のリレー』は昔からこの教科書に入っていることもあり、授業開きでは大変活用している」。

現代の課題に関する教材の量について、「光村図書と教育出版がＳＤＧｓの関係をはっきりと教科書で語っている。例えば解決方法を探る言語活動を設定してみたり、考えを合意形成できるように話し合う場面をもってきたり、特に光村図書では生徒が自己選択しながら学びを深めることができるような多くの工夫が見られる」。

言葉による見方・考え方を働かせるためのページについて、「光村図書は『学びのカギ』で一覧を上げており、振り返りなどもかなり使うことができる。東京書籍は『言葉の力』『広がる言葉』という部分があり、三省堂は『学びの道しるべ』『思考の方法』で学習過程や思考のヒントが丁寧に説明されている」。

その他、「光村図書の『学びのカギ』一覧では、見方・考え方を詳しく示してくれている」「二次元コードについて、教育出版や光村図書と同じように、東京書籍の資料の扱い方や見せ方は大変分かりやすい」「カラフルなものを否定する必要はないが、統一感のある落ち着いた配色である光村図書は良い」「光村図書は物事の見方・考え方が分かりやすい」「東京書籍は『言葉の力』で学びが深まり、接しやすくなる」「光村図書は『広がる読書』の案内が幅広いジャンルだったのが良い。また、二次元コードの収録が多くて学びやすそうである」「東京書籍は古典に入るところで浦島太郎の話が出てくる。突然古典が現れるのではなく、昔から少しずつ変わってきて今の私たちの言葉があることを感じさせる観点は非常に良い」「保護者の立場から、教える側の先生はこれだけ多岐にわたる物語や情報の中で教え方が非常に大変だと思う」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に４者のうち東京書籍と光村図書が高く評価された。

［国語：質疑応答］

野口教育長	調査委員長に２点、お伺いします。１点目は、現在は光村図書の教科書を使っていますが、今回選定している教科書と前回の教科書で何か大きな違いはありますか。 ２点目は、どの教科書会社も、教科書のはじめのところで教科書の使い方が充実してきている感じを受けるのですけれども、国語科の授業ではこれを使っていますか。
国語調査委員	現在、金沢市の中学校では光村図書の教科書を使用しています。光村図書の教科書の令和７年版は、以前のものと比べて大きく改善されていると思います。具体的に言いますと、国語の学力を向上させるためには、課題を発見し、解決するための言葉の力が必要ですが、そのために令和７年度の光村図書の教科書では、「資質・能力が見える、身につく『学びのカギ』」を特集で組んでいます。また、二次元コードと１人１台端末がかなえる個別最適な学びという、この２点が大きな改善のポイントになっていると思います。 例えば、１年生の教科書の巻末２７６ページにある「学びのカギ」は、学習を焦点化し、資質・能力がしっかり身に付くように活用できる仕組みに一新されています。ここに以前の教科書と令和７年度の教科書の大きな違いが出ています。また、２８ページの「学びへの扉」では、教科書の右に学習の流れが書いてあります。そして左の「資質・能力」では、「学びのカギ」を示し、資質・能力を身に付ける学習の過程を焦点化して黄色で示

しています。問題解決的に生成されている内容であることはもちろん、それぞれ教材ごとに「学びへの扉」があり、どこにあるかすぐに分かるようなレイアウトの工夫がされていることが、既存のものとの大きな違いとして捉えられると思います。教材と同じく縦書きで表記されていることや、令和７年度版より「学びへの扉」のみ横書きのレイアウトになっていることで、教材の本文テキストとの明確な区別化をしてあるわけです。横書きにしてあるという特別な編集の部分が、特に子供自身が学びをどう進めるかということを考え、主体的に学ぶことのできる工夫になっていると思います。

また、２９ページの「学びのカギ」で、資質・能力を焦点化し、さらに図解で見える化していることがとても大きな違いです。ここでは３観点の学習を振り返ることができるのですが、何ができるようになったかということを自分の言葉で言語化し、資質・能力を確実に定着させることができると思います。

また、光村図書の令和７年度の教科書は、小学校と同じ観点での表記がされています。本市では小学校６年生は光村図書の教科書を採用しています。同じ教科書会社なので当たり前かもしれませんが、編集が非常に似ているのです。小学校６年間で学んだことをさらに系統化し、中学校に接続して学習できるという部分が、令和７年度の教科書では随分変わったと思います。

もう一つは、資料編において、３学年で二次元コンテンツ「学びの地図」というものがあります。これは「学びのカギ」を検索して二次元コンテンツで調べることができるのですが、実に３学年で３５２点と、二次元コードで勉強できるものがとても増えました。これにより、タブレットを使いながら、子供たちが実際に作者の対談などを聞けるという部分も大きな違いだと思います。

２点目は、授業開きでどのように使うかということですが、例えば教科書の裏表紙には詩があります。これは各者あります。例えば光村図書の１年生は谷川俊太郎さんの「朝のリレー」、東京書籍は高階杞一さんの「風の五線譜」、そして教育出版は金子みすゞさんの詩、三省堂は裏表紙に詩は掲載されていませんが、このような形で、国語の授業の導入では、まず詩から何を感じたかということを話しながら、１年間で国語をどのように勉強するのか、先ほどの「学びのカギ」の一覧等も使って学習していく形になっています。

野口教育長　ありがとうございました。聞き方が悪かったと思っていますが、光村図書のいいところばかりが出てきました。本当は東京書籍や三省堂、教育出版の前回と今回の違いを聞くと、それぞれのいいところが浮き彫りになってくるのだろうと思い、質問をしました。聞き方が悪く、申し訳ありませんでした。それで十分ですので、ありがとうございました。

田邊委員　金沢型ベーシックカリキュラムとの関連で、読書経験を豊かにすることも国語の一つの大事なねらいだと思うのですが、４者比較の中で、特に光村図書は読書案内が豊富であることが際立った特色であると説明されていました。もちろん他者も多くの読書案内があったと思うのですけれども、とりわけ際立って光村図書がそうだったという、そのあたりの観点というか視点について教えていただければと思います。

国語調査委員　調査委員会でいろいろと調べたのですが、やはり光村図書は、群を抜いて本の紹介冊数が非常に多いのです。しかも、中学生に読んでほしい部分の紹介がとても多彩で、本との出合いのエピソードや、その本に一体どういうことが書かれているかという読書へのいざないが非常に強い感じを調査委員会では受けています。

田邊委員　読書を進める上では、図書紹介があり、一人一人がそれに手にして読んでいくと思うのですけれども、併せて二次元コードも非常に豊富であるという説明がありました。個人が主体的に学びを進めていくところに非常にアクセントがあると理解してよろしいのでしょうか。

国語調査委員　自分で主体的に学ぶという、まさしく金沢型の部分で、教科書からいろいろなことを学んでほしいという感じは大変強く出ているという話は調査委員会でも出ておりました。

丸山委員　国語なので読むことが多いと思いますが、文字の大きさや書式、書体については何か話し合いましたか。

国語調査委員　書体については、どの発行者もあまり変わりはありませんでした。例えば光村図書の１年生の１０２ページ「大人になれなかった弟たちに」は、大変スタンダードな、１年生でとても学んでほしい部分ですが、ここで使われている字体と比べて、東京書籍はほぼ変わりありません。例えば６０ページの説明文の部分ですが、同じ大きさ、同じフォントを使っています。ただ、いわゆる見た目、デザインの部分は、表紙も含めて大きく異なります。これをどう判断するかというのは、当然いろいろな意見があります。

櫻吉委員　教科書のページ数が、各者、比べると１０～１５％ぐらいの違いがあると思うのですが、中に含まれているボリュームに大きな差はなかったですか。

国語調査委員　例えば東京書籍ですと、付録という言い方はあれですが、見開きのものが付いていたり、デジタルコンテンツの一覧ということで二次元コードの解説等が書かれている部分があります。漢字の字数、新出音訓や新出漢字等については各者とも変わりありません。ただ、学習を進めていくに当たっての補足的な説明について、若干、巻末の資料等で違いがあるように感じます。

櫻吉委員　資料の部分のボリュームがちょっと違うということですが、資料の使い方というのは、授業の中ではどのような位置付けになりますか。

国語調査委員　例えば光村図書でいうと、９ページに「思考の地図」というものがあります。自分たちの考えを広げていくに当たっては、マッピングやブレインストーミングなどさまざまな手法がありますが、一時代前だとこういう説明があまりなく、国語便覧というものを使っていました。ところが、今の教科書は、教科書１冊で授業ができるように考え方の部分も提示してあります。これを使いながら、考え方や、みんなの意見の広げ方などについて、今日はこのようにやっていこうという形で、いわゆる焦点化することができると思います。
　もちろん各者さまざまな工夫をしていて、付録については、例えば東京書籍は現代的な諸課題を最初に「未来への扉」として示し、次にデジタルコンテンツの使い方の説明が書いてあります。結構イラストが多いです。また、先ほど言いましたデジタルコンテンツの一覧があり、「書くこと、話すこと」という部分があり、最後の２９８、２９９ページにも考え方が書いてあったりと、各者、編集の仕方がちょっと違います。

櫻吉委員　学年が上がるごとに中の文章は難易度を上げていく形になっているのかと思うのですが、見ていると、例えば光村図書で１年生に採用されている文章が、東京書籍では２年生に採用されていて、同じ作者の随筆でも、光村図書の方が少し先の学年に出ていて、東京書籍の方が後に出ているも

のが何点か目につきました。推薦する図書も、光村図書では１年生で推薦しているものを、東京書籍では３年生で推薦していたりして、難易度が今の子供たちに本当に合っているのかという懸念が少しあるのですけれども、その点はどうでしょうか。

国語調査委員　小学校の教科書を見ないと分からないのですが、恐らく光村図書の方が東京書籍よりも先んじている部分はあるかと思います。ただ、教科書の中から追っていくような部分ですから、いきなり難易度を上げていくということではなく、もちろん共通の教材を取り上げることもありますけれども、読書なら自分たちで選んでいくこともできますので、教科書の中で平均的な形もあれば主体的に自分で学んでいく部分もあり、さまざまな活用の仕方はできるかと思います。

木村委員　東京書籍と光村図書の２者に絞ると、東京書籍でいうと「手引き」、光村図書でいうと「学びへの扉」があって、どちらも私たちの目からすると差があまり分からないのですが、順番に学びを深めていく上で大きな差というのはありますか。

国語調査委員　東京書籍の１年生では、３２ページに「手引き」が書いてあります。これと比較すると、光村図書の１年生の２９ページ「学びへの扉」がよく似ていると思います。では、どちらが使いやすいかということですが、例えば光村図書は「学びへの扉」を横書きにしています。国語の教科書は大体縦書きなのですが、いきなり横書きが出てくるので、そうすると生徒たちはやはり特別な意識をもつと思います。東京書籍は「手引き」を縦書きで書いてあるという違いがあります。
また、光村図書では「小学校で学習した物語の読み方を思い出そう」と書いてあります。小学校は光村図書の教科書を使用しています。小学校６年生の「学びへの扉」を見ていただくと、似ていますよね。ですから、小学校の６年間で意識した国語の力というものが、中学校になると横書きになったという違いがあります。これは、子供たちに違いを明確に示したいという編集者の意図だと聞いています。ただ、学ぶ部分については、縦横の違いがあってもしっかりと小学校で学んだことを基礎・基本として、礎として、中学校で主体的に学習できる形になっています。ここが大きな違いだと思います。

木村委員　金沢の子供たちにとっての、Ａ－１の項目８、９に当たるところと解釈してよろしいでしょうか。

国語調査委員　はい、そうです。

長澤委員　光村図書は「思考の地図」が１年から３年にかけてずっと巻頭に付いているのですが、これは授業でどのように使われるのか、１年から３年にかけて使い方に変化があるのか、教えていただけますか。

国語調査委員　「思考の地図」は、１年生ではマッピング、対話、ブレインストーミングの３種類あります。これが３年生になると、マッピング、ブレインストーミング、ワールドカフェとなります。ワールドカフェというのは、隣の人と話をするというような形だと思いますが、学年に合わせて少しずつ発展的な学びになり、考えを生み出し、それを自分たちで話し合いながら合意形成していくという違いが見られます。
では授業でどう使っていくかということですが、いつも同じような発想ではなく、学校によって、何に注視して考えを出すかというのはいろいろあります。ただ、国語というのは学びの基礎ですので、国語の教材を使い

ながら考え方を広げていくということができると思いますし、現場でもそのような形で運用しています。

［国語：審議］

櫻吉委員

いろいろな説明を聞いて、授業の進め方、探究の仕方が優れているのは光村図書の教科書なのだろうと思いました。ただ、他の部分で東京書籍の方が優れているのではないかと思ったところがあります。

まず古典の分野は、選定委員会からもありましたけれども、１年生の導入の部分でやはり東京書籍の方が優れているように感じました。いきなり文章から始まるのではなく、みんなが知っている浦島太郎を例に、古典がだんだん変わってきて今につながっているのだという、興味を湧かせる話題から入っています。中学校の国語でつまずきやすいのは古典や評論だと思うのです。小説や随筆は割と入っていけるのですが、古典や評論の部分がつまずくところなのかなと思うと、その取っ掛かりをうまく得るためには東京書籍の導入がいいなと思いました。

もう一つは、本文と関係ないのですが、読書に関してです。光村図書の読書の案内が非常に良いという話があって、どちらも甲乙つけ難いのですけれども、まず１年生でいうと、光村図書の１９６ページ、東京書籍の１８０ページに、「読書への招待」と「いつも本はそばに」というところがあります。

これを比べると、確かに光村図書の「四百年のスローライフ」は、話は非常に面白いのですが、これは大人向けの新書ですよね。実際にこれを読み切れるかというと、なかなか中１には厳しいのではないかと思います。その次に「はやぶさ２」の話が出ていて、これも非常に面白い話なのですが、なかなか中１では読み切れないし、高校生でも読み切れないかなと思います。

一方で東京書籍は、小説も、ノンフィクションも、ファンタジーも、科学的読み物も、中学生に合った本を採用しているように思いました。紹介されている本も、確かに数はあるのですが、私がカウントしたところでは東京書籍が一番紹介数が多かったです。光村図書の１年生で紹介されているものはレベルが高いように思います。読書好きな大人が読んで楽しめるような本が結構紹介されていて、中学生がこれを最後まで読み切れるのかという懸念があります。

次に２年生で、東京書籍の１７４ページ、光村図書だと１９２ページです。光村図書は本の紹介で、東京書籍は小説とアニメと映画を紹介しています。『時をかける少女』や『この世界の片隅に』のように、小説や漫画からアニメーションになったものなど、いろいろなメディアを行き来して、「この本、ちょっと読んでみない？」というようなメッセージがある東京書籍の読書案内はすごくいいと思いました。

東京書籍は、中に所々、漫画の紹介がありました。特に１８１ページの『戦争は女の顔をしていない』は非常にいい漫画で、できたら子供たちに読んでほしい漫画なのですが、こういうものも大きく紹介されていて、やはり読書案内のレベルが東京書籍はすごく高いです。光村図書は高校生でも読み切れるかなという本が結構紹介されているので、中学生のレベルに合ったものと考えると、この部分は東京書籍さんが優れていると感じています。

ただ、授業では当然、読書だけをやるわけではないので、総合的に考えると、光村図書の方がいいのかなとは思うのですけれども、授業をされる先生方にもそこのレベルを重々理解していただいて、子供たちに紹介してほしいと思いました。やはり本を読み始めて面白くなくなって途中でやめる、そこで挫折するという失敗体験が多くなるのはどうなのかという気持ちがあるので、レベルに合った本を紹介してもらえるとよいと思いました。

野口教育長

基本的には、東京書籍もすごくいいところがあるけれども、光村図書と

いうことでよろしいですか。

櫻吉委員　はい、そうです。

大島委員　私も結論から申し上げると光村図書がいいのかなと思います。私も東京書籍と比べてみたのですが、お互いのいいとこ取りというか、非常に似通った部分もあるのですけれども、Ａ－１の項目８、９の金沢の子供たちにとってということを考えると報告書からも光村図書の方が優れていると感じますし、小学校からの接続も含めて考えると、光村図書の方が良いのではないかと思っています。

野口教育長　選定委員会から２者ご推薦いただいていますが、三省堂と教育出版についても何かご意見があったら出していただいても全然構いません。ぜひお願いしたいと思います。

櫻吉委員　４者で中の文章を比べると、教育出版の文章が非常に面白くて、興味の湧くような文章、他の教科書には採用されていない文章が多くあったと思います。教えることに関しては確かに光村図書が優れていて使いやすいのかもしれませんが、読みごたえのある文章を選んでいる点では、教育出版が優れていると思いました。

丸山委員　私も結論的には光村図書が優れていると思います。どういうことかというと、全体的な構成がやはり一番いいと思います。表紙の裏の詩の部分も、写真がとてもきれいで、生徒たちの導入としてはとても良いです。ここは教育出版も同じで、表紙の裏の詩と写真がとても印象的なので、教育出版も引けを取らないと思います。

ただ、光村図書は、学習の見通しを押さえていて、「思考の地図」もとても分かりやすいですし、個人的にとても好きなのが語彙ブックです。ここはページの大きさが少し違っていて、内容もとても実用的です。授業の中だけではなく、日常の生活の中でもちょっと見返したりして使えるような、保存したいぐらいの内容が１年生、２年生、３年生にも書かれていて、本当に語彙を広げるという意味で活用できるものではないかと思います。

文字の大きさや読みやすさというところでも、他と比較すると光村図書がとても読みやすいです。どこの教科書も１年生、２年生、３年生になるにつれて文字は小さくなっていると思うのですけれども、光村図書は３年生になっても読みやすい書式になっていると思います。

田邊委員　４者とも、だんだん作りが似てきている印象があります。先ほど、現在使っている光村図書がかなり進化しているというご説明がありましたが、それぞれの発行者なりに工夫を凝らしてきているように思います。扱われている素材も４者４様で、それぞれ国語の教科書として使っていく上での良さがあると思います。

一頁あたりの行数を見ると、１年生からだんだんと増えていますが、教育出版だけは３年生になっても増えずに、他の３者と比べると行数が少なくなっていくのは、多分、扱う素材を丁寧に吟味していこうという意思の表れかなと思いました。

光村図書と東京書籍の２者の優れたところが際立ってきているということですけれども、その２者でも、国語の教科書の作り方のアクセントが微妙に違うのかなと思いました。光村図書は、いろいろな作品を提示しながら、それを味わっていくといいますか、国語の教科特性である読んだり解釈したりすることが、作品をどう味わうのかというところにかなり工夫が凝らされていると思いました。一方で東京書籍は、自分が考えたことを話し合ったり、伝え合ったりするところにアクセントがあるように思いまし

た。
目次のところの章構成にも４者４様の工夫があるのですけれども、光村図書は３年生だと「価値を生み出す」とか、１年生も「価値」という表現を使って「価値を見いだす」などと、国語の作品を通して、いかに自分なりの価値をつかみとるかというこだわりがあると思いました。国語の取り上げた作品を通して、自分なりに読み取って、自分なりにしっかりと価値をつかみ取るということが、このメッセージの中には含まれている気がします。国語というのは、作品を味わい、そこから自分なりの考えをつむいでいくことが大事だということが、光村図書では強調されているように思いました。「思考の地図」や語彙ブックを見ても、いろいろな表現の仕方があるのだということがつづられていて、作品を味わいながら自分なりの語彙を膨らませて、しっかりと自分なりの価値を作っていくのだというメッセージが貫かれているような気がして、光村図書の教科書が良いと思いました。

長澤委員

結論としては、私も光村図書がよろしいかなと思っています。
Ｂの資料でまとめられている現場の先生方のご意見の中で、東京書籍は語彙指導が充実している点で大変意見数が多いと出ておりました。東京書籍の目次を見ても、例えば１年生の教科書でもそうですけれども、「日本語探検」「漢字道場」「文法の窓」という形で、とても興味を引かれる項目が立ち、具体的な語彙に関しての説明があり、実際にそれぞれの箇所を拝見しても、とても面白く、具体的で、子供たちの吹き出しがあったりして、引き込まれるような形で語彙の指導が進められているところがとても良いと思っています。最近は子供たちの語彙力の低下をすごく感じるところですし、こういったところがフォローされている東京書籍はすごく魅力があると思っています。
教育出版の語彙のところを見ると、１年生の１７０ページにこの教材で学ぶ漢字が挙げられていて、同じ教科書の１９１ページにも漢字の練習という形で漢字がぽんぽんぽんと挙げられています。それがいわゆる一般的な教科書なのでしょうけれども、東京書籍の該当するところにおいては、もう少し踏み込んだ具体的なものになっていて、子供たちが練習しながら語彙力をつけていく工夫がされている点が良いと思っています。この点について、光村図書の教科書を見てみますと、どちらかというと東京書籍に近い形で、具体的な問題を解くような形になっていて、いいかなと思っています。
ただ、最終的に光村図書がいいと思った理由としては、「思考の地図」が全ての学年において巻頭に挙がっているところです。東京書籍は「思考のヒント」が後ろの方にまとめて挙がっていますが、全ての学年において巻頭に挙がっていて、しかも学年に応じてさらに充実しているところが優れていると思っております。田邊委員がおっしゃった作品を味わうスキルを培っていくためには、まさに「思考の地図」を常に頭に置きながら作品に触れていくことでトレーニングができると思っています。作品の捉え方は人それぞれですし、どういう切り口で、どういうところに力点を置いて読んでいくか、何を感じるかということも人それぞれですから、作品に対して自由度をもたせるという意味においても、「思考の地図」を最初に置いて子供たちに教科書に入っていってもらうという点はとても優れているし、子供たちが得るものも大きいのではないかと思った次第です。

木村委員

私も皆さんと同じ意見です。それぞれの出版者の良いところを探すとたくさんあるのですが、東京書籍は、例えば古典で絵巻物や『平家物語』、『おくのほそ道』など親しみやすい教材を取り上げています。他の発行者も重なっているところはありますが、とてもいい教材が載っていますし、入りやすさというか、文章として簡単なのは東京書籍かなと感じました。

ですが、光村図書は、「学びへの扉」が大変素晴らしいのと、巻末の資料編が大変充実している点が特色だと思います。また、Ａ－２の項目３に当たりますが、「季節のしおり」で四季のある日本ならではの観点で学びを深めていく方法も、やはり素晴らしいと感じました。

野口教育長　他者にも優れている点も多々あるけれども、全体的に見て光村図書がいいというご意見が多かったと思います。

私はこれで３回、中学校の教科書採択に臨ませていただいているのですが、各者とも毎回グレードアップしています。表現は悪いのですが、光村図書は少し専門的になりすぎているのではないかと思う時があります。木村委員がおっしゃいましたけれども、子供の立場で教科書を見たときに、使いやすいな、勉強しやすいだろうなと思うのは東京書籍です。学習課題が明確で、教材文が終わった後に手引きがあって、きちんと流れができているのです。光村図書の横書きには私も違和感があります。やはり国語は縦であるべきだろうと思います。

光村図書は学習課題が非常に不明確です。学習目標はありますが、その前に「読む」と書いて、学習活動となっているのです。こういうところに非常に違和感があって、学ぶ子供の立場からすると、東京書籍なのだろうなと思っています。いつまで光村図書を使えばいいのかなと思います。そう言いながらも、今ほど教育委員の皆さんがおっしゃったとおり、全体で見るとやはり光村図書なのかもしれません。

二次元コードも確かにたくさんありますけれども、各者、ちょっと二次元コードを使いすぎではないですか。子供たちはこんなに見られるのですか。読書の本もたくさん紹介していますが、こんなに子供は読めますか。特に中学生は年間何冊読んでいるのかと考えると、これはちょっと考えなければいけない時期に来ているかなと思います。今回は私も全体では光村図書でいいと思いますが、次は分かりません。

ということで、７人の意見は一致したと思いますので、光村図書でよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、国語は光村図書に決定したいと思います。

○種目「書写」

［書写：説明の概要（選定委員長）］

書写は、４者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目８に関して、各学年に「生活に広げよう」という教材があり、書写で学んだことを学校生活や他教科の学習に生かす工夫が図られている。例えば「本のポップを書こう」では、ポップに書く内容を効果的に伝えるため、用紙、筆記用具、文字の大きさ、配列について「下書きを作る」の部分で考えさせるなど、書写の学びを生かすような工夫がされている。その他、項目１、２、３、７、９においても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２に関して、身の回りにある幅広い文字表現をふんだんに取り上げており、表現の目的や工夫について考え、自分の思いを効果的に表現する活動につなげるよう工夫されている。その他、項目１においても優れた内容が見られる。

三省堂は、Ａ－１の項目３に関して、さまざまな日常の書く活動を具体的に捉えることができるようになっている。送り状、のし袋、願書、原稿用紙の書き方など、さまざまな様式が具体的に載せられている。補助教材として、多くの楷書、行書の手本が掲載されており、生徒が自ら学

び書くことができるなど、自主的・自発的な学習が促されるよう資料が充実している。その他、項目７でも優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２に関して、「身のまわりの文字」では文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことについて示している。「名言集を作ろう」では、今までの学習を生かして自分が気に入った言葉を書く活動につながるよう配慮されている。

教育出版は、Ａ－１の項目４に関して、「コラム」では歴史上の人物の手の跡の紹介や、活字についてのさまざまな情報が載せられている。見開きの「『書くこと』の変遷」なども非常に充実しており、伝統文化、文字環境に関して生徒が興味深く学べるよう工夫されている。

Ａ－２の項目１に関して、行書の「連続」「変化」「省略」などの特徴がひょうたんのような形のマークで書かれている。これがこの後の学習でも繰り返し示されており、例えば「変化」「連続」などの特徴を同じマークで示し、部分における筆使いの注意点、形の整え方などを細かく表し、学んだことを応用できるように工夫されている。

光村図書は、Ａ－１の項目２に関して、「楷書と行書の使い分け」の「考えよう」「確かめよう」の部分で、相手や目的に応じてどのように書くことが適切であるかを考えさせ、「生かそう」で自分の場所、書体を選び、書くようにするという、身に付けた知識・技能を生かして書くような構成がされている。また、行書の良さを生かした生徒作品を紹介するなど、身に付いた知識・技能を学校生活や日常生活に生かす工夫が見られる。他にも項目１、３、４、５、７、８、９でも優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、教科書本編と別冊「書写ブック」をセットで活用することで、書く力が定着するよう工夫されている。例えば、まず楷書と行書の比較を通して行書の特徴を捉え、運筆の注意点やイメージを分かりやすく示し、教科書での学びを確認しながら繰り返し書くことで基礎・基本の習得ができるよう工夫されている。

選定委員会での質疑応答の内容は以下のとおり。

光村図書の切り離して使用できる「書写ブック」について、「点検・評価をする際に切り離した『書写ブック』を提出でき、非常に使い勝手が良い」。

各者でお手本の大きさが違うことについて、「光村図書のお手本のサイズが大きい。現在、金沢市の学校では机が大判になり、手本を大きくした方が生徒にとって良いお手本になるのではないか」。

「どの教科書についてもタブレットを活用してのまとめが入っている」。

書写、字が苦手な子に対する配慮の違いについて、「どの教科書についても非常に分かりやすくポイントなどが書かれていて、イラストなどもとてもなじみやすい。苦手な子に対して、はっきりとこの教科書が特別にいいというところまでは話が出ていない」。

はねる部分の書き方について「光村図書の『ぴょん』はちょっと変わった音かもしれないが、光村図書は小学校でこの擬態語を使っているので、中学校でも同じ表現をしている」。

その他、「教育出版は、ノートのまとめ方から入り、各段階において、子供たちが自分たちで文字を使ってどう表現するか、どう活用していくかということが非常に分かりやすく書いてあることを評価したい」「教育出版はノートの取り方が最初に出てくるのが良い」「光村図書が、手書きの良さや、この教科の存在意義を考えさせているのは、すごくいいことである」「日本の大切な文化でもあり、『自分もきれいに書いてみたい』『苦手だったが頑張ってみよう』と思える教科書が良い」「書写は決して時間数が多いわけではないので、できれば小学校とのつなぎの部分も見て選んでほしい」「昔に比べて字を直接書く機会が減っており、手を動かすことの意味はとてもある。教科書を見て、残してほしい教科の一つだと思った」「金沢ベーシックカリキュラムから各学校の教育課程の中に書写の活用なども入れると、金沢市出身の子はきちんと手書きができるという良さが出てくるのではないか」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に４者のうち東京書籍と光村図書が高く評価された。

［書写：質疑応答］

櫻吉委員	書写の授業は１週間でどのぐらいありますか。実際に書く実技の部分と、教科書で知識を得る授業の比率はどのようになっていますか。
書写調査委員	書写の時数は、１・２年生は年間で２０時間を基本としています。毛筆については十数時間です。書初めや小中合同展に向けてまとめ取りする期間を各学校が結構取っているので、毎週やるところはかえって少ないと思います。 教科書の知識の部分については、硬筆などを書いた後に少し時間を取り、関連した内容を話したり、毛筆についても、時間が押してなかなか説明まで難しいときが多いですが、それでも少し関わりのあるような知識を先生から話したりすることはよく見られます。
櫻吉委員	実際に書くということがすごく減っていて、卒業後に書道を選択しなければこれが最後の毛筆の授業になるかと思うのですが、資料編を持っておけば、将来、書いたりするときに役立つと思うので、資料編に優劣があれば教えてください。
書写調査委員	調査委員会の中でも資料の話はあったのですが、どの教科書も非常に充実しています。先生方によって好き嫌いの部分もありますし、最近はどの教科書も二次元コードで関連資料がたくさんあって、正直、全部見られていないところもあります。どれが良いかと言われると、調査委員会の中ではばらついていて、これが一番いいというところまでの話は出ませんでした。
櫻吉委員	甲乙つけ難いということですね。
書写調査委員	はい。
田邊委員	書写は独特で、３年間で１冊の種目になりますが、今１年生で来年２年生になるときに、前に使っていた教科書と違うと、違和感があるのでしょうか。それとも、甲乙つけ難いということもあるので、そこは授業を進めていく上でそれほど違和感は生じないのでしょうか。
書写調査委員	新しい教科書になっても、そのときの１年生が３年間使うので、生徒からすると切り替わりは分かりません。先生がやりにくいかということでしたら、それについては今まで光村図書を使ってきていますが、基本的な形が一緒なので、特に違和感なく使っていたと思います。
田邊委員	これから仮に教科書の発行者が替わったら、生徒にとっても学年の途中で教科書が切り替わるわけですよね。そういう点で、前に使っていた教科書から替わってしまうと生徒も戸惑いが出てこないかと気になります。
野口教育長	指導課長、確認してよろしいですか。書写の教科書の給与を受けるのは新１年生だけですか。
事務局	はい。新しい教科書に切り替わった場合は１年生だけが新版教科書になり、２・３年生は旧版のものを使用していく形になります。
田邊委員	分かりました。そういう使い方をしているのですね。
丸山委員	現在は光村図書が使われていますが、「書写ブック」は現在もあるのでしょうか。そうであれば、授業の中でどれぐらい活用しているか教えてくだ

さい。

書写調査委員　現在も使われています。硬筆の授業のときに使うので、例えば１・２年生であれば年間で１０時間弱、使っています。

丸山委員　使いやすいですか。

書写調査委員　はい。とても評判がいいです。こういうものがなかったときは、教科書を４０冊集めて職員室に持っていく負担が大きかったので、切り離せることによって先生方からは「使い勝手が良い」と聞いています。

木村委員　楷書と行書の使い分けについて、それぞれの教科書に載っていますが、どこの発行者がいいというのはありますか。あまり差はないですか。

書写調査委員　調査委員会の中では、字自体の良しあしについては話し合いませんでした。私も調査委員も本当の意味での書家ではないので、どの字も非常に読みやすいし、上品で良い字だと思います。

木村委員　分かりました。

大島委員　これからの社会において、書写はどちらかというとマイナーな状態になっていくと思います。逆に言うと価値が出てくると捉えています。自習が多いと思うのですが、書写や手書きをする意味を授業の中で子供たちと話し合うような機会はあるのでしょうか。

書写調査委員　手書きの意味を書写の時間で取り上げて話すことは少ないのですが、最近の教科書を見ると、手書きが減っていく分、その大切さをどの教科書も取り上げて、話し合ったりできるような設定をしていて、これも大事だという話は調査委員会の中でありました。

大島委員　そういった観点で言うと、４者の中で優劣はありますか。

書写調査委員　その辺については、光村図書が今回の教科書では非常に力を入れているという話が出ています。８８ページに、柔らかい感じで、子供たちが興味をもって手書きの良さについて考えられるような設定がしてあり、これは一つポイントだという話はありました。

長澤委員　現場の先生のご意見の中で、「学習を生かせるよさ」という項目にまとめられているご意見があるようですが、具体的にはどういったものを指してこの項目を整理されているのか教えてください。

書写調査委員　どの教科書でも、例えば「毛筆の学習を生かす」で運動会の応援の旗をどのように書くと迫力が出るか紹介したり、書写で学んだもので他の各教科に生かせるものを紹介したりしています。そういうものをまとめたのがその項目になっています。

野口教育長　書写の教科書の発行者は、国語の教科書の発行者と同じ方がいいですか。それとも、違っても全然構いませんか。

書写調査委員　同じ方が安心できるところはあります。直接リンクしている部分は正直ないので、もし他の教科書になったとしてもしっかり書写の授業はできると思いますが、長年親しんでいる先生の心情的な部分を考えると、同じものが安心できる感じはあります。

［書写：審議］

櫻吉委員

２者を比べると、光村図書はお手本が原寸大で、東京書籍は半分のサイズになっています。お手本としては原寸大の方が非常に使いやすいのではないかと思いました。

将来的に毛筆を使うことはあまり多くはないと思います。今後は、パソコン筆で文章を作成することが中心になるかと思うのですが、フォントについての記載は光村図書の方が少し多いですし、ユニバーサルデザインなどの情報量も多いです。

書写は勉強して身に付けるような教科ではないので、授業に気楽に臨めるところがあるのではないかと思います。光村図書の１０４ページのコラム「自分らしい文字」は、決して皆さん上手とは言えないですが、個性的なその人らしさが伝わる良いコラムだと思います。

幾つかの点から見て、光村図書が教科書としては優れていると思います。

木村委員

書写は基礎が一番大事ではないかと考えています。各者いろいろ拝見したのですが、東京書籍は「書写活用ブック」が書写の辞書のような感じですごく勉強になると感じました。三省堂は資料編が学んでいく上ですごく参考になると思いました。教育出版は、動物のイラストで、立つのは楷書、歩くのは行書、走るのは草書というのが、子供たちにとって分かりやすいのではないかと感じました。

ですが、やはり内容としては光村図書が優れています。書写は書くことなので、書写を学ぶことの大切さを「手書きのよさって、何だろう」という漫画で導入編のような感じで、あまり難しく考えずに学ばせているのがいいと思います。また、私もコラムの個性のある字に注目したのですが、これはいろいろな字があるのですけれども、ある程度基礎があった上での崩した字という感じを受けました。櫻吉委員は「将来、毛筆を使う場面があまりない」とおっしゃいましたが、そうでもないです。名前を書いたり、結構生きることがあると思うので、やはり私は光村図書がいいと感じました。

総合訪問をしていると、子供たちの鉛筆の持ち方がすごく気になります。書写を学んだ上でも、何とも言えない独特な持ち方をしている子供がすごく目に付くのです。先生方もお忙しいとは思いますが、何とか子供たちの鉛筆の持ち方に注意していただきたいと思っています。これは教科書と離れますが、お願いしたいことです。よろしくお願いします。

丸山委員

それぞれに良いところがありますが、東京書籍の「生活に広げよう」が、書写の学びをどう生かすかというところでとても興味深い内容が書かれていると思いました。

ただ、光村図書の「書写ブック」が現場でとても活用されているとお聞きして、やはりこれはあった方がいいと思いましたし、コラムもとても面白い内容が書かれていて、生徒たちが興味をもって読めると思いました。あと、見本が書く大きさに近くて分かりやすいので、全体的に見ると光村図書が良いと思っています。

大島委員

私も結論から申し上げると光村図書がいいと思います。ただ、その他の者もいろいろな工夫がなされています。私は経営者として社会に出てくる子たちを見ていると、「日常に役立つ書式」や資料編の中にあるように、手紙の書き方や切手を貼る場所が分からないなど、驚くようなことが多々あるので、こういったことをきっちりと教育するのはいいことですし、これを今後生かせるような資料として持っておくのも非常にいいと思います。資料編については、それぞれ本当に工夫されて、どの者も丁寧に書かれていますが、総合的に金沢の子供たちに対してということを考えると、光村図書が一番いいと思います。

長澤教育委員

教育出版の５２ページのコラム「あの人が残した文字」や、三省堂の６８ページ「身のまわりの文字」を大変楽しく拝見しました。文字の魅力や歴史を感じますし、文字にはいろいろな役割があることを視覚に訴えかけてくるところが、これらのいいところだと感じました。

東京書籍は、１０ページの点画について、他者と比べて力の入れ方や止め方、流し方が分かりやすく、親しみやすい表記になっていて、基本を学ぶという点でとても充実していると思いました。

光村図書は、「学びのカギ」が細かく出ています。国語の教科書の「学びのカギ」と親和性があり、子供たちにとっては、素直にそこに注目できて、結果的に学習ができるのだろうと思いました。例えば６６ページの「学びのカギ」で、「点画の省略」という形で具体的なものが挙がっていますし、７０ページにも「学びのカギ」という表題で、楷書と草書の違いが具体的に示されていて、子供たちがこの教科書に触れることで自然と学んでいける仕掛けがあるところが優れていると思いました。また、現場で「書写ブック」の使い勝手がいいという意見があることも踏まえて、光村図書がいいのではないかと思います。

田邊委員

文字をきれいに書く、伝わるように表現するというのが書写の役割だと思います。費やす時間数は少ないかもしれませんが、文字なくして授業は成り立たないし、話し合いにもつながらないことからすると、とても大事な役割を果たしていると思います。

ただ、墨で書くのか、鉛筆で書くのか、あるいはタイピングなのか、書く術は多様に広がっているので、そのあたりは、使う道具によって何をどう伝えるのかということを丁寧に学習すれば、それだけ深い学びになる気がします。

書く手段として最も多くを占めるのは、鉛筆でノートに書くということだと思います。その点については光村図書が、これは抜刷りになると思うのですが、漢字の丁寧な書き表し方をしっかり指導している点が目立ちます。最初から墨で書くスタイルだと、導入としては準備も心構えも必要になると思いますが、きれいに書くスキル、伝わるように書くスキルをいかに身に付けるのか、それを生活の中で目にする機会がいかに多いのか、そこから何を読み取るのかということを学ぶことが書写の役割であるとすれば、そういうことに目配りされているのは光村図書ではないかと思います。それぞれの教科書に良さがあるので、すごく秀でているという評価にはなりませんが、かなり広がりをもって文字を扱う、文字を書く、そして文字からいろいろなものを読み取るというところにアクセントを置いた教科書作りになっている光村図書がいいと思います。

野口教育長

大人になっても毛筆で字を書く機会が多くあって、特にご祝儀袋や香典袋は筆で書きます。東京書籍の資料の１４ページにご祝儀袋の書き方が出ていて、その下には出欠の出し方も示してあります。これは大人になっても大事なマナーですので、こういう点が東京書籍はいいと思いました。中身はどの会社もほぼ同じだと思っています。

教育出版は写真の使い方が上手だと思います。８～９ページの「姿勢と用具の使い方」で写真を大きく撮ってあります。

鉛筆の持ち方については私も総合訪問をしていて非常に気になるのですが、三省堂は１０ページに鉛筆の持ち方が書いてあります。他の会社はここまで書いてありません。三省堂はＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄという見本を示し、「望ましいのはＡの持ち方だ」という言い方をして、全否定はしていません。「望ましいのは」という言い方をして配慮しながら、でも、Ｂ、Ｃ、Ｄは少し考えようというメッセージがあっていいと思いました。

最終的には私も光村図書でいいです。光村図書は３２～３３ページの「用具の準備・片付け」の中で、左手で書く人の置き方にも配慮していますし、

	先ほどから出ている「自分らしい文字」も素敵だと思います。 配慮という部分では、やはり光村図書がしっかりしていると思います。分冊形式になっている方がいいということもありますし、同じ発行者がいいというお話もありましたので、光村図書でよろしいと思います。 全会一致しましたので、光村図書でよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
野口教育長	それでは、書写は光村図書に決定しました。

○種目「英語」

［英語：説明の概要（選定委員長）］

英語は、６者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目８に関して、既習事項を活用して主体的に自分の考えを表現できるよう工夫されている。例えば、ご当地グルメや自己に取り入れたいユニバーサルデザインについてなど、生徒が主体的に考え発表する活動が設定されている。その他、項目１、６、１０についても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目３に関して、「Stage Activity」では、目的・場面・状況が生徒にとって分かりやすく、自分の考えを段階的に整理し、着実に表現する力が身に付くよう配慮されている。ミニディベートをするための手順が段階的に示され、実際に生徒がミニディベートを行えるよう工夫されている。

開隆堂は、Ａ－１の項目１に関して、知識・技能を確実に身に付けることができるよう配慮されている。各単元で基本文が漫画とともに紹介されており、どの生徒にとってもその使用場面が容易に理解できるよう工夫されている。その他、項目６、８、９についても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２に関して、「Review&Retell」では、イラストやキーワードを基に内容を自分の言葉で再現する活動が設定されており、思考・判断しながら表現力を育成できるよう工夫されている。そこでは、せりふ文だけでなく、自分の感想も加えるよう配慮されている。その他、項目３についても特に優れた内容が見られる。

三省堂は、Ａ－１の項目９に関して、充実した言語活動になるよう図られている。「Project」では、例えば目覚まし時計についてのラジオＣＭを作る活動が設定されているなど、ペアやグループで協働しながら、生徒自身が伝える内容を整理し、課題を解決することができるよう配慮されている。その他、項目３、５、６、７についても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２に関して、「Take Action!」では、例えばオンラインショッピングの説明を読み、自分なら誰にどのヘッドフォンを勧めるかを考える活動が設定されているなど、複数の情報の中から必要なものを選択したり抽出したりして、自分の考えや気持ちを表現する力が身に付くよう工夫されている。その他、項目１、４についても特に優れた内容が見られる。

教育出版は、Ａ－１の項目５に関して、ＳＤＧｓに関連した学習の充実が図られるよう配慮されている。例えばドギーバッグについてディベートを行う活動が設定されているなど、現在問題になっている食品ロスなどの環境問題や、児童労働等の社会問題が多く取り上げられている。その他、項目１０についても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、「Grammar」では、例えば意味のまとまりを色の違いによって示すなど、文法事項が色別で見やすくまとめられており、構造的に理解しやすく、ペアの会話を通して文法事項が確実に定着するよう工夫されている。

光村図書は、Ａ－１の項目９に関して、充実した言語活動になるような工夫が図られている。「You Can Do It!」では、例えば「海外の生徒の制服は必要である」などの意見について、グル

ープで考えを深めたり、友達の意見を参考に自分の考えを再構築したりするなどの活動が設定されている。その他、項目１、３、７についても特に優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目１に関して、学習内容が定着しやすいよう工夫されている。「Active Grammar」では、例えば複数のユニットで学習した事項について、その場面を想起しながら比較し復習できるよう工夫するなど、ストーリーと関連付けて文法事項を復習することができ、場面と意味が分かりやすく配慮されている。その他、項目３について特に優れた内容が見られる。

啓林館は、Ａ－１の項目２に関して、思考力・判断力・表現力が身に付くよう配慮されている。「Project」では、例えばＡＬＴにインタビューをして聞き取った内容を文章にまとめる活動が設定されているなど、既習事項を生かし、４技能５領域を統合的に活用できるようになっている。

Ａ－２の項目２に関して、「Think&Speak(Write)」では、例えば災害時のとるべき行動についてなど、聞いたり読んだりしたことを基に、段階的に自分の考えを発表する自己表現活動につながるよう工夫されている。

選定委員会での質疑応答の内容は以下のとおり。

文法の定着において重要な、文法事項を扱う時期や順序の違いについて、「者による優劣はつけ難い」。

「CAN-DO リスト」の使いやすさについて、「どの者も大きな差はない」「どこでそういう内容を学んだかということを生徒が確認できるようなリストになっているものがふさわしい」。

開隆堂と教育出版は同じデジタル教科書の会社で作成しているがよさが異なることについて、「例えば自分の発話を録音して聴くことができるかどうかの違いがある」。

ネイティブとのコミュニケーションについて、「どの教科書も基準を満たして作られている」「Ａ－１の項目９が優れている教科書がふさわしい」。

「開隆堂の教科書は、初めのガイダンスの部分で英語の音について触れているページがある」。

小学校の教科書と中学校の教科書の関連性について、「各者で大きな差はないものの、東京書籍では１年生のユニット０からユニット４まで、三省堂ではユニット１から４まで、小学校との関連を示す表現の工夫がこの２者には見られる」。

英語が苦手な子供たちが学びやすい教科書については、「二次元コードが充実しているもの、興味をもてる内容が多いもの、教科書が文字で埋め尽くされていないようなものがいい」。

人権問題に関わる題材を取り上げている発行者について、「三省堂ではマララさんやキング牧師が取り上げられている。それ以外にも、題材としてパラスポーツを取り上げている者がある」。

英語を勉強してでも読んでみたいと思わせるような題材について、「三省堂では日本文化としてアニメや漫画について取り上げられており、日本語と英語における漫画の注釈の付け方の違いなどが扱われている」「スポーツ選手など、今話題の人たちを取り上げている者もある」。

小学校と中学校の発行者が異なる場合の、新出単語や語句などを知る上での支障について、「それほど大きな支障はない」。

各者の教科書の巻末にあるワードリストの使いやすさについて、「大きな差はない」。

その他、「東京書籍の教科書は、帯活動用の『Small Talk』というページが、経験の浅い先生でも対話練習の際に使うことができて、会話力を身に付ける意味でとても使いやすい」「開隆堂の教科書の『Review&Retell』が、本文の音読や意味の理解にとどまらず、それを他者に伝える活動をすることで表現力が付くものになっている」「東京書籍の『Stage Activity』、開隆堂の『Our Project』、三省堂の『Project』は、学期ごとのまとめで使用される箇所だが、これらの活動が各者とも丁寧に記載されている。その中でも特に開隆堂の活動がとても丁寧に書かれている」「三省堂では人権問題が取り上げられており、また、世界で使われている英語、グロービッシュという観点で、インド映画が取り上げられている」「１人１台端末の Chromebook を使ってデジタル教科書で家庭学習をすることで、英語が苦手な子でも、英語が身に付くような活動を継続して行うことが可能である」という意見・感想があった。

以上のような議論が行われ、最終的に６者のうち東京書籍、開隆堂、三省堂、光村図書が高く

評価された。

［英語：質疑応答］

大島委員　私の記憶では小学校の教科書は東京書籍だったと思うのですが、仮に者が替わった場合、２年生、３年生の教科書の使い方はどうなるのでしょうか。

事務局　「令和７年度使用文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書の需要数報告に当たっての留意事項について」の通知文において、英語に関しては、「学習指導要領において、３学年分の指導内容が一体となっているが、教科書は学年別に発行されている。そのため、採択教科書を変更した場合、第１学年については採択変更後の発行者の新版教科書を使用するが、第２学年及び第３学年については、学習内容の連続性に配慮し、原則的に採択変更前の発行者の新版教科書を使用すること」となっております。

木村委員　「CAN-DO リスト」について、生徒が確認しやすい教科書が望ましいというご意見があったということですが、それはどの発行者でしょうか。

英語調査委員　生徒が各活動で何ができるようになり、それをどの単元で学んだかを確認できるようになっている教科書は、三省堂ではないかと考えております。光村図書も同じように書かれてはいるのですが、少し複雑といいますか、子供たちがこれを見たときに、絞り込むには少し時間がかかるかなと捉えております。

田邊委員　展示会で聴取された意見の中に、「できればアメリカ英語に偏らず、どの国や民族にも通じる英語であってほしい」、要するにもう少し他の英語圏にも触れるような記述が欲しいという意見があるのですが、このあたりはどのように受け取ったらよろしいでしょうか。

英語調査委員　音声については、学習指導要領の解説編の「発音」という項目に、「現代の標準的な発音がふさわしい」と書かれています。今の教科書にはアメリカの英語が多いというご指摘ですが、日常的に一番使われている英語はアメリカ英語であると捉えております。

大島委員　田邊委員の今の質問に関しては私も非常に興味があります。各者、多様性を重要視されていて、中には英国出身の教師が話す音声もあるのですが、どう聞いてもアメリカ英語のような気がするのです。そのあたりも、今おっしゃった基準に沿っているということでしょうか。

英語調査委員　私たちはそのように考えております。

櫻吉委員　発音の指導について、発音記号を読むとかフォニックス的なものとか、そういうものは教科書間で差はありましたか。

英語調査委員　新出語句については、発音記号が付いているものもあれば付いていないものもあります。実際の学校での指導においては、学年の段階によって発音記号を用いて指導していくのが適切な場合もあります。

櫻吉委員　巻末にはどの教科書も少しずつ発音記号が出ていますが、それは授業で扱うのですか。

英語調査委員　巻末に出ているようなものはもちろん扱っていますし、発音については Chromebook を使って聞くことができるようになっています。当然、私たち

英語教師が発音して指導するのが大前提ですが、生徒が自分で二次元コードを読み取り、それを繰り返し聞いて発音をまねして身に付けていくことはできるようになっています。

櫻吉委員

黙読するときも、結局、頭の中では音声を聞いている形になりますよね。正しい発音が分からないと、なかなか黙読も進まないのではないかと思ったので、その辺がどうなのかと思って質問しました。

もう１点、教科書とは関係ないのですが、最終的に中学校を卒業するときにどの程度の能力を目標としているのですか。会話だったらこのくらいできるとか、読みであれば何文字程度をどのくらいで読むとか、そういうものはあるのですか。その目標にきちんと到達できるかどうかということも、教科書を選ぶときには関わってくると思うのですが。

英語調査委員

先ほどの学習指導要領の解説によりますと、例えば話すことであれば、「関心のある事柄について簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする」ということが書かれております。

櫻吉委員

かなり高いレベルを要求されているように思います。会話はトレーニングで身に付ける運動みたいなところがあると思うのですが、そこまでこの教科書で到達できるのでしょうか。でも、そこを目標にしてやるしかないということですよね。

読み書きも、たくさんの文章を読んだり書いたりするしかないのではないかと思うのですが、それはこの教科書であれば最終目標には到達できる文量であるということですか。

英語調査委員

はい。私たちはそのように考えております。当然、教科書以外の部分でもっと長い文章を読むような機会も子供たちに与えますが、教科書をベースにしてそこが達成できると考えております。

丸山委員

教科書とは直接関係ないかもしれないのですが、中学生は英検も並行して学習していますか。しているとしたら、何級ぐらいを勉強している生徒が多いですか。

英語調査委員

中学校３年生は、卒業段階では３級の取得を目指しています。

長澤委員

この教科書以外に参考書のようなもの、副教材は、生徒たちに推薦したり使っていたりするのでしょうか。

英語調査委員

金沢市では、副読本といいますか、「This is KANAZAWA」といって、金沢のことを発信していくような教材を使っております。

ワークブックについては、使用している教科書に準拠したものを使っている学校がほとんどだと思いますが、教科書には準拠しているけれども、そのワークブックを作っている会社はまた幾つかあるので、それはそれぞれの学校の担当者がふさわしいと思うものを判断して使っております。

長澤委員

ワークブックはそれぞれの先生の判断で選ばれているということですが、それが文法や単語を補強する副教材になるという理解でよろしいでしょうか。

英語調査委員　はい、そのようになると思います。

長澤委員　この教科書の中で、生徒が自習・自学する場合に、学習を進めやすいと思われる発行者はありますか。

英語調査委員　三省堂は、２年生の６ページに「For Self-Study」というものがあります。これは自分で勉強していくためにどうするのかということで、例えば教科書の上手な使い方や、３年生の６ページにある英語に向き合うこつ、４２ページにある単語の覚え方などがあります。この４２ページでは、単語の共通イメージを一つ挙げて、そこから派生して新たな単語を身に付けていく。つまり、新しく出合う単語であっても、前にその単語が含まれていた部分からその新しく目にした単語の意味を推測していくことができるという単語の覚え方が紹介されています。

［英語：審議］

長澤委員　東京書籍と三省堂で迷っていて、まだ結論が出ていません。皆さんの意見を聞きながら最終的に決めたいと思っています。

ｂｅ動詞と一般動詞の区別が分かっていない生徒は結構いて、学年が進んでも実は分かっていない子がいるのですが、ｂｅ動詞と一般動詞の説明が丁寧に書いてあるのは東京書籍でした。１年生の教科書の２８ページ、２９ページですが、どのようなときにｂｅ動詞で、どのようなときに一般動詞なのかということが、色付きで語順も分かりやすく説明されていました。

三省堂は１年生の５１ページ「Language Focus 2」のところで、ｂｅ動詞と一般動詞の使い分けが書いてあるのですが、分かっていない子に対する説明としては不十分な印象をもっています。

他の発行者でも説明はあるのですが、薄かったり、丁寧に書いてあっても１年生が見るものとしては取っ付きにくかったりして、東京書籍の説明は見やすさと丁寧さで群を抜いている印象をもっています。ただ、先ほどの質問で、他の教材を学校の先生の判断で足しながら文法などをフォローしているというお話だったので、必ずしもここに十分書いていないから不十分ということではないと思っています。

一方で、三省堂がいいと思うのは、教材の本文の中でもきちんと横線が引いてある点です。例えば１年生の４０ページの本文に、きちんと文字をそろえて書くということが大きく挙がっているので、生徒にとっては書き方を含めて学びやすいかなと思っています。

加えて、先ほどのご説明の中で、Ａ－１の項目９「『自分で　みんなで考える金沢型学習スタイル』に基づく学習が展開できるような構成や工夫が図られていること」を重視されているというお話がありました。こういう視点で見たときに、三省堂は「Project」という項目の中で、ペア・グループで協働しながらさまざまな活動ができる仕組みを作られているので、三省堂の教科書に従いながら授業を進めていくと、子供たちは自主的・主体的な会話・協議を英語を使いながら学んでいくことができて望ましいのかなと思っておりまして、東京書籍と三省堂の間で悩んでいる状況です。

大島委員　長澤委員がご発言されたことは私も同感で、東京書籍と三省堂で悩んでいて、どちらも非常に素晴らしいところがたくさんあると思っています。最終的には金沢の子供たちがどこを目指すかというところにもなってくるとは思うのですが、なかなかその辺の整合性がまだ取れていないというか、今のところ２者で悩んでいて、他の委員のご意見も聞きたいと思っています。

田邊委員　それぞれの発行者でそれぞれの良さがあるので、どの教科書でも先生方

が授業で使いこなされていくと思います。とはいえ、一つに絞らないといけません。
英語は４技能をバランス良く育んでいくということがあるので、それぞれの単元の流れを見ていくと、一般的には会話を聞いて、何を言っているのかとか、文法的な知識を深めたりするのが英語の一般的な学習スタイルです。この点で、三省堂は「Small Talk」から入り、そのチャプターの話題に関することを導入として話し合ってイメージを膨らませ、そこからだんだんと会話につなげていくような工夫があり、他者にはない特徴といえます。他者はリスニングとヒアリングをして、そこから英語に関わるスキルやノウハウを学んでいくということですけれども、三省堂の場合は、その章で扱う問いを考え合うことから、イメージを膨らませるという導入があることが、大きな特徴になっています。
それから、それぞれのチャプターでの話題が、総じて中学校生活をイメージして、新学期が始まったら、夏休みが始まったらというような自分事として考える展開が多いのですが、三省堂は少しグローバルな展開を設定して、特に３年生の教科書ではインド映画があったりミュージックがあったり、中学生の興味を引くような工夫がされています。あと面白いと思ったのは３年生の８３ページです。デザインや行動経済学に結び付くような話題が取り上げられているのですが、右の写真は階段のステップに数字が書いてあり、これは何を示しているのだろうという問いが下に書いてあります。これは、階段を上がるとカロリーをこれぐらい費やすことを示しています。身の回りの事象を自分事として考えられるように、そしてグローバルな課題解決にもつながるように、単元が工夫されていると思いました。
「Project」についての指摘もありましたが、学びをさらにどう発展させていくのかという活動の広がり、そして最後に「CAN-DO リスト」でしっかりと身に付ける目標を提示されている。そのあたりからすると、それぞれの教科書会社で工夫がされていますけれども、総じて三省堂が良いと思います。

木村委員　拝見していて、東京書籍か、開隆堂か、三省堂かなと思いましたが、開隆堂の「英語早わかり」は私が見て分かりやすいレベルですし、小学校は東京書籍なので、どうなのかなと思ったりもしています。各者、「Unit Activity」だったり、身近な題材に配慮した「Action」だったり、三省堂は「Goal Activity」だったり、それぞれ単元末できちんと確認しながら学びを深めているところが３者の優れている点かなと思いました。

丸山委員　私は東京書籍か三省堂で迷っています。教科書の構成的には東京書籍の方がとても見やすいというか好きなのですが、文章の内容的には、平和や異文化理解も含め、三省堂の方がいいのかなと思います。
ただ、これは全者に言えることなのですが、英語の教科書がとてもカラフルになり過ぎて、逆に分かりにくいというか、文章が目立たなくなってしまっていると感じています。イラストとか写真とか、カラーが多過ぎて、英語自体がちょっと見にくくなっていると個人的には感じます。
その中で、ちょっと難しいのですが、構成的には東京書籍が優れていると思うのですが、内容的には三省堂なのかなと思っています。

櫻吉委員　私も皆さんのご意見を聞いて考えようと思っていたのですが、いくら聞いても本当に差がなくて、決め手がないです。
強いて言うならば三省堂が、先ほど選定委員長からもありましたけれども、例えば単語の覚え方やリスニングのこつ、類推の仕方などがあっていいのかなと思います。どれだけ覚えても知らない単語は絶対に出てきますし、英語の文章を読むときに全て辞書を引くことはないですよね。それは

ある程度の知識があれば飛ばし読みというか、無視して学習を進めたりできるので、そういうヒント的なものが三省堂は親切だと思いました。
ただ、内容的なものは本当に差がなくて、どちらを選んでもいいのかなと思いました。

野口教育長

私は１年生で英語を好きになってほしいという思いで教科書を見ていて、迷いましたが、最後は三省堂でした。
なぜかというと、取っ掛かりから東京書籍の教科書は英文が多くて、すごく疲れるだろうなと感じるのです。その点、三省堂の方は絵やイラストや写真をふんだんに使いながらも、押さえるところはきちんと押さえているという構成になっていますし、レッスンごとの流れも大変分かりやすい構成になっています。学年が上がるに従って英語をふんだんに使うようになっていき、英語を学びやすくしているという工夫もあります。学年ごとに英語の量を考えてあるのです。小学校では東京書籍を使っていますが、それは別問題として、中学校は三省堂の方がいいと思っています。

長澤委員

委員の先生方の意見を聞いていて、強く思ったことを言います。三省堂のいいところについてなのですが、先ほど田邊委員がおっしゃった、中学生の生活の中で使われる自然な会話を扱って導入していくというところは、語学を学ぶ本質なのかなと思いました。
あくまでも言葉というのは生活の一部であり、コミュニケーションの手段であり、赤ちゃんは文法を知らない中でも言葉を浴びて吸収していきます。私たちは母国語以外の言語として英語を学ぶときには最終的に文法を理解しなければいけませんが、いきなり文法から入るのではなく、最初は自然に、普段の会話や普段の生活の中でどのように使うのだろうかというところから入っていき、後からその仕組みや文法を理解していくというのが語学を学ぶ自然な流れだと思うと、三省堂は本当に考えて作られていると思いました。
小学生の英語と違い、中学生になると、英語の学習の進み方に個人差が大きく出てくると思います。最初はこういう形で丁寧に入っていくのですが、１年生、２年生、３年生と進んでいくにつれて、英語に対する親和性や理解度はかなり変わっていきます。それは当然のことだと思いますので、そういったときには、その子が学びやすいような形で自習・自学するツールとしてこの教科書が生きることを期待します。そう考えると、先ほどご説明いただいた「For Self-Study」なども使いながら子供が英語に親しんでいくのが理想かなと思いましたので、今の私の気持ちとしては三省堂がよろしいかなと思っております。

木村委員

やはり自分は東京書籍か、開隆堂か、三省堂かという中で、これがいいという決定的なものが見つからないのが現実なのですが、皆さまのご意見を聞いておりますと、三省堂がいいのかなと思います。

櫻吉委員

長澤委員がおっしゃったように、３年生の教科書を比べると、確かに三省堂は最初に会話や導入部分があって本文にいきますが、東京書籍はいきなり文章から始まっています。不得意な子を取りこぼさないように何とかつなぎとめるというか、興味や取っ掛かりを学年が上がっても保つという点では、三省堂は工夫されているのかなと思いました。
本当に内容的には差がなくて決め手がないので、どちらでもいいと思うのですが、お話を聞くと、そういう点では三省堂がいいのかなと思いました。

丸山委員

私もずっと迷いながらも、「Project」の内容をよく読んでみると、グループ学習でうまく活用できる内容になっていると感じました。「Project」

は一つの教科書に３カ所ぐらいあると思うのですが、その内容を見ると、金沢型学習スタイルが反映できる内容になっているので、最終的にどちらが優れているかというと、三省堂の方が良いのかなと思います。

大島委員　なかなか決定打が見つからないのですが、皆さんのご意見を聞いたり、取っ付きやすい話題や、外国人と日本人をつなぐアニメや漫画のコンテンツなどもふんだんに使われていたりすることを考えると、三省堂がいいのではないかと思います。

野口教育長　昨年の小学校の採択のときも随分議論し、書くところのスペースの問題が話題になっていたと思います。金沢の子供たちはこれまで英語を学んだ基礎があるから大丈夫だと思います。ということで東京書籍の教科書に落ち着いた記憶があるのですけれども、中学に入ったときには英語の学びが大きく変わってしまい、英語が子供にとってハードルの高い教科の一つになるのかなと思うと、なるべく英語嫌いを生まないような配慮がされているという意味では、三省堂の「NEW CROWN」の方がよく編集されているのかなと思います。ということで、三省堂でよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　ありがとうございます。それでは、英語は三省堂「NEW CROWN」に決定させていただきたいと思います。
それでは、本日予定しておりました３種目の審議が終了しましたので、確認させていただきます。国語と書写については光村図書、英語については三省堂を採択することに決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　ありがとうございます。
次回は８月２１日（水）、定例の教育委員会議の後に、美術、保健体育、理科、道徳の４種目について審議を行いたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。
以上で本日の審議を終了いたします。ありがとうございました。

以　上

令和６年　第７回教育委員会定例会議　会議録（第４回）

１　日　時　　令和６年８月２１日（水）
　　開会　　１５時３０分
　　閉会　　１９時００分

２　会　場　金沢市役所　第二本庁舎　２階　２２０２会議室

３　出席委員（７名）

教育委員長	野口　弘
教育委員	田邊俊治
〃	大島淳光
〃	木村陽子
〃	櫻吉啓介
〃	丸山章子
〃	長澤裕子

４　欠席委員（なし）

事務局	教育次長	堀場喜一郎
	担当次長（兼）学校指導課長	貞廣賢了
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	小川隆庸
	学校指導課主席指導主事	古川雄次
金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会		
	委員長	松原道男
教科用図書調査委員		

５　案　件
非　　議案第３１号　令和７年度使用中学校教科用図書の採択について　　（学校指導課）

６　議事の経過等　　以下のとおり
議案第３１号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、美術、保健体育、理科、道徳について採択を行った。

［案件の説明及び諸報告について］
案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

［主な質疑・応答の内容について］
○ 議案第３１号 令和７年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）
○種目「美術」
［美術：説明の概要（選定委員長）］
美術は、３者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

開隆堂は、調査研究報告書Ａ－１の項目２について、多様な参考作品を示し、思考力・表現力が育まれるような工夫がされており、発想・構想の面で実際にどのように構想が進んでいくかという流れを、題材ごとに説明文や写真をもって説明されているところが工夫されている。その他、項目４、５、７に特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目４について、より深く作品を鑑賞できるような工夫がされている。例えば印象派の写真で特に拡大されているところが多数載っている。印象派の時代の作品を作家によって表現技法など細部が分かるようにされており、さまざまな視点から鑑賞できるように工夫されている。その他、項目７にも特に優れた内容が見られる。

次に、光村図書である。調査研究報告書Ａ－１の項目３について、題材ごとに「みんなの工夫」と題して、生徒の制作の軌跡や様子が詳細に紹介され、作者の制作意図が理解しやすく、生徒の興味・関心を引き出すような工夫がされている。また参考資料として、作者のインタビュー動画も二次元コードで見ることができ、親近感をもって自発的に制作に取り組めるような配慮がされている。その他、項目１、２、４、５、７、８にも特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の３項目について、技能を習得するための詳細な資料を見やすく別冊にまとめている。美術の基礎的な知識や表現方法・技法について写真資料が充実している。また、「学習を支える資料一覧」という題で紹介されている。その他、項目２、４、７にも特に優れた内容が見られた。

次に、日本文教出版である。調査研究報告書Ａ－１の項目７である。扉絵や写真などの大きさや扱い方が適切で、生徒にとって作品鑑賞がしやすいように配慮されている。例えば折り込みのページを生かして、六曲一双の屏風絵を実際に折り畳むことができ、屏風をどう鑑賞できるのかが体感できる。その他、項目６にも特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目２である。公共施設のデザインを例に挙げ、目的や機能を考えて具体的なイメージを構築しやすくする工夫がされている。「表現のヒント」「造形的な視点」という題で、使う人の立場に立って構想できるような配慮がされている。

以上が優れた点だが、質疑応答について次のような内容があった。

「光村図書の別冊資料が高い評価だが、教員の教えやすさや使いやすさについて他者はどうなっているか」という質問に対しては、開隆堂では「美術１」の巻末に技法について出ていて、日本文教出版も「美術１」でさまざまな分野のものが紹介されているとのことだった。使い勝手については、１冊にまとまっている光村図書が良いのではないかということだった。

次に、「生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の項目について、光村図書では『みんなの工夫』という項目があったり、作者のインタビュー動画について触れられたりしていたが、他者ではどのようなものが見られるか」という質問があった。特に開隆堂はメモ書きのようなものがあり、作品を作り上げていくときにどんな工夫にしていくのかが分かりやすく説明されているということだった。また作者の言葉をインタビューの形で読むことができるということだった。日本文教出版にも「作者の言葉」というのがあり、そこでも作者の意図が分かるようになっているとのことだった。

次に、大人になってからも美術に関心をもち、心豊かに人生が送れるようにということで、生涯学習の視点から質問があった。例えば開隆堂は、自分たちが生活している中でどんな美術作品があるか、素材は何であるかなど、次代につなげていけるような、例えば金接ぎなど伝統についても触れているページがあるということだった。光村図書には伝統工芸の一覧があり、「美術の力」というところで、常に生活とともにある美術が紹介されているということだった。日本文教出版は、「人の暮らしを豊かに」という題で、美術が生活に欠かせないものであるなど、目的などによってどんどん変わっていくし、大切なものだということを伝えるページがあるとのことだった。

次に、学習評価の点から扱いやすい教科書ということで質問があった。それぞれの教科書の各題材のところに学習目標があり、どれが良いかというのは甲乙つけ難いということだった。

次に、「美術を生徒が身近なものに感じられる設定は」という質問があった。例えば、開隆堂は

ピクトグラムを紹介しているとのことだった。光村図書は「生活の中の焼き物」ということで、実際に使うことも考えて、器に盛ることも併せて実際に作り出したり、それを鑑賞したりするページがあるということだった。日本文教出版は「手で触って」というところで、木の肌触りや自然木の木目などから、ちょっとほっこりするような作品なども紹介してあるということだった。

その後、選定委員会からは、「開隆堂の表紙の、手で触って感じるというのは非常に魅力的である」という感想があった。光村図書は、「版画のページの紙質が違うところが良い」、「資料が別冊というのは、取っておけるので生涯学習的にも良い」という感想があった。また、「どの教科書会社も２・３年の巻末ページにとても良い言葉が書かれていて、生涯学習にもつながるような内容なので、ぜひ授業でも最後まで取り扱ってほしい」という先生方に対するご意見、ご感想があった。

以上のような内容で、最終的には３者のうち特に評価が高かったのは開隆堂と光村図書だった。

［美術：質疑応答］

野口委員長	お手元に教科書がありますが、開隆堂は「美術１」「美術２・３」の２冊になっています。光村図書は、「美術１」とそれに付属する資料、そして「美術２・３」の３冊があります。日本文教出版は「美術１」と「美術２・３」が上下に分かれて３冊という形になっていますので、３者それぞれ編修の仕方が違っていると思います。それも含めて何かご質問ありましたらお受けしたいと思います。
長澤委員	日本文教出版の「２・３」が上下に分かれている意図と、使いやすさ等について教えてください。
美術調査委員	前回の教科書でも、日本文教出版は３冊の構成でした。編修趣意書には、第２学年と第３学年の発達の特性を考慮した題材を提供するため、教科書を３冊分にしているとあります。使い勝手については、現場で授業をする際は「２・３」が上下に分かれているよりも１冊にまとめていただいた方が扱いやすいと思います。
長澤委員	上下に分かれているので、２年、３年それぞれの学習のときに、基礎的なものが上にあって、下の方で実践というふうに分かれているわけでもないのですね。
美術調査委員	はい。
櫻吉委員	授業の進め方についてお聞きしたいのですが、この教科書にある内容を全て授業で行う形になるのでしょうか。
美術調査委員	１年生は年間４５時間で、２・３年生は３５時間となっています。教科書の内容を全て学習しようとすると、実際のところどうしてもできません。なので、各学校で、３年間を通じてどのような力を付けさせたいかという観点で、工芸からはこれ、絵画だったらこれ、鑑賞だったらこれというふうに選択しないとできない形になっています。
櫻吉委員	鑑賞は、例えば教科書を使って実際にされるのでしょうか。
美術調査委員	鑑賞については、光村図書だと１年生の教科書６８、６９ページに鑑賞する際の最初の取りかかりとして、どのような見方をすればいいのかということをまとめてあります。私はこちらをぜひ使わせていただきたいと思いました。 ２・３年生の教科書であれば、６６、６７ページがピカソについての鑑

賞のページになります。どういった視点で鑑賞するのかということが説明されており、生徒に紹介するときにもぜひ使いたいと思っています。なので、教科書を使うことはよくあると思います。

櫻吉委員　表紙は鑑賞の対象になってくるものですか。

美術調査委員　表紙も割と大きく図版で紹介されていて、開隆堂ですと表紙を触ったときに立体感があるのと、素材感の違いというか、つるつるしていたりざらざらしていたりしますし、２・３年生の教科書では、触ったときにマチエールというのですか、ゴッホの作品の凸凹のところがとてもユニークで、生徒に触らせて感想を聞こうかなと思うところです。開隆堂はこういうところがいいと思っています。

大島委員　美術という科目は、生涯学習的な部分とか、私個人の意見としては学ぶというよりも感じたり、他の科目と少し色が違うような感じを受けています。そういった意味では、他教科との関連を授業の中で学んだり、他の教科書を利用しながら一緒に学んだりすることは具体的にあるのでしょうか。

美術調査委員　光村図書の「美術１」の５５ページをご覧ください。数学との関連で、このように目で見て分かりやすいといいますか、光村図書だけが数学だけでなく他教科との関連においても非常に詳しいです。なので、関連付けて学習できるという点では光村図書が優れていると思います。

丸山委員　各者見開きのページがかなり工夫されていると思うのですが、授業で使いやすい、あるいは使いたいというところはありますか。

美術調査委員　光村図書から紹介していくと、「美術２・３」の１２、１３ページの「最後の晩餐」のシーンですが、結構拡大して見せないと、どういう人が描かれているのかとか表情までは見えなくて、レオナルド・ダ・ヴィンチが絵を描くときに表情や手のしぐさなどの細部まで描いている点で、今までの宗教絵画とは違うというところを鑑賞する上では非常に優れていると思いました。
開隆堂の「美術２・３」は２８～３１ページが見開きになっています。ページ数を結構使って印象派のいろいろな作品を紹介しており、それぞれの作家によって作風が違うので、こういった作品を大きく載せているところが魅力だと思います。
日本文教出版は、先ほど一度お示ししたと思うのですが、「美術１」の２４、２５ページです。これは面白いと思ったのですが、屏風絵を普通に広げて鑑賞するだけでは終わっていなくて、実際に折り曲げることによって、屏風全体のイメージが非常に伝わりやすいと思います。他の教科書では見られなかったので、日本文教出版はその辺がすごいと思っております。どの教科書においても工夫されてはいると思います。

木村委員　光村図書の２・３年の教科書の真ん中あたりに和紙のページがありますが、こういうのは今までの教科書にあったのでしょうか。

美術調査委員　前回の光村図書にもありました。ただ、そのページは１枚だけだったのですが、今回は何ページにもわたっています。やはり紙が違うということで、肌触りや質感が違うのが伝わってきますので、こうしたところは前回の教科書と比べても非常に優れていると思います。
鑑賞のときも、日本の伝統文化を紹介するために四季、動物、不思議、余白、構図という五つのキーワードから迫るところも面白く、授業のとき

に非常にやってみたいと思うような構成になっています。

木村委員　より本物に近づけるという感じは体験できるので優れていると思いました。美術の授業は教科書を使ってされることがほとんどだと思うのですが、実物を見ることはありますか。例えば展覧会があったら、実物を見て鑑賞することはないのですか。

美術調査委員　学校によると思います。例えば２１世紀美術館と連携している学校も年に何校かありますし、春には部活動の日があって、そのときにも市内の中学校の美術部員の生徒が２１世紀美術館の本物の作品を鑑賞する機会があります。授業というわけではないのですが、金沢市はそうした機会に本当に恵まれていると思っています。

木村委員　教科書で見るのと実物を見るのでは随分違うと思うので、そういう体験も必要だと思いました。

田邊委員　フォントについてですが、光村図書の資料の１０ページにユニバーサルデザイン（ＵＤ）フォントと通常よく使うゴシック体ではこんなふうに異なるという説明があります。教科書はいずれもＵＤフォントを使っているという記述があるのですが、教科書展示会でのコメントの中に、「ＵＤフォントとうたっているけれども、開隆堂や日本文教出版はＵＤフォントを必ずしも全部使っていない」という指摘がありました。ＵＤフォントとうたいながら、そうでないという指摘があったので見比べようとしたのですが、気になる人は気になるのかなと思ったりしたので、そのあたりは気になることなのか、教師の立場からお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

美術調査委員　調査委員会では特に気になりませんでした。

田邊委員　分かりました。

野口教育長　どの発行者の教科書もＳＤＧｓとのつながりが見て取れます。また道徳のつながりや他教科のつながりは先ほど光村図書でご紹介いただきました。現行の指導要領は多角的・多面的な見方で教科を学んでいくことになっていますが、例えば海洋ごみや地球温暖化、安全の問題などの社会的な問題とつながっているような特徴的な教科書はありましたでしょうか。

美術調査委員　光村図書の「２・３」の４ページ以降では、「私たちに問いかける美術」ということで、ＳＤＧｓに関わることを大きな写真や図版を使って紹介しています。どのＳＤＧｓの項目とリンクするかというのも写真の隅に載せていて、非常に分かりやすくまとめられているという印象があります。
開隆堂の２・３年生の教科書の１１２、１１３ページ以降では、「持続可能な未来へ」ということでＳＤＧｓに関わるものが紹介されています。こちらは何ページかにわたって割と大きく紹介されています。
日本文教出版は「２・３」上の４２、４３ページで、先ほどの二つの教科書会社のように大々的に何ページも費やしてということではないのですが、関連ということで、ページの下の方に小さく出てきます。

［美術：審議］

櫻吉委員　どの教科書も甲乙つけ難くて、素晴らしいと思いました。卒業してしばらく経ったときに、教科書に載っていた有名な絵を何かの機会に見ると、教科書に載っていたなと思い出すことがあると思います。
鑑賞の面から評価すると、開隆堂の表紙はテクスチャーになっていて、

手で触って凸凹が分かるようになっています。ゴッホの絵はものすごく絵の具を盛った絵ですが、それを表現されているのだろうと思いますし、裏面を見ても著者の紹介が壺の形にデザインされていて本当に工夫されていると思いました。

光村図書の版画の部分は和紙が使用されていて、これも手触りを工夫されている。道徳の教科書に目の見えない人の美術鑑賞の話があって、「視覚障害者にもこのような鑑賞を促せるような工夫がされているのだな」と思いました。

日本文教出版は、１年の表紙がスーラの作品ですが、どれもかなり原寸大を意識しています。これも非常に緻密な点描画で、近くで見るとオレンジ色や黄色が混じっているのに、離れるとそれが消えて、目の解像度を超えるのだと思いますが、１色に見えてきます。額縁も全て点描画になっていて、実際ものすごく大きな絵で、見たら驚くと思うのですが、それが詳しく出ていていいなと思いました。

３者通じてどのような作品が鑑賞の絵として出ているかなと思って見たときに、ピカソの「ゲルニカ」はどれも詳しく出ています。中でも光村図書が一番詳しく紹介されていたと思います。日本人の作家としては岡本太郎さんや葛飾北斎、また池田学さんの非常に大きな細密画がどれも原寸大で紹介されていて、子供たちが実際に見ることがあったら非常に驚くだろうと思いました。光村図書の２・３年生の２４ページに岡本太郎さんの作品がありますが、これは本当に大きな絵で圧倒されます。何かの機会にこういう作品を見て、「これは教科書にあったな」とじかに感じられる工夫がされているなと思います。

鑑賞の点から言うと、共通の題材を選んだものの中では、光村図書が優れていると感じました。

野口教育長　どちらの教科書もいいけれども、鑑賞という視点では光村図書が良いということですね。

田邊委員　私も、いずれの教科書も作品鑑賞をする上で非常に迫力ある掲載なので、力が込められた教科書作りをされていると思いました。絵画のみならずデザインや工芸も含めて非常に魅力的な作品が掲載されており、どの教科書を使っても生徒は充実した学習成果が得られるという気がします。

こうしたなかでも、他の教科との関連に非常に配慮されているのが光村図書で、作品のみならず、それを通して世界を広げていくという視点が工夫されています。日本文教出版は、道徳に関してはたくさん言及しているのですが、それを超えたものには広がっていないし、開隆堂は残念ながらそこまでの視点がないというふうに思います。

一方で、美術を通して社会へ発信すること、先ほどのＳＤＧｓとのつながりも含めて社会に問いかけていくことも美術の大きな役割であると考えた場合に、社会への発信を視野に置いて作られているのが光村図書なのです。社会への発信ということで、１年生の１０ページの冒頭から美術の扉を開いていって、表現を工夫するのみならず、それらが社会へ発信することでいろいろな広がりにつながっていくのだというメッセージが強調されておりますので、美術作品を作ったり鑑賞したりすることにとどまらず、それがいろいろな世界を広げていくというつながりをもっていることに目を向けていく作りになっていることが感じられます。いずれも本当に工夫された教科書作りをされていますが、それを通して何を目指していくのかという点で、光村図書の教科書が一歩秀でていると思いました。

丸山委員　私も、各者とてもきれいな写真等を使っていて本当に素晴らしいと思いました。小学校の教育から中学校の教育になるときに図工から美術に変わりますが、３者ともその導入のところを非常に上手にされていて、美術に

なるとこういうことを学んでいくのだというのがよく分かる点でも各者良かったと思います。
　ちょっと気になったのが教科書の使い方のところです。光村図書は８、９ページの「教科書を活用しよう」というところがとても分かりやすく書かれていて、他の２者は教科書の説明がちょっと小さくて見にくくなっています。開隆堂だと７ページの「教科書の使い方」がちょっと分かりにくくなっていて、日本文教出版も８ページの「教科書の使い方」のところが見にくいかなと思いました。
　教科書を活用していく際に、どこに何が書いてあって目標は何なのかというのが明確に書かれている点では、光村図書がいいと思います。資料もとても優れており、この資料一つを３年間ずっと使っていけるという点でも、別冊になっているのはいいと思います。トータル的には光村図書がいいと思います。

野口教育長　　ここまで光村図書がいいのではないかという意見が多かったと思います。

木村委員　　私も開隆堂の教科書をまず拝見して思ったのは、表紙の工夫がすごいということです。質感が分かって、こういうのは美術の教科書ならではの発想だと思いました。また、持続可能な未来やＳＤＧｓに関するいろいろな紹介があるのも開隆堂の特徴だと思いますし、順番に学んでいく流れの工夫が開隆堂は優れていると思いました。
　光村図書は、１年生の１４ページに「発想のしかたはさまざま」というところがあって、リンゴ１個をいろいろなふうに表現しているのはすごく面白いなと思いました。それで導入部分として入りやすいのではないかと思ったのと、和紙のページが断トツに優れていると思いました。「みんなの工夫」というところがあって、作品を作るまでの発想から、最後は作者の言葉まで順番を追って書いてあるところが、光村図書は優れていると感じました。それから、他教科とのつながりも丁寧に具体的に書いてあると思いました。「美術の力」では、日常生活の中に美術があるということも大変いい言葉で書かれていて、光村図書ならではだと感じました。別冊はあってもなくてもどちらでもいいとおっしゃいましたが、先ほど丸山委員もおっしゃったように、私はこれが光村図書の特徴というか、わざわざ別にしたという意図が分かりますので、やはり光村図書が優れていると感じました。

大島委員　　私も結論から申し上げると、この３者の中では光村図書が一番適切なのではないかと感じました。皆さんおっしゃるとおりのポイントで、まず子供たちが興味を強く示すためのインパクトや表現力という点では３者それぞれ特徴があるのですが、中でも全ての教科書に出ている「風神雷神」については、表現の仕方や屏風の出し方、折り方も含めて、子供たちに非常にインパクトが残ると思いますし、別冊資料は皆さんもおっしゃるとおりで、社会に出てもものづくりの基本的な部分は大事ですし、今の社会では発信力が非常に注目されていて、写真の撮り方や映像の作り方は基本的なスキルになっていくので、これは社会に出ても非常に重要な資料になるのではないかという観点から、最終的には光村図書が一番良いのではないかと思いました。

長澤委員　　私も他の委員と同様、光村図書が一番優れていると思っております。光村図書の「２・３」の４８ページに、「躍動感を捉える」という表題で、実際の生徒による粘土と針金で作った作品が挙がっています。ここでも保健体育科とのつながりということで、人物の一瞬の美しさを切り取ってみようという声かけをしているところは他の科目とのつながりが意識されてい

ます。先ほどご説明いただきましたが、どの学年の教科書でも他の教科とのつながりが意識されているところが特に秀逸だと感じています。

日本文教出版の「２・３」上の５５ページ、「人物を作る」という表題のところで、同じように針金と粘土で人物を作成するものが取り上げられています。ここは重心をどのように捉えるかというところや具体的な作成過程が丁寧に書いてあって、作業をするという点ではとても丁寧に指導できていると思うのですが、光村図書の先ほどの「躍動感を捉える」という表題の下で、さまざまな人間の活動の一瞬を捉えた生徒の作品を挙げながら紹介しているものと比べると、光村図書の方が教科書として優れているという印象を持ちます。

同じ彫刻や絵画を紹介するにしても、光村図書では「躍動感を捉える」や「環境とともに生きる彫刻」「漫画表現を楽しむ」など、さまざまな視点をきちんと表題化しており、生徒たちに何をくみ取ってほしいのか、何を感じてもらいたいのかということがダイレクトに書いてある点で、教科書として優れていると感じています。

また木村委員がご指摘くださったように、２７ページ以降で日本画を日本の紙で表現するというのも本当に秀逸だなと思いました。４０ページに、あまりにも有名な絵画の原寸大があって、子供たちがこれを見たとき、触ったときに、あの作品はこういう質感で、これぐらいの大きさだったのだなというのが、非常に五感に訴えるものとなっていて、いいなと思いました。

野口教育長　皆さん光村図書がいいのではないかということでした。３者の教科書を比べてみたときに、石川県や金沢市に触れているかというところを初めに見ました。どの発行者も２１世紀美術館は触れてありました。たまたま教科書を見ているときに安部龍太郎さんの『等伯』を読んでいたので、長谷川等伯がどこかに出ているかなと思って見たら、開隆堂には「松林図屏風」が出ていましたし、光村図書はまさに表紙で等伯の絵が非常に大事に使われています。光村図書はどちらかというと、絵よりも加賀友禅が取り扱われていて、それぞれ石川県、金沢市のことを大事にされていると思いながらほっこりとして、もう一度３者を見比べてみました。

感覚的にですが、開隆堂の方が紹介されている作品が多いという感じを受けました。それは裏を返すと文字が少ないことになります。子供たちが文字を追わなくてはいけないとなれば、美術の教科としてどうなのかなと思いました。

読み込んでいくと、子供たちが美術は面白いと思うような内容は光村図書の方が多かったという感じを受けました。美術家の言葉であったり、先ほども触れていただいた「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」という内容が出てきたり、「美術史ワールド」など、子供たちが「読んでみよう」「美術は面白い」と思えるようなところがあります。見開きも随分ダイナミックに使われていて、光村図書はなかなかいいという感じを受けています。トータルとして興味のもてる内容か、編修に工夫が見られるかという点でもやはり光村図書が秀でていると思いますので、私も皆さんと同様、美術は光村図書で学んでほしいと思ったのが正直なところです。従って、７名全員が光村図書がよいということになりましたので、光村図書を採択してよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、美術については光村図書を採用したいと思います。

○種目「保健体育」

［保健体育：説明の概要（選定委員長）］

保健体育は、４者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、Ａ－１の項目２に関して、生徒が思考力・判断力・表現力を育むことができるよう構成されている。例えば、犯罪被害が発生しやすい環境要因と人的要因等について、「活用する」というところでは、夜間に自宅へ帰る人の絵を見て、生徒一人一人の視点から危険を回避して家に帰る方法を考え、その方法を生徒同士で話し合うものがある。また「広げる」では、自分の通学路や自宅周辺を点検した後、危険性を予測、回避する方法を考え、地域安全マップを作成する。その他、項目３、５、７、９においても特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目６について、「巻末スキルブック」では、例えば応急手当てである止血法や包帯法、心肺蘇生法の手順等の通常の学習に加え、資料が掲載されており、写真や挿絵も効果的に使われている。その他、項目１においても特に優れた内容が見られた。

大日本図書は、Ａ－１の項目７について、交通事故の原因や自動車の特性についてグラフで示したり、対策例を挿絵で分かりやすく説明したりすることで、生徒にとって理解しやすい工夫がされている。章末資料では地震や集中豪雨などさまざまな自然災害が写真で紹介され、被害の様子や災害の脅威が生徒に強く伝わる内容となっている。写真や図、グラフの内容が充実していることが優れた特色となっている。その他、項目２においても特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目２について、運動やスポーツの技術の学び方の例として、体育分野にある器械運動、陸上競技、水泳など七つの運動領域の技術の学び方が紹介されている。陸上競技では、短距離走、リレーや走り幅跳びなど授業で学習する種目に関する技術が一つ一つ紹介され、学習した技術と学び方を体育の授業に生かすことができるなど優れた特色がある。その他、項目４、５、６においても特に優れた内容が見られた。

大修館書店では、調査研究報告書Ａ－１の項目８について、本市の健康課題の一つである性に関する指導内容として、特集資料には性の多様性を多面的・多角的に理解できるよう、性的マイノリティの人たちが抱えている、本当のことを伝えると人から嫌われる、いじめられるなどと感じる不安や悩み、また制服デザイナーから見た性の多様性等について紹介している。特集資料では、性に対してさまざまな考え方があることを知ることができ、性に関する正しい知識を持つことができる内容となっている点が優れている。その他、項目４、５において特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目６についてである。心肺蘇生法の流れを学習する中で、「実習」のページでは心肺蘇生法や止血法、包帯法など応急手当ての方法が、写真や挿絵を効果的に活用することで視覚的に分かりやすいよう工夫されている。またコラムでは、ＡＥＤの重要性について説明している。どのような生徒にも応急手当ての方法やその重要性が理解できるよう、優れた内容となっている。

学研教育みらいは、調査研究報告書Ａ－１の項目４についてである。「ひと・もの・こと」が掲載されており、そこで著名人の生き方などが紹介されている。例えば、柔道の創始者でありアジア初の国際オリンピック委員会委員でもあった嘉納治五郎が取り上げられ、柔道の目的である「精力善用」「自他共栄」の考えが紹介されている。このように人の生き方を紹介し、生徒たちが多様な生き方に触れながらより良く生きることができるよう工夫されている。その他、項目２、７においても特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目４についてである。調和の取れた生活を送るため、運動・食事・睡眠のバランスが大事であることを学習するために、１週間の生活チェック表を活用しながら、運動、食事、休養、睡眠といった項目について生徒が自分の生活を振り返り、調和の視点を加えながら良い点や改善点を主体的に考えられるよう配慮されていることが優れている。その他、項目７においても特に優れた内容が見られた。

以上が報告になるが、質疑応答において、「大日本図書でＡ－２の各項目について他の発行者より優れている記述が見られるが、Ａ－１の項目については、他の発行者より優れている記述が少

ないのはなぜか」という質問があった。回答としては、Ａ－１については項目ごとの資料が充実していないということが挙げられていた。

「金沢型学習スタイルの項目に関して東京書籍が優れている記述が見られるのはなぜか」という質問については、学習課題が緑色のところに提示され、その課題について生徒が自ら考え、仲間と伝え合い、深めて、しっかりまとめ、さらに「広げる」で発展的・探究的に生かせる教科書になっていることから優れているとのことだった。

次に、「大日本図書の『自然災害の脅威』は、金沢の子供にはリアル過ぎないか」という質問があった。それに対しては、子供たちの状況を見ながら先生方が判断し、情報については制限をかけているとのことで、例えばクラスに被災した生徒がいたら出さないといったことも子供の状況に合わせて行っているとのことだった。

次に、Ａ－１の項目８の記述内容について、特定の題材のみによるものなのか、総合的なものなのかという質問があった。金沢市には七つの健康課題があって、保健体育の教科書なので全ての健康課題について資料に載っており、その中でも大修館書店の特集資料にある性の資料や、東京書籍の「心の健康」や「けがの防止」「病気の予防」などが他者に比べると充実していたとのことだった。

次に、「ＡＥＤの使い方や救急車の呼び方などは実際に経験するのか。また教科書はどれも同じ内容になっているのか」という質問があった。ＡＥＤの活用については、学習する学年ごとに実際に実施しており、動画も使用しながら授業作りをしている先生が多くいるとのことだった。

次に、他教科との学びへの考慮について質問があった。それについては、関連ワードが教科書の中に多くあるのは東京書籍と大日本図書で、例えば東京書籍は「自然災害による危険」のところに家庭科や理科との関連が書かれていて、大日本図書は「リンク」という部分があり、理科や技術・家庭科との関連性が示してあるとのことだった。

それから、学習時間の持ち方について質問があった。金沢のベーシックカリキュラムでは１年１６時間×３年間で４８時間の学習を行うことになっており、例えば夏暑くてプールに入れないときや冬に外での活動ができないときは、保健の授業を少し増やすなどして調整していて、その点では教科書によるやりやすさ・やりにくさの違いはないとのことだった。

その後の意見・感想では、「東京書籍の最初のページは社会の動きと保健体育の重要性が認識できるのが良い」「東京書籍には最後に必ず、こういうことについて考えてみないかというところがあり、考えさせることが評価できる」といった声があった。また学研教育みらいは「ページの大体同じ場所に課題があって、同じ場所に発問があり、最後は『活用しよう』『広げよう』という形で終わっているので、毎回同じパターンで学習できてよいのではないか」いう意見があった。また、「５０分で授業を完結することを考えると、東京書籍の分量がちょうど良いのではないか」という意見があった。

以上から、最終的に４者の中で特に評価が高かったのは、東京書籍と学研教育みらいだった。

［保健体育：質疑応答］

櫻吉委員	その授業数だと、全てを３年間でやるのではなくて、選んで授業を行っていく形になるのですか。
保健体育調査委員	３年間で４８時間あって、この教科書の内容については全て履修します。
櫻吉委員	そうすると、教科書に沿って課題があって知識を学んで活用するという、選ばれた教科書によって授業を行うという理解でよろしいですか。
保健体育調査委員	全ての先生方に確認したわけではないので、全員とは言えないのですが、調査委員や現場の多くの先生方は、委員が言われたような活用方法で

授業を進めています。

櫻吉委員　そうすると、東京書籍の内容で活用を広げるのが一番いいというご意見ですか。

保健体育調査委員　現場の多くの先生方は、使いやすいということは言っていました。

櫻吉委員　私のところも子供たちをたくさん預かっているのですが、性教育やジェンダーに関して指導するのはものすごく難しくて、こういうことは家庭でも親御さんが伝えることは少ないと思ったときに、ものすごくセンシティブなところを伝えるにはこの教科書が優れているというのはありますか。

保健体育調査委員　性の部分については、１年生の「心身の発達と心の健康」というところで全て取り扱っているのですが、今言われたような少しデリケートな部分があるのが実際のところです。その中でも、例えば東京書籍の５１ページには、性の多様性に関する章末資料が掲載されています。そのような章末資料を使いながら補足的に勉強するところもありますし、大修館書店の４２、４３ページでも、少し補足的な資料を用意しながら性の多様性についての理解を深める内容が示されています。学研教育みらいは６６、６７ページに、内容は少し違うのですが、性の多様性についての補足資料があります。このような資料を使いながら、体の違い、心の違いだけでなく、性には多様性があるということへの理解を深める学習を中学校では行っています。

櫻吉委員　各者で大きな差はないという理解でよろしいですか。

保健体育調査委員　差はあると思いますが、先生方が生徒の実態に応じて、特にどの部分を大切にして活用するかだと思います。当然、教科書に示されている資料以外も使う先生もいらっしゃいます。

櫻吉委員　その点については分かりました。書いてある量からすると、大修館書店の教科書は内容が細かいというか、資料的な要素が非常に多く、東京書籍は割とあっさりしている印象があるのですが、東京書籍は過不足なく記載されていますか。

保健体育調査委員　東京書籍については、資料だけを見ると分量として少なく見えるのですが、実際に５０分の中で子供たちが課題をつかみ、それを考え、伝え合い、深めていくには、あまり資料数が多過ぎると逆に時間がなくなることがあります。東京書籍の教科書にはデジタルコンテンツ、二次元コードが付いており、それを使いながら先生方が補足的に充実させたい内容について選択して活用しているので、使い方によって充実できるのではないかと思います。

大島委員　私も授業内容について質問します。先ほどのご説明の中で、心肺蘇生やＡＥＤの使い方などで実習を絡めた内容があるという話を頂いたのですが、その他に何か実習をされることはあるのでしょうか。あるいは、教科書を使ったいわゆる座学的なものがほとんどなのか、授業の中で実習は何パーセントほどあるのか、そのあたりを教えてください。

保健体育調査委員　心肺蘇生については行っていますし、包帯法、固定法なども実習で行っています。内容については、どの教科書においてもそのような内容が全て入っています。

大島委員　実習をする中で、この４者の中で特にここは進めやすい、使いやすいというのはありますか。

保健体育調査委員　東京書籍の教科書には「巻末スキルブック」というものがあって、健康や安全に関するスキルがまとめられています。ここについては非常に資料が充実していると考えています。

木村委員　以前、家庭科の教科書についてもお伺いしたのですが、学ぶ順番について、東京書籍だけが保健が先に表記されていて、体育が後になっています。これは順番どおり授業が行われるのか、体育の後に保健を学ぶとか、学ぶ順番については何の問題もないものでしょうか。

保健体育調査委員　全く問題がなく、東京書籍については最初が保健、後が体育となっています。ただ、先ほども選定委員長から話があったように、保健の授業は年間１６時間しかありませんので、時期を決めて授業を行っています。夏のプールに入れない時期や冬のグラウンドを使えない時期に集中的に入れたりしています。毎週必ず授業があるわけではないので、そこについては授業をする先生が自分のやりやすいように授業を行っています。

木村委員　分かりました。あと、Ａ－２の項目５、例えばストレスの問題については、一番良いのはどの教科書でしょうか。私はどの教科書も優劣を付け難い感じがしたのですが、大日本図書が評価としては高いのかなというふうに拝見しました。

保健体育調査委員　４者の中で見たときに、今言われたように調査委員の中で評価が高かったのは大日本図書です。５２、５３ページに「学びを生かそう」というところがありますが、こうしたところでロールプレイングをしながら、心の部分について学習することができるような工夫がなされています。

木村委員　他の教科書はどの教科書もそれぞれ工夫があったと思うのですが。

保健体育調査委員　例えば東京書籍の５１ページは、先ほど性の多様性についてお示ししたページなのですが、そこでも心について学べるような工夫がなされています。学研教育みらいは６７ページに、人と人とのこのような関わり方が大切であるということが示されています。中学生の時期は人付き合いがまだまだ十分上手でないところがあるので、このような資料を活用しながら学んでいけると考えています。

丸山委員　練習問題があったり、重要な言葉でまとめてあったり、東京書籍では二次元コードがあったり、各者で各章のまとめ方がかなり違っていると思うのですが、これについてはどのような評価でしょうか。

保健体育調査委員　学習のまとめについては、東京書籍を見ますと「キーワード」ということで重要な語句が示されています。単元で習ったそのような大切な言葉を章末で再度確認したり、二次元コードを開けていくことで章末問題を活用したりすることもできます。先ほど、資料が多くなったり問題が多くなったりしてなかなかこなすのが大変だという話をしましたが、時間の流れや生徒の実態に合わせてそのような問題を使っています。また、二次元コードの中には動画資料も含まれています。そのようなものを活用しながら最後に章のまとめで、授業のより具体的な充実を狙っています。
学研教育みらいについては、４１ページに東京書籍と同じくキーワードが示されています。キーワードをしっかり覚えてチェックしていけるように工夫されていると思っています。振り返りもありますし、「確かめよう」

では実際に問題が書かれています。「活かそう」では、その文を読んで問いに答えなさいということで、これまでの学習を生かし、そこに書き込みができるような工夫がなされています。
　このように教科書ごとに工夫しながら章ごとにまとめができるような工夫が４者ともなされていますが、調査委員会では、これがたくさんあるからこの教科書はいいという協議はしませんでした。あくまでも教科書なので、ドリルやワーク的な活用ではなく、これらを活用して学習の充実を図ることができるという確認をしました。

長澤委員

　各者、保健体育の学習方法が巻頭に説明されていて、ディスカッションやブレーンストーミング、ロールプレイング等が挙がっているのですが、実際の授業ではどのくらいの頻度で、どんなテーマについてこうした特徴的な学習をされているのでしょうか。
　それから、デジタルによる学習が進む昨今、ネット関係のトラブル事例や、学習でインターネットやデジタルを使うことに関する問題について、各者どのように取り上げられていて、使い勝手はどう違うかなど教えていただけると助かります。

保健体育調査委員

　最初の質問については、例えば東京書籍では「学習方法について」ということで１０、１１ページに、保健体育の学習ではこういう方法があるということが書かれています。その内容については具体的に教科書の毎時間の単元に全て入るわけではないのですが、「広げる」や「活用する」の中にそこに書かれた内容が組み込まれています。
　２点目のネットトラブルについては、どの教科書でも１年生で学習する「健康な生活と病気の予防」の中にある「休養・睡眠と健康」「調和のとれた生活」に記載があります。東京書籍の２２、２３ページでは、「調和のとれた生活」の中でインターネットとの付き合い方や危険性などが取り上げられています。２５ページの「睡眠不足を感じる」の中で、ネット関係やゲームの使用について取り上げています。
　東京書籍では、先ほどご紹介した「巻末スキルブック」の１８５ページ、「より良い睡眠をとるための方法」にスマートフォンやネットとの付き合い方があったり、１８４ページの「スキル７」には、健康に配慮したコンピュータの使用方法について書かれたりしています。このような部分を使いながら、インターネット、情報スキル等について学ぶことができると考えています。

田邊委員

　保健体育は、教科書を使う時間が年間１６時間、そして恒常的に毎週ということではなく、変則的な活用の仕方で利用されると理解しましたが、各教科書で１６時間に該当する項目数を見ると、それ以上の数になっています。学年によって違いはありますが、１６時間というぴったりの単元数では必ずしもない。単元を併せて学習を進めていくような授業になるのでしょうか。

保健体育調査委員

　学習指導要領の中では３年間で４８時間と示されています。金沢ベーシックカリキュラムでは１年間で１６時間ということで内容を示していますが、学校によって、例えば実習を１時間多く取って、保健の授業を４９時間にしている学校はあると思います。

田邊委員

　学校によってそういう調整を図られながらということですね。例えば東京書籍を見ると、１年生は単元数だけを見ると１８時間なので、１６時間を超えていますし、学校によっては加算されているとのことですが、全ての学校が単元をこなすために１８時間の時間を費やしているわけではないとも読み取れるので、どのように扱われるのかというのが気になりま

す。
そういう観点で見ると、学研教育みらいが全ての学年で１６時間に収まる単元構成になっています。教科書を選ぶときに、時間数と単元数を束ねなくても進行できるような構成がいいのかなという気がしてならなかったのですが、そのあたりは問題ではないのでしょうか。単元数が多くても別に差し支えないという理解でよろしいのでしょうか。

保健体育調査委員　はい。学習指導要領にも、「３年間を通して４８時間程度」と示されていますので、「程度」に含まれていると思います。

田邊委員　もし所定の時間数で教科書を扱うことができなければ、生徒の自学に回すとか、そこは別の扱い方で取り扱われるとか、いろいろ工夫されているというふうに理解すればよろしいのですか。

保健体育調査委員　通常の授業の中でしっかりと取っています。この教科書で、体育編も入れていますかね。

田邊委員　そうです。

保健体育調査委員　体育編は保健に含まれていません。

田邊委員　そうですか。

保健体育調査委員　これは保健ではなくて、１年間で３時間ということで別の時間になっています。

田邊委員　分かりました。

［保健体育：審議］

櫻吉委員　他の教科書でもそうなのですが、学習課題が東京書籍は「どうすればよいのでしょうか」という疑問形になっています。大修館書店と大日本図書は、「～してみよう」という感じで、学研教育みらいは「～でしょうか」「～してみよう」の両方があって、課題が少し多いかなと思うのです。先ほども、大修館書店や大日本図書は資料もボリュームが多いということをお聞きしました。１時間の中で課題を把握して授業を行う上で、ボリュームとして東京書籍が一番適切ということであれば東京書籍がいいと思いました。

野口教育長　金沢型の学びにとても合っているというふうに捉えていらっしゃると思います。

丸山委員　各者とても工夫されていると思うのですが、問題解決型の学習スタイルに合っていて、「自分で、みんなで考える」という金沢型学習スタイルを意識すると、やはり東京書籍は学習課題が非常に明確に記載されていて、課題解決があって、さらに「活用する」「広げる」のところで展開されているというふうに、１時間の流れがとても進めやすくなっているので、東京書籍がとても優れていると思います。また、保健体育の学習の中で日常生活に役立つようなスキルも学ばせたいということがあると思いますので、それが「巻末スキルブック」でしっかりとまとめられている点でも東京書籍は他者に比べて一つ上かなと思います。

長澤委員　私も東京書籍が一番良いと考えています。巻頭で社会問題を具体的に取

り上げているところが秀逸です。他の教科書の巻頭のように、まずはスポーツ、そして体をつくるにはどうしたらいいか、健康に向けてどんなことが必要かという流れが今まで一般的だったと思うのですが、東京書籍の巻頭は、ＳＤＧｓやさまざまな感染症、テクノロジーといったものの中にスポーツが組み込まれていて、決してスポーツ、健康だけではないのだということが明確になっています。そういった巻頭を受けて、各章で課題解決する仕組みになっています。加えて、巻末に「巻末スキルブック」という形で、特に生きるために必要な情報が分かりやすく整理されている東京書籍は、とてもよく考えられているなという印象を持っています。

昨今の問題として、性の多様化に関しては、今まであまり積極的に捉えられてこなかった分野ではありますが、社会的な認知や意識の高まりといった点からすると、避けて通れない部分なのだろうと思っています。ご説明いただいた中では、この件に関しては大修館書店の４２、４３ページあたりがとても丁寧に書かれており、ご家庭でもこういったものを示しながらお子さんに説明する機会があるとよいと思いました。

一方で、東京書籍の説明にありましたが、５１ページで導入として見やすいものを示しながら、二次元コードのところでさらに踏み込んで説明されているとのことでしたので、このあたりは東京書籍でもフォローはできているのかなという印象を持っています。結論としては、東京書籍が望ましいのではないかと考えています。

野口委員長　ここまでは皆さん東京書籍がいいのではないかということでした。

木村委員　私も皆さんと一緒なのですが、保健体育といえば一番身近な教科ではないかと思っていて、やはり心身ともに健康でいられるための学びだと思うので、とても大切な教科だと私は認識しています。そうすると、章末資料が非常に充実していて、「巻末スキルブック」が大変分かりやすく一覧になっていて、資料として優れているという点で、東京書籍が金沢の子供たちの教科書としては一番いいのではないかと思います。

それと、Ａ－１の項目８にあるように、金沢の生徒たちの実情に即しているということで、金沢型学習スタイルの点で考えると、やはり優れているのは東京書籍ではないかと思います。インターネット依存症は本当に子供たちにとって身近な問題であり、これは東京書籍が大変詳しく書いています。子供たちが身近な問題として、自分事として捉えるのではないかと思いますので、私も東京書籍がいいと思います。

大島委員　私も結論からら申し上げますと、東京書籍が一番適していると感じています。それぞれ特徴があって、非常に優れている部分はたくさんあるのですが、先ほどもご意見が出たように、大修館書店は性の多様性という非常に難しい課題についても丁寧に説明されていますので、そういった部分においては魅力的な部分はあるものの、やはり金沢の子供たちのことを考えると金沢型学習スタイルに適していて一番進めやすいのは東京書籍ではないかと感じています。

田邊委員　どこにアクセントを置いたらいいか、何が決め手なのか、情報量なのか、その取り扱いなのかというのは気になっていたのですが、授業で扱うときの単元の展開の仕方に関しては、東京書籍が「見つける」「課題解決」、それを「活用する」、学研教育みらいも「ウォームアップ」を最初に持ってきて、エクササイズをやってそれを「活かす」という構成は、各者それぞれ工夫されていたように思いますが、情報量が随分違うという印象を持ちました。

先ほどのやりとりを聞きますと、限られた時間の中で的確に課題をつかんで、それを話し合ったり、結論をどう生かすのかということを考えると、

	簡潔に話題が展開されるような工夫があるのが使いやすい教科書なのかなという印象を持ちました。その点で、過不足なくしっかり展開できるように考えて、考えたことを生かせるようにするつくりをしているのは、皆さんのご意見と同様に東京書籍だと思いますので、私も東京書籍の教科書がよろしいのではないかと思いました。
野口委員長	自分も全く同じで、東京書籍がいいのではないかと思います。２～４ページで１時間完結するという編集になっていますし、初めて手に取っていいなと思ったのは、どの授業でも学習課題が設定されているのですが、その学習課題に至る前に「見つける」というところがあって、「見つける」を通して学習課題を作り上げていく、つまり学習課題が自分事になっているところが他者と違うと思います。そして、見つけたものに対して「課題の解決」というところがあって、これは実習等も含めながらなのですが、いろいろな資料があって、最後にきちんとまとめた上で「活用する」「広げる」という流れになっているところが非常にいいと思いました。二次元コードを開かないとまとめのワークシートなどが見えづらいところはありますが、トータル的にきちんとまとまっていると思います。 例えば、身近な人が熱中症になったときにどう動けるかと考えた場合、他の教科書はどこを調べればいいか、まずは索引から探さないといけないのですが、東京書籍では１９２ページの「スキル」の１７番があります。これを見たときに、まずは疑われる症状があって、どんな質問をしたらいいのかが具体的に書いてあります。そして、それに対して回答が鈍かったり、言動がおかしかったり、意識がなかったりしたことを通してどちらへ進んでいったらいいのかがきちんと明確になっていて、最終的に救急車を呼んだらいいのか、病院へ行ったらいいのか、そのままにしておいたらいいのかというところが分かるので、資料性としても、活用できるという点でも、この「スキル」は非常にいいものだなと思いました。若い先生でも使いやすいと思うので、自分も東京書籍がいいと思います。 ７名全員が東京書籍がいいということでしたので、保健体育については東京書籍を採用してよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
野口教育長	それでは、東京書籍を保健体育の教科書として採択します。

○種目「理科」

［理科：説明の概要（選定委員長）］

理科は、５者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見を基に審議を行い、特に優れている点について答申書としてまとめた。

まず東京書籍は、Ａ－１の項目３について、導入と終末の構成に工夫が見られ、「Before&Afte r」では各単元、各章の学習前と学習後で同じ問いを投げかけていて、学習後に学びの成果を自分で比較できるようになっている。例えば、天気予報はなぜ必要なのだろうという問い掛けを章の終わりに提示し、考えをまとめさせ、まとめの例を巻末の一覧で掲載し、学習を振り返ることができるように考慮されている。他にも項目１、２、４、５、６、９に優れた内容が見られる。

次にＡ－２の項目６については、例えばダニエル電池の仕組みに関して見開きページを使って分かりやすく学ぶ工夫がされている。長時間電流を流した後の電極の様子を写真で示すと同時に、モデル図の工夫や二次元コードでイオンや原子の移動のシミュレーションなどが分かりやすくなっている。他にも項目１、２、３、４、５、９、１０、１１、１２、１３に優れた内容を見ることができる。

大日本図書は、Ａ－１の項目６について、これまで小学校３、４、６年生で学習した内容を写

真の図で振り返ることができ、これまでの学習内容との関連を分かりやすくしている。全ての単元の初めの見開きで、写真や図によってこれまでの学習内容を示し、視覚的に学習内容を想起させ、学びにつなげていく工夫がされている。また、「つなげる」というところで、他領域や他教科での学びとの関連が分かるよう工夫がある。他にも項目５で優れた内容が見られる。

次にＡ－２の項目８について、代表的な動物の特徴を写真と言葉で一覧表にまとめて分かりやすくなっており、単元での学習の中心となる比較する・分類するということが分かるように工夫されている。

学校図書は、Ａ－１の項目２について、気づき、課題、仮説、計画、方法、結果、考察といったように、探究の過程を重視した流れになっている。また「理路整然」のところで、探究した内容を活用して学びを深める工夫がされ、ほぼ全ての観察・実験に関わる部分で探究の工夫が見られる。その他、項目６に優れた内容が見られる。

次にＡ－２の項目１３について、「天体の運動と見え方」の学習に対して優れた内容が見られ、同じ時刻に観測したときの月の位置と満ち欠けの様子を両方の視点で分かりやすくし、地球上の観測者の視点と宇宙の俯瞰する視点を関係付ける工夫が見られる。

教育出版は、Ａ－１の項目９について、「話し合う」といった言語活動の充実を図る工夫が見られる。例えば水などモデルで表現されていることが正しいかどうかを話し合うことで学びが深まるように工夫され、単元の導入時、予想や仮説を立てるとき、考察から結果を導くとき、活用するときなど、いろいろな場面で言語活動の充実が図れるようになっている。

Ａ－２の項目１については、興味・関心を高め、問題意識を持たせる導入のところに優れた部分が見られる。例えば光の反射について、初めに「やってみよう」で光のリレーに取り組ませ、遊びを装いながら光の反射について興味を持たせ、課題の発見につなげている。この他にも項目２についても優れた内容が見られる。

啓林館は、Ａ－１の項目１について、基礎・基本の理解定着を図る構成に工夫が見られる。例えば凸レンズでできる像について、作図を通して考え、理解できるように例題が設定されている。二次元コードからの解説動画では考え方や練習問題についての丁寧な解説があり、個々のペースで学習することができる。また電流の用語の解説、考え方の振り返り、単元末の学習のまとめ、力試しで学習の定着が図れるよう工夫されている。他にも、項目２、３、４、５、６、８、９が優れている。

次にＡ－２の項目３について、日常生活と関連させた電磁誘導の学習に関して興味・関心を持たせるための優れた工夫が見られる。例えばリニアモーターカーのモデル実験など、生徒の興味・関心を高める工夫が見られる。この他にも、項目１、６、７、９、１０、１１、１２、１４についても優れた内容が見られる。

説明後の質疑応答では、まず安全面での配慮についての質問があった。どの教科書も注意が図られるマークが色付けされていて、あまり大差がないとのことだった。

次に、「特徴的で効果的で魅力的な観察実験がある教科書はどれか」という質問があった。啓林館のリニアモーターカーの原理の実験では、二次元コードからも見ることができて分かりやすく、興味を持つことができる。啓林館には「探Ｑシート」というのがあって、詳しく実験に取り組むことができ、裏面の「探Ｑラボ」には発展的な実験も掲載されているとのことだった。

次に、金沢ベーシックカリキュラムの点から優れた教科書はどれかという質問があった。特に探究的な学びでいえば啓林館、学校図書、東京書籍が詳しく出ており、ＩＣＴの活用に関しては東京書籍、啓林館では二次元コードからの活用部分が多く見られるとのことだった。

次に、いろいろな研究についての歴史に関する質問があった。例えば東京書籍では「歴史にアクセス」という箇所があり、乾電池の発明、電池の歴史が紹介されており、啓林館では新元素の発見の歴史ということでニホニウムの発見が紹介されているとのことだった。

それから、実験が時間内に可能かどうかという質問もあった。全てやるにはうまく時間を設定する必要があるが、時間的には何とか収まるということで、実験が多過ぎるという声は特になか

ったとのことだった。

啓林館だけ目次の配列が違うという質問もあったが、さほど影響はないとのことだった。日常生活や社会との関わりに留意した記述について質問があったが、どの会社にもあり、差はないとのことだった。

学びの活用についての質問もあった。啓林館は活用する場面が他者と比べて多く、東京書籍も学んだことをそのまましっかり活用できるような工夫が見られるということだった。

防災についての質問もあった。2年生でどの教科書も防災関係は載っているということだった。それ以外に、東京書籍は防災特集として火山性ガスなど、啓林館は「防災・減災ラボ」ということで幾つか紹介があるとのことだった。

その後、意見・感想としては、東京書籍と啓林館の教科書が群を抜いて良いというご意見があった。それから、東京書籍と啓林館の2者がいろいろな項目で優れており、教育出版はA－1の項目9でいうと啓林館、東京書籍と同じように優れており、Bの調査報告でも意見が多いというご意見があった。「探究の取っかかりとして日常生活で習ったことを活用していける教科書が金沢の生徒たちに向いているだろう」というご意見もあった。あと、これは感想だが、どの教科書ももう少し日本の科学者が発見したものや研究の紹介があると、子供たちが夢を持ってくれるのではないかという感想があった。

以上のような選定委員会での内容だが、最終的には5者のうち特に評価が高かったのは東京書籍と啓林館だった。

［理科　質疑応答］

櫻吉委員	実験に関して、例えば東京書籍は全て実験という形で横並びであり、啓林館は実験と「探Q実験」という形で表記があるのですが、同じような実験でも何か強弱があるというか、授業では実はこれはやらないとか、そういうことなのですか。それとも何かさらに発展させてやっていこうという形なのでしょうか。
理科調査委員	どちらも強弱を付けた実験の配置になっていると思います。やらなくてもいいわけではなくて、どれもやってほしい実験なのですが、例えば実験の計画から仮説、それから実験方法を考えるところまでじっくりと考えさせていきたいものは重点的な実験として、啓林館では「探Q実験」という表記になっていると思います。それから東京書籍の方も、「じっくり探求」という言葉だったと思いますが、同じように大きな単元ごとに一つずつ設定されています。その他の実験については、予想や仮説は軽く扱う形になるかもしれませんが、書いてあるとおり、マニュアルどおりに進めていくような実験になると思います。特に力を入れているのは、本当に探究活動を重視した実験になっているということで、どちらも表現は違いますが、同じような配置なのではないかと思います。
櫻吉委員	レポートの書き方というのが最初に出ていたのですが、授業ではそのような形でレポートを作成していくのですか。
理科調査委員	そうですね。授業者によって強弱はあるのかもしれませんが、基本的にはどの実験に関してもレポートを書かせる、最後の考察・まとめまでしっかり書かせるということは取り組んでいると思います。
櫻吉委員	そうすると、教科書の実験のここの表記を見てレポートを書くという形になると思うのですが、どちらの方が生徒にとって書きやすく、見本的なものになっているのでしょうか。
理科調査委員	どちらも、ここでしっかりレポートを書いてほしいというところにはレ

ポートの書き方が示してあったり、具体的な例が示してあったりします。ただ啓林館については、巻末に専用のレポート用紙が付録として付いていると思います。少し厚くなっている紙で、切り離して使うのですが、「探Qシート」というものが付いているのが啓林館の特徴だと思います。ただ、これをこのまま必ず授業で使っているかというと、授業者によってはこれを見本として独自でレポートを作成している場合もあると思いますが、これがあることで実験の流れやどこに着目していけばいいのかというのは分かりやすくなっていると思っています。

櫻吉委員　先ほど選定委員長からもあったのですが、東京書籍は左側に文章が寄っていて、啓林館は中央に寄っています。歴史などの教科書だと全部中央で、周りが資料になっていて、ぱっと見やすい印象があるのですが、これについてはあまり問題はありませんか。

理科調査委員　ページによってあれこれ変わってくるのは見にくいと思うのですが、どちらかに統一されているのであれば特に問題はないと思います。

櫻吉委員　分かりました。

大島委員　私も授業の流れについてお聞きしたいと思います。総合訪問等で割と理科の実験を見る機会があって、実験となるとやはり安全性が非常に重要だと思っています。選定委員会ではその点についてはさほど差がないというお話が先ほどあったと思うのですが、私が見ていると、東京書籍などは「理科室の決まり」というのが冒頭にあって、例えば地震が起きたときなどについて結構具体的に書いてあります。啓林館も「サイエンス資料」の中に道具の使い方など安全性のことが書いてあったり、それぞれに書いてあったりするのですが、このあたりを見た場合に、５者の中での優劣がもしあるなら教えてください。

理科調査委員　東京書籍はイラストや漫画で表示してあることが多く、子供たちも見たときにすごく興味・関心を持って確認できると思います。啓林館は写真での提示ということで、こちらも子供たちが分かりやすく、安全に実験ができるような工夫がされていると思います。どちらが分かりやすいかというと、それぞれ言葉によって違うと思いますが、どちらも注意しなければいけないことを視覚的に分かりやすく提示されていると思います。
それから、どちらも２年生になるのですが、東京書籍の３８、３９ページ、啓林館の１７４、１７５ページで、優劣ではなくてどちらも優れていると思うところなのですが、鉄と硫黄の反応の実験に関して記載があります。昨今各地の学校で、有毒な気体が発生することによって気分が悪くなる事故が起こる実験なのですが、換気することが非常に大切になります。どの教科書にも換気することというのは表示されてはいるのですが、言葉でしか入っていないので、見落としがちになると思います。ただ、啓林館、東京書籍には、ちゃんとイラストで窓を開ける様子や換気扇の印なども明示してあります。やはり言葉よりも、ぱっと見たときにこれは必要なのだなということに気付くような工夫がされていると思います。

大島委員　分かりました。

木村委員　Ａ－１の項目８、金沢市が生徒の実情に即し、金沢ベーシックカリキュラムなどをふまえた指導との関連が図られていることに関して、東京書籍と啓林館の評価が違っているのですが、具体的に分かりやすく教えてください。

理科調査委員　まずＩＣＴの活用場面について、啓林館の方が非常に充実しているということがあります。ＩＣＴはよく使っていくのですが、主に実験として使っているところ、啓林館の３年生の１８９ページ、実験に関するところなのですが、「ＩＣＴでトライ」という項目があります。従来は実験する際にＩＣＴ機器ではなくアナログ的な実験装置を使っていたのを、例えばデジタルカメラを使って記録していくとこんな実験ができるというような紹介があり、具体的に実験方法を示している部分が充実しているということで、啓林館を高く評価しました。基本的な学習の流れについては、どちらも本当に探究活動を重視させるような流れになっていますし、記述にもいろいろと工夫があるのですが、ＩＣＴの活用場面においては啓林館の方がいろいろな題材を紹介している部分で高く評価しました。

丸山委員　現行の教科書は啓林館だと思いますが、これまでの教科書にも巻末の「探Ｑシート」はあったのでしょうか。あったとしたら授業の中でどれくらい活用されているのでしょうか。

理科調査委員　「探Ｑシート」は現行の教科書にも付いています。活用状況については、授業者によりだいぶ変わってくるとは思いますが、自分が把握している範囲であれば、そのまま切り離して積極的に活用しているところはあまり多くないと思います。ただ、これに倣って各授業者がワークシートを作成して実験を進めているということは、多くの学校でやっていると思っています。

丸山委員　分かりました。

長澤委員　今の点に関連して、「探Ｑシート」以外でレポートの書き方を一般論として説明している部分は啓林館の教科書にありますか。

理科調査委員　どの教科書にも具体的なことが書かれているところはあったと思いますが、レポートの書き方としては「探Ｑシート」の使い方のところが一般的な部分になると思います。シートの直前に付いている部分です。あとは、その単元や項目によって、具体的に模範的なレポートの例は紹介してあります。

長澤委員　模範的な例を少しご紹介いただけますか。

理科調査委員　例えば、１年生の教科書の１３ページです。

野口教育長　ちょっとマニアックな質問になって申し訳ないのですが、３年生の天体の領域で各者、天体望遠鏡の使い方が出ています。実際に３年生の授業で夜に天体望遠鏡を使った授業はあり得ますか。

理科調査委員　私の知る限り、実際に夜に天体望遠鏡を使って観察・観測をしているところは聞いていません。ただ、太陽の黒点の観察をやっているところは、数は少ないとは思うのですが、あると聞いています。

野口教育長　なぜこんなことを聞いたかというと、５者全ての天体望遠鏡の箇所に極軸望遠鏡の使い方が出ています。極軸望遠鏡の使い方が出ていても、使わないなら意味がないなと思ったのです。ただ、５者を並べてみると、自分なりに専門的に考えると、教育出版が一番いいと思います。残念なのは、使っている天体望遠級が自動追尾の様式になっているのが残念です。
先ほど安全に関する質問がありましたが、５０分という理科の授業の中

で実験をするときには、安全、正確、そして早くという条件が必要です。教科書を見ていただいて、この条件に合うような実験を扱っている教科書は全部ですか。

理科調査委員　基本的に中学校の授業を５０分でやるときに、実験の操作をしている時間は２０分以内に収めないと、できません。加熱が必要な実験であったり、特に化学実験では間に合わないのではないかと思います。特に化学の方が安全性に気を付けなければいけないのですが、そこは常々思っているところではあります。ただ、実験内容を見たときに、授業者側がこの実験が果たして時間内で収まるのかというのを判断した上で、今日扱う内容の判断も必要になってくると思います。

ただ、どの教科書も扱っている実験にそんなに差はないので、あとは授業者が授業時間をいかにうまく使って行うかがポイントになると思います。

田邊委員　東京書籍と啓林館を見比べると、各学年の単元の構成が随分違います。どの出版者も微妙に違うところがあるので、理科の授業を展開するときに、教科書に載っている単元に沿ってやっていくのか、飛びながら、元に戻りながらという展開の仕方なのか、そのあたりの教科書の使い方、単元の展開の仕方はどうなのでしょう。

理科調査委員　発行者もそれぞれいろいろと考えて構成されているとは思うので、自分としては若手の教員たちに話をするときなども、単元の中の流れに関しては意図が必ずあるはずだから、その意図をしっかりとくみ取った上で授業を展開していくのがいいということを話しています。やりにくさ・やりやすさはあるのかもしれませんが、いろいろなやり方があると思っていて、自分としては教科書に示されている流れで授業を作っていくのが一番いいと思います。それがその発行者それぞれの特徴なのかなと捉えています。

田邊委員　今のお話は、単元の中の小単元ということですか。

理科調査委員　そうです。

田邊委員　大きな単元は構成でも随分違いがありますが、そのあたりはどうなのですか。

理科調査委員　大きな単元で言えば、啓林館は学年に関係なく生物、地学、化学、物理の順番で構成されています。東京書籍は、学年によって配置が異なると思います。ただ、例えば１年生の最初に植物の分野が入ってきますが、ここでは花の観察等がありますので、時期的なことを考えるとどうしても４～５月に行うのが適切ではないかということで、東京書籍、啓林館のどちらも生物からスタートしていると思います。

それから、２年生になると、例えば気象の単元で天気の変化を勉強するときに、何か特徴的な天気があるときの方が分かりやすいし、実感を伴って勉強できると思います。そういった意味で、例えば北陸地方であれば四季の中で何が特徴かと思ったときに、冬の天気になると捉えれば、冬の時期、１１月、１２月、１月ごろに勉強すると一番分かりやすいと思います。地域によっては違う時期の方がいいという捉えもあります。

それから、同じく２年生で電気の実験をすることがあります。ここでは静電気に関する実験が入ってきます。そうなると、例えば梅雨の時期に静電気を発生させようと思ってもなかなか発生しなくて、実験はうまくいきません。やはり冬の乾燥した時期にやると結果も明確になってくるので、冬の時期に持ってくるような形で、それぞれ教科書の順番にとらわれずに

年間を通してカリキュラムを編成していけばいいと思っています。
金沢市においては、金沢ベーシックカリキュラムを共通して使っていますので、それに倣って、今言ったような条件を含めてカリキュラムを作られていると思います。教科書の単元の順番よりも、金沢ベーシックカリキュラムの順番に沿った形で、単元の入れ替えも当然出てくるかと思いますが、そんな形で運用していくのがいいと思っています。

田邊委員　教科書の構成にとらわれず、時期を見たり、ベーシックカリキュラムの展開を見たりということで入れ替えしながらやっているのですね。教科書がまちまちであっても、それにとらわれることはないという解釈でよろしいですか。

理科調査委員　はい。

田邊委員　どの単元でも実験が進められますが、教科書によって扱っている実験が違う場合も当然ありますよね。例えば３年生の「自然の中の生物」を扱っている単元で、微生物を見る実験があります。東京書籍では２５６、２５７ページに、水中の生物で微生物を見る実験があって、啓林館では２５５ページに、土の中の微生物を採取して実験しています。このように実験で扱っている素材が異なるところがいろいろな箇所であると思うのですが、教科書で水中生物を扱っていれば水中生物を採取して、土の中の生物を扱っていれば土の中の生物を採取して実験に取り組むというふうに、扱う実験も教科書をふまえていくような展開になるのでしょうか。

理科調査委員　そうですね。３年生の最後の単元になりますが、自然環境全般に関わる学習になっていきます。これも地域的なものや学校の場所にもよりけりだと思うので、採取しやすいものでやっていければ一番いいと思います。ただ、金沢市内でもいろいろな環境に学校がありますので、必ずしも同じではなくて、場合によってはこんな調べ方もあるし、こんなに詳しく調べることもできるということで、教科書には載っていないけれども扱うということも場合によってはあると思います。
ただ、啓林館では比較的どこでも扱いやすいような実験が紹介されていたと捉えています。そんなに差はないですが、基本的には教科書の実験をやっていくということで、それが難しければ違う手段でやっていくことが考えられます。

長澤委員　啓林館と東京書籍の２年生の教科書を見比べると、東京書籍では１５ページからの「物質のなり立ち」で、「ホットケーキの秘密」というところがあって、炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を実験し、レポートを作成する流れになっています。啓林館では１４０ページ以降に「物質のなり立ち」があって、同じようにどら焼きを使って、炭酸水素ナトリウムを加熱したらどんな変化が起こるかということで実験１が１４４ページに展開されています。
巻末にある「探Ｑシート」では、１９１ページに「化学変化前後の物質全体の質量」というテーマでシートがあるのですが、１９１ページは探Ｑ実験６のものなのです。何が聞きたいかといいますと、炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化というのは、共通の実験として授業で行っていて、探Ｑ実験６はさらに進んだものとして行うという位置付けでよろしいでしょうか。

理科調査委員　炭酸水素ナトリウムを加熱する実験は、ホットケーキやどら焼きがベーキングパウダーに含まれているもので膨らむ、気体が発生するということを調べる実験になります。化学変化の中では、一つの物質が二つ以上の物

質に分かれる分解という化学変化を理解するために行うものです。ですから、どちらもこの後、原子、分子の学習につながっていくものなので、必要な実験になります。
　啓林館にある最後の「探Ｑシート」については、この学習を進めていく中で、化学変化の前と後で全体の質量は変わらないことを学習するのですが、それをさらに深めていくために、最初に使った炭酸水素ナトリウムの場合はどうなるのかということで、さらに学びを深めていくための実験ということになります。あくまでも発展活用してまたさらに深めていくための実験と捉えていただければと思います。

長澤委員　　そうすると、東京書籍には探Ｑ実験６に相応するものは用意されていますか。

理科調査委員　　東京書籍では、６５ページの実験６が化学変化前後の質量についての実験になります。

長澤委員　　分かりました。

［理科　審議］

櫻吉委員　　将来科学論文を書こうと思ったら、目的、方法、結果、考察が王道だと思います。実験の内容を比べると、そこの解説は啓林館が非常に詳しく書いてあって、東京書籍は割とあっさり書いてあると感じました。ただ、啓林館の内容は少し難しいのではないかという印象があって、これを子供たちがみんな理解してできるのかなという懸念があります。
　その他にコラム的な部分を見ると、啓林館は化学が好きな子が喜ぶような、より発展的なコラムが非常に多く、高校の化学にちょっと食い込んだようなところが多くありました。一方、東京書籍は、いわゆる伝記的なものや社会とのつながり、人とのつながりを重視していて、理科が嫌いな子でも取りかかりやすい工夫がされています。
　本の紹介も各学年であって、同じ本が国語でも紹介されていたのですが、割と学年に応じた内容で、化学が嫌いな子にいかに興味を持ってもらえるかという工夫が東京書籍はよりされているように感じました。
　啓林館には、例えば福井の水月湖やニホニウムなど、日本独自の、本当は中学生に知っておいてもらいたいことが結構書いてあって、東京書籍はそこがちょっと弱い気がします。私は理科が好きなので、啓林館の教科書をすごく興味を持って読んだのですが、一般の中学生が学習として使うにはどちらが適切かなと思ったときに、東京書籍の方がいいのではないかと感じました。

野口教育長　　２者ともいいところはあるけれども、子供の実態を考えると東京書籍がいいのではないかということですね。

木村委員　　私は、東京書籍と啓林館を比べてみました。「音の世界」のところを比べてみたのですが、内容としてはそんなに差はなく、大変詳しく書いてあるのですが、東京書籍は章末の振り返りのところで学んだことをチェックするところがり、最後の方にもう一つ、学習後も書こうというビフォーアフターがあって、啓林館は章の学びを振り返った後に、もう一度戻って振り返って、また先へ行こうという発展性の言葉があるのです。そうすると、学びを徐々に深めていって、将来のことまで書いてあるので、櫻吉委員もおっしゃったように難しいといえばそうかもしれないけれども、考えを深めていくという点では啓林館の方が発展性があるのではないかと思います。次の学年での学びにつながっていくのではないかと感じました。
　理科というのはこんなに広範囲にわたって非常に多くのことを学ぶ教科

なのだなと私も教科書を読んで思いました。それぞれ課題を重視した内容が載っているのですが、私は啓林館が、内容は難しいかもしれませんが、学びを深めていく上では良いのではないかと感じました。

野口教育長　東京書籍がいいのではないか、啓林館がいいのではないかという議論になっていますが、自分の考えにこだわっていただいて結構ですので、最終的にそれぞれがこれで自分は行きたいということになりましたら、最後に採決をさせていただきます。そのときは過半数を超えたところを採択する方向に持っていってよろしいですか。別に全会一致にこだわる必要はないと思っています。

大島委員　私も自分自身の意見として話をさせていただきますが、東京書籍も啓林館も非常に優れた教科書だと思っています。やはり啓林館は冒頭から「探究とは」「探究のとびらを開いてみよう」ということで探究にかなりこだわって話をされているし、東京書籍は割と軽いタッチで、どう見えるか、何が起こっているのかという抽象的な感じで入ってくるところがあって、より多くの子供たちが理科を好きになるという観点では、どちらかというと東京書籍の方がいいのかなと思います。内容を見ても、アニメーションなどを割とうまく使って、分かりやすく全般的に説明もされて、タッチ的には非常にとっつきやすいという感じもします。ただ、啓林館も非常に優れた部分がたくさんあるので非常に捨て難いのですが、どちらかというと東京書籍かなと思っています。

長澤委員　「気象現象がもたらす恵みと災害」のところが、東京書籍は２年生の２１８ページから、啓林館は２年生の１１９ページから展開されています。大体内容は似ているのですが、東京書籍の方が２１８ページで、「社会科で学ぶこと」「道徳で学ぶこと」「保健体育で学ぶこと」ということで、理科という側面のほか、他の教科と関連付けて災害を深く学ばせているところが、私としてはいいなと思っています。

安全性との関係で先ほど、両者とも換気が必要だとか、火に注意ということが視覚に訴える形でとても優れているというご説明を頂いたところですが、さらに差別化するならば、東京書籍の方は赤字で危険が分かるようになっています。２年生の３８ページでは赤字で、または図で、何が危険なのかということが分かるようになっていて、かつこの実験の中のこのステップでは特にこれが必要だということがさらに詳細に記載されているのが、東京書籍の方だったと思います。子供たちがぱっと見て、このステップではここに気を付けなければならないということがよく分かるようになっています。ここは東京書籍の方が優れているところだと思いました。どちらも大変優れているところではあるのですが、こういったところに差があると思いました。

最後に実験に関して、１年生で学ぶところは実験に基づくレポートが必要になる単元が少ないので、２年生になって初めて、実験をしてそれについてレポートを書くことになるのかなと思いました。東京書籍の２年生の１６ページ、「ホットケーキの秘密」のところで炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を調べる実験をして、その実験をふまえてレポートを書くという流れが、生徒さんにとっては理科の授業の中で一歩前に進んでいくところだと思うのですが、それに関して１８ページでレポートの書き方がすごく丁寧に記載されていて、生徒たちにとって、こういうものを作っていったらいいのだなというイメージが湧くと思いました。

啓林館でも同じテーマで同じレポートを作成するような実験がきちんと用意されているのですが、ちょっと高度かなという印象を持っています。実際に「探Ｑシート」が用意されているのは、最初の炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化ではなくて、質量に変化があるかというところに付

いているため、初めてレポートを書くことに向き合う子供たちにとって親切なものはどちらかと考えると、東京書籍なのかなと思います。理科に対して抵抗がある生徒に対しても学びをスムーズに導入していく点でも東京書籍が優れていると思います。

田邊委員

今挙がっている東京書籍、啓林館はいずれも、全体的に見て豊富な実験があり、それを進めていくためのいろいろな手順が丁寧に作られているので、遜色がないという気がします。いずれの単元についても興味深い内容が網羅されているので、甲乙つけ難いという印象です。どんな実験をやるのか、単元構成をどうするのかというのは、実際に授業が展開されるときにいろいろ工夫されるとのことなので、それにこだわることはないということに気付かされました。

理科ですから実験や観察をしたり、それをまとめたりすることが実際には作業の中心をなすと思うのですが、生徒にとって教科書を手にするときには、本文がどういう記載なのかが肝心要になると思います。両者を読み比べてみたのですが、話の展開としては、本文に限って見ると啓林館の方が非常にすっきりとまとめられているという印象を私は持ちました。

例えば、３年生で遺伝の単元があるのですが、東京書籍では９４ページ、第２章の初めに「遺伝の規則性」というのがあって、「じっくり探究」ということだからかもしれませんが、非常にこだわりのある内容で本文がスタートしています。それと比べると啓林館は１７ページで、非常に要点を押さえた形で本文が記述されています。

ここにとどまらず、ずっと本文を読み進めていったときに、読み取りやすいと思ったのは啓林館なので、繰り返し教科書を活用するときに本文がどのように記述されているのかということを重視して選ぶとすれば、啓林館の記述の方があまり紛らわしくなくてすっきり整理されているのが非常に印象的でした。それに比べると東京書籍は、実験でどうするのかということをかなりこまめに提示して、そのまとめがどうなのかという展開が本文の記述だったので、繰り返し読むには骨が折れるという印象を持ちました。

ですから、どちらも遜色ない印象を持ちますが、本文の記載の仕方という点では、啓林館の方が非常に整理されて記述されていることを私は評価したいと思います。個々の実験とか、それをどう探究するのかというのは各者各様で工夫されているので、本文がどういう形で整理されているのか、生徒はそこが繰り返し大事な目を通すところであるとすれば、啓林館の整理の仕方が非常に読みやすかったという印象を持ちました。

野口教育長

比べる尺度というか、見方によっても評価は変わってくると思いますので、いろいろな見方があっていいと思います。

丸山委員

私も正直迷っています。理科のテーマである探究をまずきちんと押さえているのが東京書籍と教育出版と啓林館だと思います。その点では、探究というテーマでまず最初に押さえて、それぞれいいところがあって、啓林館は全体として実験や観察をしていくときに見やすいのですが、「将来的に科学論文を書くときの展開に」と櫻吉委員もおっしゃったのはまさにそうだなと思いますし、それを中学生のときから学べるのはいいと思います。ＩＣＴの活用も啓林館は載せていて、ここもいいかなと思ったのですが、実はちょっと分かりにくくて、どういうふうに活用するのかというのは読んでみても活用しにくいと感じています。

東京書籍では、２年生の１８ページのところでレポートの書き方をきちんと押さえています。これも将来卒業論文や科学論文につながってくる部分ではあるのですが、まさにレポートの書き方を中学生のときにきちんと押さえて学べるところはとてもいいと思っています。

東京書籍は、実験や観察のところが黄色っぽいページになっていて、ここは実験するのだな、観察するのだなということがページとして非常に分かりやすく示してあります。また、安全面の注意点もきちんと赤字で書いてあるところもいいと思いました。
トータル的にどちらかというのは今のところ決めにくいのですが、東京書籍か啓林館がいいと思っています。

野口教育長

それぞれの教育委員のお考えをお伺いしましたが、私は教育出版がいいと思っています。教育出版の教科書は、全体を見ると本当に理科の授業に沿っているなと思うのです。表紙の裏あたりに「探究の進め方」というところがあります。そこに、どの学年でもそうなのですが、疑問があって、課題があって、仮説があります。疑問から課題というのはまさに先ほどの保健体育と同じように、身の回りから自分で課題を見つけていく、いわゆる探究、自分事の課題となる。そして仮説があって、計画をしながら観察、実験、考察をしていく。
東京書籍も啓林館も、いい教科書です。本当にそつのない、良いまとめをしていると思うのですが、残念なことに最後の結論が書いてないのです。この勉強をしたから、ではどうだったのか、何を言いたかったのかという、つかんでほしいことが書かれてないのです。だから、高度な理科の力を持っている子は読み取れるかもしれませんが、最低限この課題ではこんなことを知ってほしかったのだという結論が欲しいと私は思っていました。
そして、これが一つの章ごとでしっかりとまとまっていています。きちんと章のスタートでこれまでどんな学習をしたかというところがあった後に、「学習前の私」というところでまず自分で確認した上で、ずっと単元を進んでいくと、途中途中にはいろいろな科学の話などが出てくるのですが、最後の最後に基本問題や活用問題がきちんと出てきて、「高校につなげる」というところで完結させています。教科書のしつらえとしては、理科嫌いを作らないようにするにはとても良いと思っていて、選定委員会の候補に入っていませんでしたが、自分は教育出版の教科書がいいと思っていました。これまでこの数回前までの選定では、東京書籍の教科書にはきちんと結論が太字で書いてあったのです。枠もあったかもしれません。でも、今はありません。
だから、理科嫌いの子供を作りたくない、そして最低限この学びはこんなことを知ってほしかったのだということを確認するためにも、東京書籍も啓林館もいいけれども、私は教育出版にこだわっていきたいと思います。
先ほどの質問の中で硫化鉄の実験の部分がありました。これは中学校の実験の中では非常によく事故が起こる実験で、救急搬送などもよくあるのですが、２年生の教科書の３８、３９ページに、これほどまでに注意というものを書いた実験はないというぐらい、これでいいのかなと思うぐらい注意が書かれています。それほどこれは難しい実験だ、気を付けなければいけないというメッセージなのです。また、実験が終わった後に結果を表にして、自分の考えでまとめて、結論を書いているのですが、結論が終わってもそれで終わりではないのです。その先に、もっと学んでほしいことが様々に続いているのです。
教科書のしつらえとしても非常にいいと思うし、先ほどたまたま望遠鏡の話をしましたが、スマホを使った撮影などいろいろな最先端のことも触れてあるのです。啓林館も東京書籍もいいのですが、自分は最後まで教育出版にこだわりたいと思っています。１人でも構いません。
では、確認させてください。今、３者出ました。今の段階で結構です。どちらか決めかねる場合は、２回挙げてもいいということで現在のお考えを確認します。

―挙手―

	東京書籍がいいと思われる方が６人、教育出版がいいと思われる方は１人でした。
櫻吉委員	完全に蛇足で申し訳ないのですが、東京書籍に決まりそうなので、東京書籍の３年生の２０８ページを見ていただくと、もう見ることができない景色になってしまっているのですが、珠洲の鵜飼から見た見附島と星空の様子が出ています。これをぜひ金沢の子供たちには見てもらいたいと思います。ここからは本当にこういうふうに天の川が見えます。ただ、見附島はもうこの形ではないので残念ではありますが、東京書籍に決まりそうなので、ちょっとお話しさせていただきました。蛇足です。
野口教育長	啓林館がいいという方はいらっしゃいますか。では、６対１で東京書籍でよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし。
野口教育長	では、理科は東京書籍を採択します。

○種目「道徳」

［道徳：説明の概要（選定委員長）］

道徳は、７者の発行者について調査委員会および研究委員会の報告書、市民の意見等の下に審議を行い、優れている点について答申書としてまとめた。

まず東京書籍はＡ－１の項目５について、どの学年においても一覧で他教科との関連や関連する主なテーマが示されている。また各題材に二次元コードが付いており、その横には参照可能コンテンツが図で明記され、中身は筆者のメッセージとともに活動内容の詳細が動画で紹介されるなど、他教科との内容を使って多方面から主体的に学べるように配慮されている。その他、項目７についても優れた内容が見られる。

Ａ－２の項目２について、主として自分自身に関する事項において、著名な人物の考えや自転車操作スマホなど情報モラルの充実した話題を通して、日常生活における自分自身の行動を見つめ直したり、進路選択について具体的に考えたりできるように工夫されている。

教育出版は、Ａ－１の項目６について、「けやき中」という同一中学校での学校行事や「雅司、由紀、美佐」という３人の同一登場人物の葛藤の変化が１年から３年まで学年を追って構成されている。自分の進級とともに共感しながら、自分のこととして感じられるように工夫されている。

次にＡ－２の項目５について、生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事項において、「いのちをかがやかせる」では動物と人間の関わりや臓器提供での命の尊さなど、最適解が簡単には見いだせない題材を通して多面的・多角的な視点から主体的に生命を深く考えられるよう工夫されている。

光村図書は、Ａ－１の項目６について、いじめや情報モラルのユニットがある。例えば絵本作家の問いを基に、引き続き次のページには探究活動につながる「今日の『てつがく』」があったり、「はしのうえのおおかみ」などの小学校の定番教材が全学年で系統的に分かりやすく配置されており、主体的に学びを深めるように工夫されている。その他、項目３に優れた内容が見られる。

次にＡ－２の項目について、主として自分自身に関する事項において、漫画家や陸上選手の題材から自己肯定感を高められたり、自分の課題に気付ける多様な教材があったり、より良い自分の生き方を考えられるように配慮されている。

日本文教出版は、Ａ－１の項目４について、ネットや多様性、いじめに関する教材が豊富で、ユニットを通して多様な観点から考えることができるように工夫されている。また、同じ「五月の風」という題材で「カナ」と「ミカ」のそれぞれを主として描き分けた内容になっており、各

学年に応じて違う立場から考えることができるように工夫されている。その他、項目２、３、５に優れた内容が挙げられる。

次にＡ－２の項目３について、主として人との関わりに関する事項において、「できない」を抱える人がロボットに託した思いや、「電車の中で」という現代社会の振る舞い方についての話題に触れることで、自分も相手も大切にし、将来も含めた自分の在り方を考えられるよう工夫されている。

学研教育みらいは、Ａ－１の項目２について、「深めよう」で主体的に課題を見つけ、「考えよう」「やってみよう」「話し合おう」「自分の生き方につなげよう」という一連の流れが示され、体験的な学習の充実が図れるように工夫されている。

次にＡ－２の項目１について、石川県金沢市に関する事項では、２年生のページでは「父との約束」の題材で松井秀喜選手の人柄に触れる教材を扱ったり、１年生のページでは災害に強いまちづくりの題材を取り上げたりして郷土と関連させて考えられるように配慮されている。

あかつき教育図書は、Ａ－１の項目５について、どの学年においても巻末のページにほぼ全ての教材で他教科との関連や共生、情報、防災、国際等、現代的なＳＤＧｓなどの課題との関わりが明記されている。学びが日常生活や各教科の多様な学びにつながるよう配慮されている。

次にＡ－２の項目５について、主として命や自然、崇高なものとの関わりに関する事項において、多様な視点からの生命や自然に関する話題が多く取り扱われ、特に出産時における命の奇跡や臓器提供に関する生命倫理など、より自分のこととして理解や学びが深まるよう工夫されている。

日本教科書は、Ａ－１の項目７について、道徳の項目の始まりに必ず４コマ漫画があり、内容項目が確認できるようになっている。表題が各学年に応じた目標になっていることで、発達段階に応じた学びの意識が高まるように工夫されている。

次にＡ－２の項目１について、石川県金沢市に関する事項としては、「道徳いしかわ」の「栄光は君に輝く」が取り上げられ、端末の「わたしたちの郷土」では千枚田や白山が紹介されるなど、郷土を身近に感じて考えられるように配慮されている。

その後の質疑応答では、質問として、どの教科書から現代の課題に合わせて変えていかないといけないという話題が出たかということで、回答としては「現代においてはスマホを絡めていじめに発展するような題材が各者増えてきている」ということで、日本文教出版ではいじめのユニットが三つ、情報のユニットが二つと、１学期、２学期、３学期と学期を問わず各学年で必ず出ているということが調査委員会で話題になったとのことだった。

次に、ジレンマ教材の扱い方、あるいはその適正についての質問があった。ジレンマ教材の扱い方について一番多く出てきたのは臓器の提供ということだった。

次に、「生徒が自分で読むだけでも心に染みるような、考えさせる効果のある題材はどれか」という質問では、回答としてあかつき教育図書の二次元コードには出産シーンの動画も同時に数分間表示されているので、話題をみんなで読んだ後でその動画を見ると効果的ではないかという意見があった。その他、他者においても読むだけで心に染みる話題は数多くあったとのことだった。

「子供たちが自分事としてきちんと捉えることのできる工夫が多い教科書はどれか」という質問については、教科書の中に書くスペースがあるかどうか、道徳の時間は自分が考えたことを最後まで話の腰を折らずに聞いてもらえるということが最初に明記されている会社はどこかということが話題になった。具体的に「相手の話を最後まで聞こう、詳しく知りたいことは質問しよう」と明記しているのは教育出版、「自分の考えを素直に言うことが大切で、一生懸命考えたことに間違いはない、友達の考えを否定せずにしっかり受け止めよう」と明記してあるのは日本文教出版であったとのことだった。

「日本文教出版には道徳ノートがあるが、普通のノートに項目を書いてもいいのではないか」という質問があった。回答としては、若い先生はある程度この型があった方が取り組みやすいということと、１学期の振り返り、１年間の振り返りでこれを活用しやすいとのことだった。中堅・

ベテランの先生は別途ワークシートを用意することもあるということだった。

次に、「１年生の中で情報モラルを分かりやすく扱っているところはどれか」という質問で、回答としては情報モラルに関してはどの者もあって、挿絵の中で実際にこのように書かれているというものを取り上げながら、リアルな話題を各者多く取り上げていたということだった。コラムの横に続けて取り上げているのが日本文教出版の「視野を広げて」というページで、どうすればよかったのかということが詳しく載っているということが話題に出たそうである。

次に、「ノートが教科書としてあることが、書くことが苦手な子供に書くことを強いることにならないか」という質問があった。これについては、今の道徳ではChromebookを使って子供たちが打ち込んで、付箋のような形でグループでシェアすることが多く、書き込む欄が設定されているのは東京書籍、日本教科書であり、全ての話題にメモの欄があるとのことだった。日本文教出版は別冊のノートがあり、この３者はそのように書くところがあるということになる。

次に、あかつき教育図書は「目の見えない白鳥さんとアートを見にいく」というタイトルで、障害がある方は私たちと対等というか、それ以上に私たちにいろいろなことを教えてくれる立場でもあるという、共に生きる社会の例として取り上げられているのは非常にいいというコメントがあった。「同じようなことが掲載されている教科書はあるか」という質問に対して、教育出版では、病気で顔がすごくはれてしまっている男性が自分の顔写真を載せたというような話が載っているとのことだった。

質疑応答の後の意見・感想である。光村図書では「はしのうえのおおかみ」や「泣いた赤おに」「手品師」など小学校の教材でみんなの心に残っている、以前やったものがもう一度ここで出ており、工夫されているという感想があった。

これは感想だが、自分のことを大切にしてほしいということが書かれている教科書は大事であるという意見を頂戴した。

働き方改革の目線から、発行者からのバックアップがあった上で教材をシェアできるようなものであれば、先生方の負担も減って自分に集中できるのではないかという意見もあった。

以上のような選定委員会での議論の中身から、最終的に７者のうち特に評価が高かったのは東京書籍と光村図書と日本文教出版だった。

［道徳：質疑応答］

櫻吉委員	道徳の授業の進め方をお聞きしたいのですが、１時間で文章を読んで、「考えてみよう」でみんなで話し合って、そのことについて記述して、それで１時間が終わるという形が一般的なのですか。
道徳調査委員	まずは教科書を読むところからのスタートになります。教材にもよるのですが、一般的には読んで考える時間を取って、その後グループになり、どんなことでもいいから自分の思ったことを出し合い、グループの意見をまとめたり、共通点・相違点に分けて考えたりします。Chromebookを使うときはChromebookで入力して、できたグループからどんどん大型ディスプレイに提示していき、最終的に、こんな意見も出てきたという感じでまとめていく流れが一般的だと思います。
櫻吉委員	そうすると、例えば教科書に書く欄があって、そこにみんなで書いたり、別冊のワーク的なものに書くということはこれからなくなっていくのですか。結局Chromebookで行うことになるのでしょうか。
道徳調査委員	Chromebookを必ず使わなければいけないとか、ノートを必ず書いて活用しなければいけないということは決めていないと思うので、教科担任がこの題材は Chromebook の方が学びが深まりやすいと判断すればそれを選択する形になると思います。 書くというのも、ノートにＡ４・１ページというものもあれば、つぶや

き欄やメモ欄など朗読を聞きながらすぐにそこに思ったことを書き込める欄もあるので、発行者によって特徴があると思います。何かに書き込んで話し合うわけですが、その何かというのがChromebookであったり、時にはノートであったり、時にはつぶやき欄であったりすると思います。

櫻吉委員　道徳は、知識を得たりするのを成績表で評価するということはないのですか。

道徳調査委員　道徳は数字での評価ではありません。認め、励ます個人内評価になっています。ですから、評価を行うときは内容項目の一つ一つの評価ではなく、年間や学期といった一つのまとまりの中で、子供たちが、自分は昔はこんなことを感じていなかったけれども今はこんなふうに感じるようになった、こんな考えは昔はなかったけれども他の子の意見を聞いてこんなふうに考えることができた、こんな家族や社会や世界に目を向けるようになったということを評価します。

櫻吉委員　分かりました。

大島委員　道徳は小学校の教科にもあると思うのですが、そこからの接続として同じ発行者の教科書を使った方がやりやすいのでしょうか。あるいはそこは特段こだわりがなくても問題ないのでしょうか。

道徳調査委員　道徳は、今ほど申し上げたように題材を読んでどう考えるかということなので、小学校と発行者が同じである必要はないと思います。どの発行者でも発達段階に応じた話し合いができると思います。ただ、先ほどの選定委員長からの話にもあったように、小学校で習った教材を中学校でもう一度学び直してみようという取り組みをしている発行者が７者中、東京書籍と光村図書の２者ありました。東京書籍は小学校から中学校への接続だけでなく、中学校から高校への接続も見られました。

長澤委員　どの教科書も自分自身に関すること、他の人との関わり、集団や社会との関わり等でカテゴリー分けされているのですが、授業の進め方として何か共通したものがあるのでしょう。
日本教科書の１年生のところにウェルビーイングカードというものが付いているのが特徴的なのですが、これを授業で使うとしたらどんなふうに使うのでしょうか。
それから、つぶやき欄だと教科書に書き込むので先生や第三者が見ることはないと思うのですが、日本文教出版の道徳ノートは先生が見ることはあるのでしょうか。

道徳調査委員　一つ目の質問については、主として自分自身、主として人との関わり、主として集団や社会との関わりに関する項目の年間の順番については、特にこうでなければならないというものはありませんが、４月当初に学年の道徳担当から年間の流れについて提案があります。別様として他教科との絡みや学校行事との絡みも関連しながら、時には教科書の順番どおりではなく、学校の実情に応じて進めています。
二つ目の質問について、日本教科書の特徴としてウェルビーイングカードが巻末にあります。調査委員会の話し合いの中では、これを使ってペアやグループで話し合いを進めることが円滑にできるかという話題も出たのですが、必ずしもこの数枚には収まらないというか、子供たちの豊かな発想がこれによって狭められる可能性もある、そうしたら毎回これを使うのは難しいという意見は出ました。
三つ目の質問については、つぶやき欄にしても、ノートにしても、それ

ぞれの教科担当が作る自作のワークシートであったとしても、集めて見ることはできます。Chromebook は集めなくても手元にデータが集約されるので、担当者の Chromebook で見ることはできますが、紙媒体であったとしても集めて確認することはできます。

木村委員

Ａ－１の項目４、金沢市や生徒の実情というところで、日本文教出版が優れていると感じるのですが、これについてもう少し詳しく教えていただけますか。

道徳調査委員

特に調査委員会で話し合ったのはいじめに関することになります。日本文教出版については、ネットや多様性、いじめに関する教材がとても豊富でした。各学年に応じて違う立場から考えたり、先ほどもご紹介いただいたのですが、ユニットが数多くあって、多様な視点から考えたりできるように工夫がなされているという意見が出ました。

具体的にいじめのことをお話しすると、日本文教出版は「視野を広げて」というページをそれぞれの題材に付け加わっています。例えば、２年生３８ページの「五月の風」という題材に、「学びを深めよう」というページがあり、さらに「視野を広げて」というページでは、自分の考え方を見つめよう、いろいろなトラブルがある中、いろいろな特性を持っている中、いろいろな家庭状況にある中で、このような考え方ができたら自分も楽になれるのではないかと感じることができるようになっています。

同じように自分が楽になれると感じられるページが、３年生の３２ページです。「違うんだよ、健司」という題材の後に「視野を広げて」が付いているのですが、お互いを大切にするコミュニケーションがなかなか難しい生徒がこれを見ることによって、自分はこのタイプなのだな、こんなふうに考えたら自分の気持ちも大事にしつつ相手にも自分が思っていることを伝えられるということを知り得るのではないかと思います。ただ題材を読むだけでなく、こういうものが各学年に付け加わっているのが特徴だと思います。

木村委員

私もここは非常にゆっくり読ませていただきました。

丸山委員

子供を持つ保護者の立場から言うと、インターネットやＳＮＳ等の情報モラル教育の重要性を非常に感じているのですが、道徳における情報モラル教育の重要性と、それを反映している教科書はどの教科書かというのを教えてください。

道徳調査委員

今日的課題として情報モラルからいじめに発展するという内容もありますので、調査委員会では、その辺のところを調べてみました。そうしたら７者の中で、数は少ない中でもこういうところがいいという意見や、数が多くていろいろな題材があっていいという意見が出ました。ちょっと長くなるかもしれないのですが、何者か紹介したいと思います。

まず東京書籍の１年生の４０ページ、男の子が女の子の悪口をＳＮＳに書き込むところから始まる話なのですが、「炎上」や「祭り」といった子供たちがよく使っている言葉が出てきて、その話題の後に「プラス」というページになります。この「プラス」では、ゲーム障害についての二次元コードが付いています。そこを開くと、漫画で５分間紹介があった後に医療の方につなげています。３０分以内で携帯を触る時間を抑えている子は本当に少なく、多い子だと５時間、６時間、７時間がテスト前でも当たり前になっていて、「自分はそろそろまずいかな。目も悪くなってきたし」と思っている子は結構いるのです。そのときに、これはまさしく自分のことだ、もうちょっとしたら医療に行かなくてはいけないかもしれないという気付きにもなるような二次元コードが付いていました。２年生では、エコーチ

ェンバー現象やフィルターバブル現象など、メディアでもよく取り上げられている現象の紹介もあります。
教育出版は、数は少ないのですが、リアルに恐怖を感じたことがある生徒もいる中で、やはりやってはいけないと思わせてくれるページが２年生の６６ページにあります。友達同士のＳＮＳトラブルの経験があるので友達同士ではやらないと決めている子なのですが、気楽に外部となら付き合えると考えて、危ない人と実際に会ってしまうという話につながります。その話の追加で「ひろば」というコーナーがあるのですが、例えば「そうなんだ」という言葉をＳＮＳ上でやりとりしたときに、「そうなんだ」には複数の意味があって、それを分かって「そうなんだ」を使うのと、分からずに使うのとでは大きな違いです。一晩たって朝起きて携帯を見たら自分が思ってもいない方向に炎上してしまうという経験はみんなにあると思うので、はっとさせられる、恐怖を感じられる題材だと思います。
日本文教出版は、先ほどからたくさん取り上げられている「視野を広げて」のところで、著作権や情報社会とコミュニケーションについて知ることができます。１年生の７２ページは、卓球でミスをした動画を誰が上げたのかということを一方的に勘違いした子の話です。その次のページにある「視野を広げて」というコーナーでは、お互いを認め合うためにどうしたたらよいかを考えられるようになっています。情報モラルの中でも、どうしていけばよかったのかを考えられるようになっており、これは、日本文教出版の特徴だと思います。数的にもとても多いです。
学研教育みらいは、扱っている数はとても少ないのですが、１年生の１０４ページに「日曜日の朝に」という題材があります。深夜までスマホを触っていて、その次の日に歩きスマホの事故を起こしてしまったり、携帯を忘れてしまったことで焦ったりという、みんなが経験しているような題材です。その後に「クローズアップ」というページに、「ネットがないと生きていけない？」というタイトルでネット依存のチェックができたり、歩きスマホ事故の具体的な場所や動作を見て、自分もこんな経験があるから気を付けなければと思えるようになっています。
学研教育みらいは、情報モラルの表記はないのですが、コロナの初期に日本中で起こったことに関する題材が載っていました。
あかつき教育図書は、情報モラルは数的には多くはないのですが、先ほどの学研教育みらいと同じように２年生の４６ページは、一緒にご飯を食べていたときに相手の話を聞かずに料理の写真だけをずっと撮ってアップしていて、一緒にいる人に配慮がないという題材です。これにも「マイプラス」というコーナーを設けて、「ほどほどライン」があったり、依存度のチェックシートがあったり、気持ちの面で回復可能な範囲にいるのか、それとも専門家や医療に相談しないと解決しないほどの依存なのかを知る機会があります。
本当に７者全部紹介したいぐらいなのですが、今日的課題として情報モラルに関する話題は各者多く取り上げられ、今ほど申し上げたように「視野を広げて」や「マイプラス」「クローズアップ」など、コーナーを多く紹介している特徴が各者見られました。

田邊委員　各者の教科書はいずれも、いろいろなエッセイ、コラムや資料を教材化しているのでそれぞれ読み応えがありますが、中には教育委員会の資料から引用してきたものもたくさんあります。石川県にはそういう資料はあるのですか。

道徳調査委員　「ふるさとをはぐくむ　道徳いしかわ」の冊子は各学校にあります。

田邊委員　それを使うことはあるのですか。

道徳調査委員　「ふるさとをはぐくむ　道徳いしかわ」は県が出している副読本の一つで、金沢市では、学期に１回は取り組むことになっています。先ほど申し上げたように、４月当初に道徳担当者から道徳の学習の年間の計画が提案されるので、それに基づいて使用します。

田邊委員　それはそれとして配慮しながら教科書は教科書でという展開なのですね。

事務局　道徳科の時間は学習指導要領で３５時間扱うことと規定されています。その中で扱う内容項目は２２項目あるのですが、これは学習指導要領に定められたものであり、２２項目は必ず扱います。そうすると、余剰が生まれます。金沢市では、石川県の副読本については学期に１回必ずどこかで、学校で大事にしているところや子供の実態に合わせて、例えば内容項目の中で自主・自律や思いやり、感謝を学校・学年で大事にしているならば、そうした内容項目を使っている教科書で一つ、県が出している副読本で一つというふうに、重点的に指導したりもしておりますので、県のものについてはそういう形で学期に１回程度は必ず扱うように指導しています。

田邊委員　分かりました。では、道徳は教材を通して自分を見つめすることが柱になる一方で、協議する、話し合うことが大きな特徴だと思うのです。話し合いの仕方はおおむねグループを組んでということが予想されますけれども、東京書籍でＰ４Ｃの例が挙がっていましたよね。集団での話し合いが紹介されていて非常にユニークだなと思いました。少人数ではなくて集団で話し合うスタイルを提示されています。子供たちが哲学的に語り合うというＰ４Ｃですが、それは活用しがいのある取り組みなのでしょうか。

道徳調査委員　具体的には１年生の１０６ページになると思います。左下にコミュニティボールというものがあると思います。こんなボールがあって、こんな話し合いの展開例があるのだなというふうに勉強させていただきました。自分だったら小学校ではやりやすいかなと思うのですが、中学校では輪になって、こういう毛糸のボールでなくても何かを使って話すという様子はあまり見たことはありません。東京書籍は１年生だけでなく２、３年生にもこのページがあったので、３年生になったときには小学校と違う形でボールがなくてもいろいろ話すようになると思います。ただ、調査委員会ではその話題にはならなかったので、私の意見として聞いていただければと思います。

事務局　補足したいことが２点あります。先ほど評価の話があったと思うのですが、数値などによる評価は行いません。ただし、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要があるということが学習指導要領に書かれています。ですから、先ほどの道徳ノートやワークシート、またはタブレットに書いたものは、学校として継続的に子供の変容として見取っていく必要があるということを付け加えたいと思います。

もう一つは、道徳科の教育目標に、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とあり、先ほどいじめやＳＮＳのトラブルのことがあったのですが、例えば先ほどの内容項目の中で、自由と責任であったり、克己と強い意志といった項目を学習する中で、道徳的心情や道徳性を養っていくということを付け加えます。

野口教育長　　これから採択に向けての審議の中で今の発言を生かしていただきたいと思います。

［道徳：審議］

野口教育長　　選定委員会からは、東京書籍、光村図書、日本文教出版の３者について評価が高かったという話がありました。ただ、皆さまそれぞれ考えがあると思うので、先ほどの私の理科のように、ここはぜひというのがあってもいいのではないかと思います。誰からでも、この発行者にしたいというのがあればお話しいただければと思います。

田邊委員　　どの者の教科書を見比べてみても、使われている教材に遜色はないというか、道徳で狙いとする課題に沿って作られているので、内容で甲乙を付けるのはなかなか難しいと思います。それぞれ読み応えのある内容がつづられていますので、内容に関してはいずれも遜色ないという印象です。ただ、道徳の教科は、質問にもあったように言葉で評定するという大きな特色がありますので、先生方の立場に立ってみればどういう文言で評価するのかということで非常に思案されるところだと思います。

そうしたことを考えると、生徒側にとっては題材を読み取りながら、話し合いながら、自分がどんな受け止め方をしてきたのか、これからそのあたりを見直す必要があるのかということを振り返ることが道徳の目的だと思います。多くの教科で知識・理解をねらいとすることに比べると、自分の心情を見つめて自分理解を深めたり、他者理解を深めたりするところにアクセントがある教科なので、先生にとっても生徒にとってもどこまで達すればどうこうというのがなかなか見えにくいという特性もあります。そうなると、これまで考えてきたことの足跡を記録としてどう確認できるのかという点が道徳を決めるときの要になると思います。

今は端末を活用していくことで、子供たちの変容は追いやすい面があると思うのですが、デジタルや小さなコメント欄にとどめたものを評価するとなると、先生にとっては苦労することになってしまうと思いますので、とにかく生徒が時間時間で几帳面に記録を残すことが先生にとっても子供たちにとっても重要になると思います。そう考えると、教科書の中に小さなコメント欄を設けたり、端末につづってあるような形で工夫している教科書もありますけれども、道徳ノートを日本文教出版が作っているのは、今の段階で判断すると、先生にとっても生徒にとっても変容を追いやすく、評価に活用しやすいところが大事だと思うので、そういった点からすると日本文教出版が先生にとっても生徒にとっても一番活用しやすいという点で、日本文教出版がいいのではないかと思います。

大島委員　　私も日本文教出版か東京書籍かで、頭の中でどちらがいいのかという話でまとめていました。皆さんからの意見や、道徳ノートは前回も評価が非常に高かったですし、今回も日本文教出版のノートの良さはそれぞれの項目で挙がっていることを考えると、教職員のスキルもあるのかもしれないですが、あったらあったで記録として残っていくことを考えると、引き続きこのノートを活用して学んでいってもらうのがいいと思い、日本文教出版がいいのではないかと判断しました。

長澤委員　　いじめの問題はどこの出版者も取り扱っています。自分自身を見つめ直したり、他者との関わりや集団社会との関わりも全て内包したテーマであり、道徳を学ぶ上でとても大事な素材の一つだと考えています。

前回も申し上げたと思うのですが、日本文教出版のいじめの項に関する取り組みはとても充実しています。それぞれのいじめの単元の後に必ず「視野を広げて」があり、「視野を広げて」のテーマも学年によってそれぞれ異なり、学年に応じて理解が深まる内容を取り上げているので大変充実

している。日本文教出版は今回も優れていると感じています。
東京書籍も、いじめのテーマについては「プラス」ということで一応踏み込んだ形の内容にはなっているのですが、やはり切り込み方は日本文教出版の方がより充実しているという印象を持っています。結論としては日本文教出版がいいのではないかと思いました。

木村委員

道徳の授業はやはり自分の思いを言えることが大事だと思うのです。そして人の言うことも聞いてあげて、言葉遣いの大切さ、人を傷つけないということもとても大事だと思います。
私は日本文教出版の「視野を広げて」がすごくいいと思うのです。大事なことは黄色い線で印がしてありますし、これを読んでいたら本当にいい子たちが育つのではないかと思いました。私は何よりも「視野を広げて」がいいと思いました。それから、いじめに関することや多様性に関すること、話し合うことなどに関しても、すごく良い感じで授業を進めていけるのではないかと感じました。ですので、私も日本文教出版がいいと思います。

丸山委員

私も結論的には日本文教出版が一番優れていると思います。東京書籍と光村図書も最初に学ぶことをしっかり示している点ではとてもいいと思ったのですが、先ほど質問した情報モラル教育のところでいうと、やはり日本文教出版の方がふんだんにその内容を盛り込んでいることと、道徳ノートが非常にいいなと思っています。これがあるから１年間終わったときに、自分自身が何を考えて何を学んだかということを生徒自身も振り返ることができるので、ノートがあるのはいいと思います。

櫻吉委員

採用されている文章にはほとんど優劣の差がなくて、本当に選べないのですが、東京書籍と光村図書と日本文教出版は文章の後に「プラス」や「チャレンジ」「視野を広げて」というふうに段階をもう一つ踏んでいるので、確かにこの三つから選ぶのがいいと思います。
どれが良かったかというと、道徳ノートだと思います。デジタルも確かにいいのですが、子供たちにはできればたくさん書いてほしいという思いもあります。やはり書くことで自分を見つめ直すことができるのではないかと思います。その点では道徳ノートがある日本文教出版がいいと思います。

野口教育長

異存はありません。私も日本文教出版がいいと思っています。道徳が教科化された根底には、やはりいじめの問題や人権を大事にしていくことがあったはずなのです。そのことを考えると、内容的に充実しているのは日本文教出版だと思います。いじめや人権などについて考えていくときに、先ほど田邊委員がおっしゃられていましたけれども、議論していくところが一番大きな差としてあったと思います。議論を大事にすることを根底に意識しているのは、日本文教出版だったと思います。議論という言葉が出ているのは日本文教出版だけです。その思いを通して、議論という表現では固いから違う内容で話し合いに持っていこうということで広がりを持っているので、日本文教出版だと自分も考えていました。
それから、教科化されて随分たちました。学校を訪問してみて、道徳の時間が大事にされているかというと、若干危機に陥っていると私は思っています。昨日の校長会議で指導課長から、「学校訪問に行って関係書類を見ていると、本来道徳の時間に道徳と違うことが行われている様子が見て取れる。道徳が教科化されているのを大事にしなければならない」ということをお話しされました。そのためにもノートは大事かなと思います。ノートを通して道徳を確実に実施しているということを先生も確認できると思います。ノートの存在は大事だなと改めて思いました。私は日本文教出

版で全く問題ありません。これは皆さん一致したので、道徳については日本文教出版でよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、本日予定していた４種目の審議が終了しました。ここで確認をさせていただきます。美術は光村図書、保健体育は東京書籍、理科も東京書籍、道徳は日本文教出版ということで採択することに決めたいと思いますが、それでよろしかったでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　ありがとうございます。次回は８月２７日（火）１６時からこの会場で、歴史と公民の２種目の審議を行いたいと思います。どうぞよろしくお願いします。
以上をもちまして本日の審議を終了します。ありがとうございました。

以　上

令和６年　第７回教育委員会定例会議　会議録（第５回）

１　日　時　　令和６年８月２７日（火）
　　開会　　１６時００分
　　閉会　　１８時５７分

２　会　場　金沢市役所　第二本庁舎　２階　２２０１会議室

３　出席委員（７名）

教育委員長	野口　弘
教育委員	田邊俊治
〃	大島淳光
〃	木村陽子
〃	櫻吉啓介
〃	丸山章子
〃	長澤裕子

４　欠席委員（なし）

事務局	教育次長	堀場喜一郎
	担当次長（兼）学校指導課長	貞廣賢了
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	小川隆庸
	学校指導課主席指導主事	古川雄次
金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会		
	委員長	松原道男
教科用図書調査委員		

５　案　件
非　　議案第３１号　令和７年度使用中学校教科用図書の採択について　　（学校指導課）

６　議事の経過等　　以下のとおり
議案第３１号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、歴史、公民について採択を行った。

［案件の説明及び諸報告について］
案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

［主な質疑・応答の内容について］
○ 議案第３１号 令和７年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）
○種目「歴史」
［歴史：説明の概要（選定委員長）］
歴史は、９者の発行者について、調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見等を基に審議を行い、特に優れている点について答申書をまとめた。

東京書籍は、調査研究報告書Ａ－１の項目２については、教科書各章のまとめの活動において「ステップチャート」「Ｘチャート」などさまざまな思考ツールが用意され、歴史的な見方・考え方を働かせ、多様な表現の育成につなげられるよう工夫されている。その他、項目１、４、６、７、８、９について優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目７について、章末で図版・年表を活用して戦後日本の成長がどのようにして進んできたか、世界情勢を踏まえて多面的・多角的に理解できるよう工夫されている。その他、項目１、２、３、４に優れた内容が見られる。

教育出版は、調査研究報告書Ａ－１の項目４について、文化史を詳しく取り扱い、特設ページでその時代の人々がどのような信仰や物の見方をしてきたか、「古事記」「日本書紀」に示された神話を基に理解を深めることができるよう工夫されている。その他、項目１、３、７についても優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目５について、特設ページではヨーロッパや東アジアの様子を多面的に捉え、章末では時代の特色や、外国とのつながりをより深く意識してまとめることができるよう工夫されている。その他、項目１、２、３、８、９、１０に優れた内容が見られた。

帝国書院は、調査研究報告書Ａ－１の項目５について、未来の社会をつくる取り組みを紹介するコラムが随所に設けられるなど、これからの社会について考えを深めることができるよう工夫されている。ＳＤＧｓを示したマークが随所に見られ、その理解を深める工夫が見られる。その他、項目１、２、３、７、８、９に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目６について、年表や特設ページによって世界との関わりを確認しながら、日本が近代国家を建設し、戦争を経てどのように変化してきたかを多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。その他、項目１、４、８、９、１０で優れた内容が見られた。

山川出版社は、調査研究報告書Ａ－１の項目７について、難解な資料には注釈を付け、各世紀の世界の様子を地図とイラストで紹介するなど、世界と日本の歴史を関連付けて考えを深めることができるよう配慮されている。各世紀の世界の様子が世界の地図とともにイラストで紹介されることで高等学校の世界史にもつながることが工夫されている。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目２について、レポートの書き方やまとめ方、発表のポイントを示すとともに、具体例として地域の調査を取り扱い、金沢が調査の例として挙がっており、生徒の関心を高めることができる。その他、項目４、８に優れた内容が見られた。

日本文教出版は、調査研究報告書Ａ－１の項目３について、例えば宗教的な世界観を基にした世界地図や測量技術の発達の下に作られた世界地図を比較し、当時の人々の見方・考え方について触れることで歴史を学ぶ楽しさに触れ、学び合いを通して生徒が主体的に学習することができるよう工夫されている。その他、項目２、５、６に優れた内容が見られる。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目１について、小学校時代の学習を振り返り、年代や時代区分の表し方を確認するとともに、見方・考え方について詳しく示すなど、学習に必要なスキルが高まるよう配慮されている。その他、項目２、５、１０に優れた内容が見られる。

自由社は、調査研究報告書Ａ－１の項目４について、伝統や文化に関するコラムを随所に設け、例えば三内丸山遺跡の発掘を取り上げたり、神話などを通じて当時の人々の信仰や物の見方に触れたりすることで、古代日本の国の成り立ちや現代につながる多様な見方や考え方などについて詳しく学習できるよう工夫されている。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目３について、特設コラムで日本のおこりや日本の天皇と中国の皇帝について取り上げ、現代の文化を深く理解することができるよう工夫されている。

育鵬社は、調査研究報告書Ａ－１の項目８について、「鳥の目」で時代の流れを確認することができ、「虫の目」では江戸を中心とした商人の活躍について取り上げられており、さまざまな問いについて考えながらお互いに意見を交換し、多面的・多角的に時代を大観できるよう工夫されている。その他、項目１、４、９について特に優れた内容が見られた。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目３について、神話の史料は国の成り立ちについて知る大きな手掛かりとなり、当時の人々の物の見方や考え方を深く理解することできるよう工夫されている。その他、項目１、８、９、１０に優れた内容が見られた。

学び舎は、調査研究報告書Ａ－１の項目７について、例えば奈良時代の平城京の模型を資料として取り扱い、Ａ４判で資料、写真、地図等が大変見やすく、生徒が社会科の見方・考え方を働かせながら、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目４について、分かりやすい大判の写真や地図等を用いて、日本の武家政権と東アジアの国々が結び付いていることをより深く理解できるよう工夫されている。

令和書籍は、調査研究報告書Ａ－１の項目４について、「古事記」「日本書紀」に示されている日本の国の成り立ちや神話について特集し、伝統や文化を尊重する態度を主体的に養うことができ、当時の日本人の物の見方や考え方について詳しく知ることができるよう工夫されている。

次に、調査研究報告書Ａ－２の項目３について、「古事記」「日本書紀」に見られる神話について取り上げるとともに、日本の伝統や文化の起源について深く理解することができるよう工夫されている。

以上のような優れた点に関して、質疑応答を行った内容を説明する。まず、「主体的・対話的で深い学びができる教科書はどれか」という質問に対しては、例えば日清戦争開戦について、釣りをしている様子の風刺画からこの時代の世界情勢を議論することができ、そういうものが充実しているのは育鵬社、東京書籍、帝国書院などであるとのことだった。

「小学校とのつながりを配慮したものは」という質問があったが、どの教科書もつながりを意識した仕掛けになっているとのことだった。小学校では人物を中心に学習するので、例えば育鵬社では小学校で学習した人物のイラストなどを導入に持ってきているとのことだった。また東京書籍も、単元の初めにイラストなどを使って人物を中心に小学校で学習したことを思い出させ、小学校との関連であるところをマークで示しているとのことだった。

次に、「地理や公民の教科書と発行者が違ってもいいのか」という質問があった。どの発行者も学習指導要領を基に作られているため、日本の歴史においては地理などと違いがあっても特に問題はないとのことだった。

「背景として、世界の歴史を考慮されている発行者はどれか」という質問では、どの教科書も日本の歩みを基に世界の出来事の関連を示しており、大差はないということだった。

「教科書によって大東亜戦争や太平洋戦争など、各者の主張や表現の違いがあるが、その辺は先生に任せているのか」という質問があった。教える側としては、学習指導要領にのっとっているということで、歴史に関わる事象の意義、その時代の特色をいろいろな角度から考察したり、複数の立場を踏まえて正確な判断をしたりする力を大事にして授業をしているとのことだった。

次に、「軍事に関すること、憲法に関することの捉え方はセンシティブで難しいが、金沢市としての歴史教育の見解は」という質問があった。これについては、学習指導要領に基づいて子供たちに考えさせ、多面的・多角的な捉え方で物事を判断していくことに重点を置いて学習しているとのことだった。

次に、「神話は各者で分量が違うが、山川出版社のコラム程度の小さい分量でも良いのではないか」という質問があった。答えとしては、分量ではなく、それに触れて生徒たちがそういう見方・考え方を当時していたということを捉えるようにしているとのことだった。

また、「金沢に関係するような内容は」という質問については、山川出版社が「八田與一」を取り上げていて、歴史に対する興味・関心を高めるきっかけになるということだった。

「歴史を学ぶ意味や歴史から考えるということについて、教科書を比べるとどうであるか」という質問があった。各者、最初の単元の中でいろいろな資料ごとに、この時代はどういう時代なのかという問題意識を持って課題を設定しており、各者、冒頭や巻末のページに歴史を学ぶ意義について取り扱うページがあるとのことだった。

「明治期の日本の尊敬すべき人を取り上げている教科書は」という質問があった。東京書籍は文化財や国宝を地図で一覧で示しており、育鵬社も冒頭のページで各時代の文化遺産を示し、今日まで文化遺産が残っていることでイメージが湧くようになっているとのことだった。

「文字や図、背景色による見やすさはどうか」という質問があった。答えとしては、ここ何年間の教科書は非常に見やすく、さまざまな資料を載せて非常に充実している教科書が多く、太字のところは発行者も大体似通っているとのことだった。

「この教科書だったら資料集や用語集は特に要らないというものはあるか」という質問については、この教科書というのはないが、端末を活用して補足情報を手に入れることができるという話は出たとのことだった。それに対して、「特に教科書と端末さえあれば資料集や用語集は必要ないのか」という質問もあったが、そういうことも考えられるとのことだった。

その後、選定委員からの意見というか感想・要望的なものになるが、幾つか話が出たところを報告する。「東京書籍と日本文教出版と帝国書院の３者は、教科書右端に常に年表が載っていて、全体の中でどこを学んでいるのかが分かりやすい」という感想があった。「愛国心をあおったり、一方で非常に自虐的なところもあるが、これから地球規模で解決していかなければならない子供たちに、あまり自虐的になってほしくない。国際感覚の中で自国のことを正しく理解し、自国や地域に誇りを持てる歴史観を持つ歴史教育であってほしい」という感想・要望があった。また、「必要以上に自虐的である必要はないし、何の根拠もなく神の国のようになってしまうのも恐ろしいことなので、歴史から学ぶ教科書であってほしい」「学問としての歴史学の基礎がつくられるような知識と物の考え方が学べる教科書になってほしい」「皆さんが心配されるような教科書でない方がいい」といった感想・意見があった。

また、「子供たちが自国に対して誇りを持つような歴史観を身に付けてもらいたい」という希望があった。その他、「学校現場では子供たちの考える力を育てていくことに力を入れている。多面的な意見をそろえて子供たちがディスカッションし、正しいかどうかが分からないにしても結論を求めていく力を子供たちにつける教科書が良い」という希望があった。また、「どの教科書であろうが、地理で学んだこと、歴史で学んだこと、公民で学んだことから、子供たちが主権者としてどのようにして政治に参画していくかということを学んでほしい」、「中学校の社会の授業で歴史を教える際に、あくまでも学習指導要領にのっとって、それぞれの先生が中立の立場で子供たちに考えさせることが大事である」、「韓国の領土問題、歴史的な問題での主張があるが、その中で子供たちがどう捉え、どう考え、どう判断して、それを未来に生かしていくのかということが歴史を学ぶ意義となるので、大きく右や左に寄っていない教科書であれば、先生方にお任せしたらよいのではないか」という感想・希望があった。

最終的に９者のうち特に評価が高かったのは、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社だった。

［歴史：質疑応答］

野口委員長	私から２点あります。１点目は、９者のうち今回は令和書籍が新たに加わり、それ以外の８者は前と同じように出版されていると思うのですが、何か大きく変わった教科書はありましたか。比較していなければお答えは結構です。 ２点目に、現行は育鵬社の教科書を使っていますが、学校現場としてこの教科書について意見など聞いていることがあればお願いします。
歴史調査委員	１点目については、どの教科書も学習指導要領にのっとって作ってあるので、大きく変わったところはないのですが、２点目の育鵬社のこととも絡めると、育鵬社の１２５ページの下の方に「確認」「探究」という欄があります。これは前回の教科書にはなかったものです。これがあることで、子供たちはステップを踏みながら問題学習を進められるような工夫にな

っているのではないかと思っています。
また現場からの声としては、育鵬社についてそれほど大きな問題は挙がっていないのではないかと思っています。ただ、1点だけ挙げるとすれば、江戸時代の単元のつくりが、文化を学習した後、経済を学習するという仕立てになっている箇所があります。当時の人々の生活や文化を理解する上では、ものづくりや生活の様子を理解した上で文化を学ぶことが大きな流れになると思います。ただ、その点については、ある程度のキャリアがある先生であれば、その辺を工夫しながら、子供たちの知識・理解を踏まえながら学習単元を構成していると思っていますので、大きな問題とは思っていません。

野口委員長　文化から経済や政治につながっていくところは、この発行者の考え方に沿って編修されていると思います。前回も同じような編修であったと思っていますので、大きな変化ではありません。それについて学校の方では特段危機感はないということで捉えました。

櫻吉委員　資料集は実際に使用されるものなのですか。

歴史調査委員　多くの学校で資料集を副読本として採用し、授業で使っていることと思います。

櫻吉委員　そうすると、教科書にないような資料や写真が採用されていて、教科書だけでは完結しないと考えていいのですか。

歴史調査委員　教科書に載っていない資料やその資料に対する解説など、多面的・多角的な考え方をする上ではそうした情報を子供たちに示すことを目指して、資料集を参考にしている場面はあると思います。

櫻吉委員　索引を見ると、選ばれている用語が教科書によってかなり差があるように思います。学習指導要領にこの語を載せなさいという決まりがあって、選んでいるものなのですか。発行者に裁量権があるのですか。

歴史調査委員　学習指導要領には、この用語を入れなさいということは特に示されていません。ただ、キーワードとして幾つかの用語は学習指導要領で使われています。その用語についてはどの教科書も内容に含まれているのではないかと思います。

櫻吉委員　ということは、教科書の中には何度か検定で不合格になって、今回やっと通ったものもあると思うのですが、通っているということはそうした部分も全てクリアされているので、どれを選んでも問題はないと考えればよろしいですか。

歴史調査委員　そのとおりだと思います。

櫻吉委員　最後に教科書の使い方なのですが、どの教科書も「課題」があって、「確認」や「探究」があって、章の最後に「まとめと振り返り」があると思うのですが、これは全部そのような形で授業が進んでいくのですか。

歴史調査委員　はい。単元末のまとめのページについてのご質問かと思いますが、先生方はテストなどで知識・理解は測れると思いますし、最近では評価の観点から振り返りもたくさん書かせているのではないかと思います。なので、単元末のページにおいては主に、思考・判断・表現を評価する欄を中心に学習を進めることが多いのではないかと思っています。

櫻吉委員　教科書によっては、例えば「地域の歴史を調べよう」というような実習がある形と、例えば帝国書院は「アクティブ歴史」で、歴史の事項についてみんなで話し合うような形の２種類があると思うのですが、これは採用した教科書にのっとってそういう活動をするということですか。

歴史調査委員　地域について調べるページは一つの例として示されていると思います。地域の視点で見るということで金沢市が例として挙がっていると思います。単元によっては参考にするページですけれども、全てのページをこのとおりに学習するということはあまりないかと思っています。

大島委員　内容の前に、それぞれの教科書は１年から３年にわたって学んでいく形になると思うのですが、仮に現行から教科書が替わった場合、新しい２年生、３年生は現行を使っていくということでよろしいのでしょうか。

事務局　仮に今使っている発行者でないものが採択された場合は、新１年生は、今年度に採択された発行者の教科書が支給されることになります。新２年生、３年生は既に歴史の教科書が支給されていますので、それを使用することとなります。

木村委員　歴史といえば地図が載っていると思うのです。どの教科書にも地図が載っていますが、この中で地図と絡めて優れている発行者はありますか。

歴史調査委員　歴史の教科書では、毎時間ではないのですが単元ごとや大きなまとまりで、地図で勉強してきた場所を示す教科書が多いと思っています。例えば東京書籍では冒頭の２１ページに、それぞれの文化で勉強する遺跡を地図とともに紹介するページがあります。こういう形で大きなまとまりで特集しているページは幾つか見られます。

木村委員　歴史の内容ではないのですが、参考資料として地図が優れている発行者はありますか。

歴史調査委員　単元のまとめのページで、知識・理解を定着させるために地図を用いてその単元の学習をまとめている発行者はあります。例えば帝国書院では１０２ページの単元のまとめが、地図と関連付けて場所を確認できるような構成になっていますし、現行の育鵬社にも同じように９５ページにあります。どの発行者もまとめのページには必ず地図と関連付けて、学習してきた内容を場所も確認しながら定着を図ることができる構成になっていると思います。

木村委員　それから、教科書の横に時代が書いてあるものや下に書いてあるものもありますよね。すごく分かりやすいと思うのですが、ない教科書もあるので、それは子供たちに対して教えるにはいかがですか。

歴史調査委員　調査委員会でも、そうした意見が出ていました。例えば日本文教出版であれば１３５ページに年表が載っています。今どの時代を勉強しているのかというのがここでよく分かるのではないかということで、子供たちにとっては非常に助かると思っております。

丸山委員　歴史年表についても各者いろいろ工夫されていると思うのですが、歴史年表は授業の中でどのくらい使用されるのでしょうか。また、どこの発行者のものが使いやすいでしょうか。

歴史調査委員　どの発行者も必ず後ろの方に折り込みの年表が載っています。多くの発行者がページの上の方に「日本の歩み」、真ん中や下のあたりに「諸外国の動き」、特にアジアとの関連を示している内容が載っていたりします。どの発行者も見やすくて分かりやすいものになっているのではないかと思います。

丸山委員　どこも同じぐらいということですか。

歴史調査委員　そうですね。折り込みの年表はどの発行者も載せていると思っております。

丸山委員　特にこの発行者が使いやすいというのはないのですか。

歴史調査委員　例えば日本文教出版であれば、写真も併せて年表に使われているので、子供たちにとっては見やすいページになっていると思います。

丸山委員　ほとんどが横長の教科書になっていますが、これは授業中に開きやすいという理由があるのでしょうか。Ａ４サイズが見やすいという報告もあったと思うのですが、教科書の大きさ、形について教えてください。

歴史調査委員　多くの教科書がＡ４の横長です。中学校の教室は、机が新ＪＩＳ規格ということで大きくなっていますので、割と大きな教科書ですが、子供たちにとっては机の上で開きやすくなっていると思います。併せて先生方は端末も使って授業をされます。教科書と端末を置いても十分スペースのある環境になっていると思いますので、特に問題はないと思っております。

丸山委員　Ａ４がいいということではないということですかね。分かりました。

長澤委員　授業の進め方について教えてください。章の最後に各者、「まとめの活動」「学習のまとめ」「学習を振り返ろう」という形で、資料をある程度整理して子供たちに問いかけるようなものがありますが、授業ではまとめに１コマを使われるのでしょうか。先ほどのご質問にも回答いただいたと思うのですが、ちょっと分からなかったので改めてお聞きします。教科書に挙がっている「まとめ」について、先生方は考え方として、教科書に書いてあるものを比較的丁寧に追いかけるような形で授業を展開されているのでしょうか。

歴史調査委員　巻末のものにつきましては、その内容については調査研究報告書Ａ－１の項目２で各発行者の優れているところをまとめています。どれぐらいの時間を使っているかということに関しては、多くの先生は１時間の中でまとめを扱う場合が多いと思っています。単元に入る前に「単元を貫く課題」というものが設定されており、その課題を解決するのが巻末のページを活用した時間となります。ですから、章単元で「単元を貫く課題」を順番に学習してきて、最後にこのページの思考・判断・表現のところを中心に「単元を貫く課題」を解決する、そしてその時代の特色をまとめていく、そんな１時間になるのではないかと思っております。

田邊委員　歴史の教科書は、それこそ文章で作られている部分もあれば、図や表、写真が満載で作られていますので、出版者によって色合いが非常にさまざまだなと改めて思いました。一方で、先ほどの質問にもありましたが、副教材も使うとのことなので、場合によってはそれが教科書に載っていなくても、他の出版者で使っている素材が副教材で活用されていることも予想されるので、時間の中でかなり幅広く学ぶ機会が盛り込まれているのかな

と思いました。
歴史はそれこそ古代から近世、近代、現代までとかなり長いスパンで学習が進められていきますので、学習は順を追って展開されると思うのですが、限られた時間割で、近現代まで授業が展開できないということもよく指摘されます。恐らく授業展開される中でそういうことが起こらないような進め方をされていると思うのですが、それぞれの単元で大体の教科書がきめ細かく確認しよう、探究しようというつくりになっているし、併せて章全体でもまとめるつくりになっているので、まとめることにもかなり時間を割かれて学習が積み重ねられることが予想されます。
限られた時間の中で、１年間を通じてそういう展開ができるかどうかというのは先生の腕次第だと思いますし、それはそれでいろいろな展開があるのでしょうが、どの教科書もそうだと思うのですが、これからにどうつなげていくのかという、最後の終着点というのでしょうか、次につなげていくところにも各者各様の工夫が見られたと思います。歴史を学んでこれからの社会にどう役立てるのかというあたりは、どこまで実際に生かされているのかを教えていただければと思います。

歴史調査委員　どの教科書もいろいろなページで歴史を学ぶ意義はメッセージとして知らされております。例えば日本文教出版であれば２９４、２９５ページ、この単元では、歴史を全て学んだ後、「『歴史との対話』を未来に活かす」ということで、「災害の歴史に学ぶ」や「政治参加の歴史に学ぶ」といったページで、この後の公民の学習にもつなげるためにページを割いている工夫が見られました。
その他、帝国書院では、ＳＤＧｓのマークを表紙裏のページで示した後、いろいろなページでＳＤＧｓを意識したコラムや欄を設けて、自分たちの生活にもつながるのだという意識を持たせる工夫が見られました。

田邊委員　生徒が見通しを持って主体的に学んでいくことは、それこそ歴史にあっては欠かせないことだと思うのですが、主体的に学びを進める上で工夫されている点を教えてください。

歴史調査委員　子供たちが主体的に学ぶ、興味・関心を高めながら学習を進めるという点で言えば、調査研究報告書Ａ－１の項目３に各者の報告が出ているのですが、興味・関心を高める点については導入の部分が大きいと思います。例えば教育出版は１０６、１０７ページに、こういった視点で全体を捉えていたり、帝国書院では「タイムトラベル」というイラストを活用して興味・関心を高めています。
また先ほど言ったように、導入部分で資料を基に、「単元を貫く課題を設定する」というところまで結び付けている構成は多くの教科書で見られるのですが、教育出版や帝国書院、日本文教出版は、そこで予想をさせているという点が他の教科書には見られない工夫だと思います。日本文教出版は、導入でいろいろな資料を持ってきているのですが、１０７ページにあるように「見通しを持たせる」「予想をしよう」ということをさせた上で、単元の学習につなげているという点については、興味・関心を高める一つの工夫として挙げられると思います。

櫻吉委員　繰り返しになって申し訳ないのですが、章末のまとめに関して各者ボリュームが結構違いますよね。大体１時間で授業をされるということでしたが、これを見ると知識中心のものと考えさせるものがあって、２ページで終わっているもの、３ページで終わっているもの、４ページで終わっているものがあります。ボリューム的に、これはなかなか１時間ではできないとか、１時間では余ってしまうというのがあったら教えてください。どれが優れているのでしょうか。

歴史調査委員　確かにボリュームが違っているのですが、例えば２ページ割いているから２時間使うということはあまりないのではないかと思います。２ページであっても基本は１時間でまとめをします。東京書籍であれば９５ページにあるまとめのところで、フローチャートなどいろいろなまとめ方の工夫が取り入れられています。ここで生徒に考えさせて、対話をさせて、まとめることができるので、ここに多くの時間を割いて活用する例が多いのではないかと思っています。

櫻吉委員　東京書籍が一番ボリュームが多いように思うのですが、確かめ、振り返って、その次のページの「深めよう」までを全体で１時間でできるボリュームですか。

歴史調査委員　いろいろなまとめ方があって、説明もしなければいけませんし、グループの活動を考える先生が多いので、この辺は１時間の中でできる範囲で活用している例が多いのではないかと思っています。

櫻吉委員　逆にあっさり終わっているものもあると思うのですが、それはそれでいいというか、東京書籍と比べてもあまり大差ないところですか。

歴史調査委員　例えば現行の育鵬社の教科書は結構あっさりしているのですが、思考・判断・表現を測るところで資料をしっかり活用させています。資料から読み取ったり、比較したりと、社会の授業は複数の資料を基にいろいろな見方をしていくことが一番のポイントですので、あっさりはしているのですが、資料を使って子供同士がしっかり対話的な活動ができる構成になっているのではないかと思いますし、学びが深まるような構成になっているのではないかと思います。

［歴史：審議］

野口教育長　選定委員会からの評価が高かったのは、９者の中で東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社の５者ですが、これまで調査研究していただいて、この５者以外でこれからの審議に加えてほしい発行者がありましたら入れたいと思いますが、いかがでしょうか。この５者でよろしいでしょうか。

皆さんうなずいていらっしゃいますので、この後は選定委員長から示していただいた５者で審議を進めていきたいと思います。理科の教科書のようにどうしてもこれでないと嫌だという意見があってもいいと思いますので、ご意見を頂戴したいと思います。

田邊委員　９者もあって、比べ応えのある歴史の教科書なのですが、それぞれ出版者の特色を際立たせて作られていますので、読み応えのある記述という印象を持ちました。項目立ての工夫があったり、リード文の工夫があったり、本当に思いがこもった教科書をそれぞれ作られていると思います。

どの教科書も歴史を学ぶ上で必要な資料やデータ、図表等を活用されて作られていますので、どの教科書をとっても、学ぶ上での大きな原動力になると思うのですが、そうはいっても各教科書で何が学べるのかを考える上では、教科書全体を読み通してみるのが大切です。何が得られるのかということを時間を費やして見てみたのですが、幾つかの点で個人的には帝国書院が望ましいという印象を持ちました。

幾つかの点を申し上げます。一つ目に、「国史」や「日本の歴史」というタイトルの出版者もありましたが、歴史なので日本の視点で歴史を見通すのは当たり前かもしれませんが、世界のありようを見据えながら日本の歴史はどうだったのかという、世界と日本の交わりが重要な視点を得るきっ

かけになると思います。

世界とのつながりをどのように教科書それぞれが意識しているのかということで、世界とのつながりを見ていくと、帝国書院は「タイムトラベル」とか「～を眺めてみよう」ということで、イラストを使って時代ごとにかなり工夫されていて、そこから読み取れるものをキャッチしたり、世界の動向、世界のつながりを地図を示してつかむような創意工夫が時代ごとにあるのはとてもいい導入になると感じます。世界とのつながりを意識した教科書づくりという観点からすると、このあたりが非常に特色を持った教科書になっていると思いました。世界とのつながりを俯瞰して見る視点をどうやって見つけるのかということに工夫が見られます。

二つ目のポイントとしては、歴史ですのでいろいろな出来事があります。その意味をしっかりつかむことが歴史の学習でしょうけれども、単に事象の展開を述べるだけではなくて、なぜそうなったのかという記述がしっかり読み取れるような文章であってほしい。その点で古代からずっと読み比べてみて本当にいろいろチェックしてみたのですが、天平文化のダイナミズムというのが一つあって、天平文化についてまず違いがあると思いました。

天平文化の記述に関しては、帝国書院では図表を入れると４ページにわたってつづられています。大陸と交流があって、仏教とのつながりが出てきたり、そこから文字の普及が進んだりして、歴史書の記述もあります。エポックな時代だと思うのですが、特に文字の普及に関する記述が４９ページにあります。このことが他の教科書にはあまり詳しく記述されていないのです。歴史上のエポックに関わることが述べられているのはとても大事なことだと思います。

天平文化に限らず、武士のおこりや室町時代の展開など、その背景にある経済的な事情や政治的な時代状況などが述べられているのはとても大事なことだと実感しました。おおむねこういうことがあったという展開で文章が作られているのですが、なぜそうなのかということを記述していないと、生徒はなぜこうなのかということがつかめません。単に知識を蓄積するだけにとどまらないで、その背景をぜひ文章の中で記述してほしいと思って読んでいたのですが、比較してみるとそういう記述の工夫が見られた点が二つ目の特徴です。思考を広げたり深めたりすることは必要ですが、その折に単に事の起こりだけではなくて、それがなぜ起こったのか、どうしてこうなのか、ではどうすればいいのかということが本文を通して記述されているかどうかというのは、とても大きな違いだと思いました。

もう一つ例を申し上げると、例えば普通選挙権が広がったというのは大体どの教科書も触れているのですが、帝国書院は他の教科書と記述の仕方、構成の仕方が違うと思った点があります。帝国書院では２４０ページで普通選挙権が重要だということを記述した後に社会的背景を記述しています。他の教科書は、社会的背景としていろいろな社会運動や小作争議があり、最後に普通選挙権という文章構成なのです。一番大事なのは、普通選挙権がなぜ起こったのか、その背景にどんな出来事があったのかであり、そういう構成の仕方は大事なメッセージの発信の仕方になると思って読み取りました。だから、文章表記、本文の記述にいろいろな特色があるのですが、生徒がいろいろなことをつかみ取る上で、ここで見られたような記述は大事なことだと思いました。

もう一つ申し上げますと、帝国書院は近代に至るまでのページ数がかなり多いです。２０ページぐらい分量の差がありました。近代までの文章量も非常に多いのは、先ほど申し上げたように、事の起こりがなぜそうなのか、経済的な背景はどうなのかというところにかなり意を注いで作られているからだと思いました。

もう１点付け加えますと、歴史の見方は多様なので、いろいろな見え方がすると思うのですが、さまざまな見方を提示して対話を促したり、どの

説明が納得感があるのかという話し合いを生徒に促していく上で、資料はとても大事だと思います。多様なところに、さまざまな意見があるということが示されていました。沖縄を巡る問題や中江兆民の『三酔人経綸問答』を紹介しながら、物事はいろいろな見え方がするということや、日露戦争の記述についてもそうですし、戦後の日本統治下にあったことも取り上げていて、物事はいろいろ見え方がするし、何が正しいかというのは論争になるのですが、いろいろ見えるというところから自分の歴史観や考え方を引き出す上で大事な資料が各所に盛り込まれているので、幾つかの理由から帝国書院が望ましいのではないかと思いました。

野口教育長　帝国書院の教科書について詳しく調べていただきお話されました。ありがとうございます。

丸山委員　歴史は知識詰め込みの教科ではなく、歴史から物の見方や考え方を学んで、現代の諸問題にどう取り組んでいくかというところが大切になっていくと思います。そういう意味で、現代の諸問題への対応ができているのが日本文教出版と帝国書院だと思います。

中でも帝国書院の教科書については、私が最初に目が行ったのは「タイムトラベル」で、これはとても興味深い絵だと思いました。歴史が苦手な生徒でも、この絵をじっくり見て、こんな感じだったのだなとその時代をイメージできます。ただ「タイムトラベル」の絵だけで終わるのではなく、「学習を振り返ろう」のところでも「タイムトラベル」を活用して、学習した後にもう一度振り返ることができます。さらには、振り返りの最後のところに「これからの社会を構想しよう」ということで、現在とのつながりを考えたり、ＳＤＧｓとのつながりを考えたりする箇所があって、歴史をどうやって現代の諸問題に活用するかという点もきちんと押さえてあります。

さらには金沢型学習スタイルに関しても、「他の人と話し合って、章の問いを考察しよう」というふうに、みんなで考えるところが何カ所かにあって、その意味でも金沢型学習が展開できると思います。その点では私も帝国書院が一番優れていると思います。

長澤委員　歴史の見方・考え方を巻頭できちんと説明している発行者はどこかという視点で見ていました。東京書籍と日本文教出版と帝国書院は、きちんと巻頭に丁寧にその説明がなされています。この見方を全体を通じて持ち続けることが歴史の学びを深めることになると考えています。

加えて章や節のまとめは、先生方がどのように充実した授業ができるかという視点でもとても大事だろうと思っています。そこでは単に知識の整理だけでなく、歴史の見方・考え方を使いながら、学んできたものをどう整理し、それについてどう考えを深めていくかというところを先生方に１時間をかけて指導していただけたらと思います。

そういう視点で見たときに、一番いいと思ったのは、私も帝国書院になります。例えば１５８ページ、近世のまとめのところを見ると、「比較」「相互の関連」というふうに、歴史の捉え方や見方を具体的な質問という形で問いかけることにより、子供たちが具体的にこの視点で捉えることが可能になっています。

日本文教出版では、１０２ページから「まとめと振り返り」という章がありますが、ここでも確かに見方・考え方を引用しながら整理はされているのですが、例えば１０３ページ、比較ということは書いてあるのですが、単に比較すればいいのかということで、先生の指導がないともう少し踏み込んだ考えが難しい形になっています。

加えて、丸山委員がおっしゃられたように、帝国出版では「タイムトラベル」がまとめのところでも活用されています。これは子供たちにとって

とてもいいものだと思います。歴史が単に過去のものを学んで覚えるだけのものと捉えがちなところから、導入部分で当時の生活をトラベルという形で俯瞰して、それを学びにつなげることができているということでとても分かりやすいですし、なじみを持って学びに入っていけると思いました。

最後に東京書籍も、まとめに関してすごくページを割いて力を入れていることが分かるのですが、子供たちにとっては、帝国書院の方が学びやすいと感じています。同じ近世に関するまとめは、東京書籍では１４０ページ以下になっています。クラゲチャートのようなものを使いながら考えさせたり、「深めよう」というところも個人活動やグループ活動といった形でいろいろな切り口で工夫されているのは分かるのですが、子供たちには高度だという印象もあります。

これに対して帝国書院の１５８ページを見ると、シンプルなのです。節の問い、第１節ではこんなことが書いてあって、それについての質問がきちんと明確に書いてあって、それについて答えよう、考えようと思うならばどこを参照したらいいのかというのが明確になっています。その点では、まず学んだことを整理して、それを基にディスカッションしていくという学びの整理においては、子供たちにとっては帝国書院の方が分かりやすいですし、ここで必要以上に労力を割かずにディスカッションすることになれば、１時間内で良い学びができるのではないかと感じます。

結論としては、帝国書院が良い教科書だと感じております。

野口教育長　今まで３人の方が帝国書院がいいのではないかという話でした。

大島委員　私は絞ることができませんでした。最初は東京書籍か帝国書院か育鵬社かというふうに見させていただきました。金沢の子供たちにとって、自分で、みんなで考えて深めていくという点で言うと、育鵬社の「鳥の目」「虫の目」が非常に魅力的な内容になっています。それに比して帝国書院では「アクティブ歴史」、東京書籍では「みんなでチャレンジ」で、みんなで対話しながら、事実や事象を見ながら、他者の意見を受け入れながら考えていくという部分においては各者非常に魅力あるものを出してきていると思いました。

もう一つ思ったのは、帝国書院は「タイムトラベル」で子供たちの興味を大きく引いて、私も読み込んでしまうぐらい、アニメーションを使っていろいろな体感で見せたりしていて、取っつきやすさや興味をそそるという点では帝国書院がいいのではないかと思っています。

櫻吉委員　自分たちが使っていた教科書を思い出すと、ものすごく内容が変わったのではないかと思います。例えば吉野ケ里遺跡は新たに付け加えられたものでしょうし、用語の変更もあって、仁徳天皇陵と習ったのですが、大仙陵古墳となっています。それから、「四大文明」や「士農工商」という言葉がなくなっていました。日本最初のお金は「和同開珎」と習ったのですが、「富本銭」になっていました。新しいことが発見されれば記載される内容はどんどん変わっていくのが歴史だと思うと、部分部分を比較したり批判したりするのは結構難しくて、今は正しいと思っていても時間がたつと違う記載になったりするのではないかと思うのです。

正しい記載という面では、帝国書院は確かに分かりやすくて、正しい記載がされていると感じました。例えば鎖国の部分を見ると、帝国書院では１２８ページに「鎖国と四つの窓口」が書いてあって、「江戸時代後半に鎖国と呼ばれるようになりました。しかし、その言葉が示すように、国が完全に閉ざされたわけではなく、四つの窓口が開かれていました」と書いてあります。東京書籍では１１５ページの下の方に、「幕府による禁教、貿易統制、海外渡航の禁止、外交独占を政策とする体制を鎖国と呼びます」、育鵬社では１１７ページの下の方に、「朝鮮に限り、交易の場も厳しく制限し

ました。この体制は後に鎖国と呼ばれるようになりました」とあり、この三つの表現を比べると、帝国書院が一番正しい記載で分かりやすいと思いました。ただ、それは書いてある場所によって結構違って、ミクロを捉えて評価するのはかなり難しいと思いました。

先ほど資料集を使うという話があったのですが、歴史に興味のある子にとっては帝国書院の教科書がかなり面白いことが書いてあると思うのです。私もこの三つの中で言えば東京書籍の内容が一番あっさりしていると思ったのですが、本当に興味のある子はここからさらに資料集に発展して、自分の見たいところを見たり、興味の幅を広げていくのではないかと思います。

帝国書院はちょっとレベルが高いように思うのです。例えば帝国書院の１５６ページに「赤穂事件を考察する」というのがあります。今の子供たちには赤穂浪士は分からないと思うのです。文章の中にもほとんど出ていなかったので、いきなりこれが出てきても、このことについてみんなで考えようといってもちんぷんかんぷんではないかと思うのです。他の「三酔人経綸問答」や「母性保護論争」は非常に高度なことを要求されていて、帝国書院は読み物としてはすごく面白いのですが、一般生徒全体を見たときにはレベルがちょっと高いのではないかと感じました。

子供たちにとっては教科書に書いてあることは全部歴史だと思うのですが、自分にとっては自分が物心つく前の部分が歴史で、自分が実際に経験したことはどう書いてあるかと思って教科書を見比べてみました。そうすると近現代になると思うのですが、例えば帝国書院は２９８ページ、東京書籍は２６０ページ、育鵬社は２６６ページを開いて見比べてください。私にとって衝撃を受けたのは、ヨーロッパではベルリンの壁崩壊です。これは全部に書いてありました。アメリカ同時多発テロも書いてありました。写真を見れば分かるような記載でした。では、日本はどうかと見ると、自分の中ですごく衝撃的だったのは、拉致被害者のことや阪神・淡路大震災なのですが、阪神・淡路大震災については帝国書院には記載がありませんでした。拉致被害者に関してはほとんどの発行者が対応されていて、写真を見ればすぐ分かるようになっていました。

また、アジアでは天安門事件がものすごく衝撃的だったのですが、帝国書院には一切記載がありませんでした。東京書籍にはあるのですが、天安門の前に群衆が集まっているだけで、一体何が起こっているのか全く分からない写真が採用されています。育鵬社は２６８ページの下にあり、この写真を見れば一発で分かるというものが載っています。

あと、ロシアの崩壊もものすごく印象的だったのですが、これも採用されていたのは育鵬社と東京書籍だけで、帝国書院にはありませんでした。レーニン像が倒されたのはすごく印象的だったので、そういうものがないということは、子供たちがそうしたものを見る機会がないのだろうなと思います。資料集には載っているのかもしれませんが。

私が今言ったようなことが全部出ていたのは育鵬社だけでした。ですから、自分にとっての歴史という部分では育鵬社が非常に優れていると感じました。ただ、先ほど言ったように部分部分を取ってもなかなか評価できないので、どこで評価しようかと思ったときに、まとめの部分でどれが一番いいかという点では東京書籍が、確認して、知識を深めて、またさらに考えるという点で、ボリュームは多いのですが、ここはしっかりしていて良いと思います。文章の中身は比較的あっさりしていて、割と歴史に興味のない子にも取っつきやすいと感じたので、私は全体的に見て東京書籍が優れていると感じました。

木村委員

５者それぞれ優れている点はたくさんあるのですが、私は東京書籍か帝国書院か育鵬社だと思いました。まず、横に年表があるのは、子供たちにとって世界のことと日本を結び付けるのに大変参考になると思いました。

それから歴史の捉え方はいろいろあると思うのですが、金沢の子供たちにとってどれがいいかということを考えると、東京書籍は、歴史の流れと地図を結び付けてはっきり分かるようにしてあるし、文化財などの文化とも結び付けて学べる工夫が大変いいと思いました。「振り返り」「まとめ」でも、先ほど櫻吉委員がおっしゃったように、アジアや欧米などの年表でその時代を振り返ろうという点で、優れているのは東京書籍だと感じました。

帝国書院については、現代的な諸課題への対応という点では問題点が書かれていて、ＳＤＧｓに結び付ける感じで、これからの子供たちはそういうものと結び付けて歴史を学んでいくのかな、それも一つの方法なのかなというふうに感じました。

育鵬社は、私は非常に見やすくて分かりやすいと感じました。「鳥の目」「虫の目」で学びを深めている点では優れていると感じました。

ですが、東京書籍か帝国書院でまだ迷っています。

野口教育長

この５者の中で採用したくないと思っているのは東京書籍です。その理由についてお話すると、まずは南京事件の部分です。通説的な見解が存在しないという中で、東京書籍は２２０ページの注釈で、「日本軍は略奪・暴行を繰り返した上、多くの捕虜や一般の人々を殺害した」と書いてあります。さらには、「南京大虐殺」という言葉まで使っています。これまで歴史の教科書を採択するたびにこの問題は出てきましたが、自虐史観が色濃く出ているのではないかというのが一つです。

もう一つは、金沢市なのでちょっとこだわりを持ちたいのですが、八田與一技師のところです。教科書の１８６、１８７ページになります。いわゆる日清戦争の戦勝により、日本が台湾を領有し、植民地化したのはそのとおりだと思うのですが、「植民地化を進めました」という２８６ページの下から４行目に、「７」と数字を入れて、あえて横に引っ張って「八田與一技師」と記載して、「台湾の農業発展に貢献」とは書いてありますが、植民地化を進めていった人間の一人なのだという印象を与えているように感じさせています。八田與一技師を大事にしている金沢人としてはいかがなものかと思います。教科書としては非常にしつらえも良く、まとめもよくできていると思いますが、自分としてはこれは問題があるのではないかと思っています。

自分の中で教科書を比較して見て、選定委員会で評価が高かったとされる先ほどの５者のうち、いいと思ったのは帝国書院、日本文教出版、育鵬社でした。今回採択された教科書では、近現代史にたくさんのページが使われています。教科書の半分以上、近現代史を扱っています。自分が教員として教えていたときに、授業が太平洋戦争を終わる頃までやっとたどり着いて、歴史に使える時間は残り２～３時間しかなくて、あとは読んで終わりというふうにやってしまっていたのですが、子供たちには申し訳なく思っています。今はそのような時代ではありません。近現代史がいかに大事かということがページ数に表れています。令和書籍だけが古代に力を一番入れており、これは特異だなと思って見ていましたが、あとはみんな近現代に力を入れています。

なぜ日本文教出版が良いと思ったのかというと、子供たちは知らないことをたくさん知った上で歴史というものを見ていったらいいと思っているのですが、自分も知らなかったこととして、先ほどふれた南京事件が明らかになったのが、極東国際軍事裁判によってであることを、きちんと教科書に明記しています。その内容とともに、この教科書には極東国際軍事裁判のほか、いわゆるプレスコードの部分など、日本が占領下にあった時のことが詳細に書かれています。また、軍事裁判の中で軍人や政治家２５人に対して有罪判決が下されましたが、Ａ級戦犯という言葉は使っていません。こんなところも大事にされているのだなと思いました。

知らないことをたくさん知ってくれたらいいということでこの教科書は

いいと思いました。しかし、帝国書院に比べると全体としての記述が若干薄いと思ったので、どちらかというと帝国書院が上かなと思っています。現在の学習指導要領では多面的・多角的な見方を大事にして歴史を学ぶことを重視していますので、先ほど田邊委員からあった『三酔人経綸問答』のところとか、２１１ページの「日露戦争をめぐるさまざまな意見」とか、２７０ページの「それぞれの敗戦」でいろいろな終戦の見方を示しているところなど、こういった点では非常に良い教科書であり、今の学習指導要領に沿った内容になっていると思います。

ノーマルに考えたら帝国書院なのでしょう。学習指導要領が前回改訂されて、その中で金沢市は育鵬社を選びました。調査委員長に、この教科書を選んだことで学校現場で何か混乱が生じていますかと聞いたのはそのことなのですが、あえて今、この教科書を替える必要があるのか、もし替えるとすれば、学習指導要領が改訂される段階、つまり次の教科書改訂の段階で、新しい学習指導要領の方向性が示されますので、その段階でもいいのかなという感じは受けています。

育鵬社の教科書の中にも多面的・多角的な見方・考え方を育てる記載がないわけではありません。また、終戦のことや八田與一技師のこともしっかり書かれていますし、それなりの教科書になっていると思います。戦争に至った「ハル・ノート」の記載や東京裁判の部分も非常に丁寧に扱われています。

様々に市民のご意見があり、それをしっかりと受け止めなければいけないと思っていますが、一方で歴史ですから違う考え方もあります。そこを勉強することによって違った意味での多面的・多角的な見方・考え方で歴史を学べるのかなと思っています。今回は、私は育鵬社でいきたいと思っています。

木村委員は、まだ決めていらっしゃらないということですが、今の時点でお考えが定まりましたら、教えていただければと思います。

木村委員　私は帝国書院か東京書籍か育鵬社がいいと思ったのですが、育鵬社に対する抗議のようなものが随分あって、それを見るとそれぞれ皆さん好きなことをおっしゃるので、別に取り上げる必要はないのかもしれませんが、東京書籍か帝国書院のどちらかでいいです。

野口教育長　ここで、決を取りたいと思います。７名おられますので、過半数は４名になります。４名の方が手を挙げられた発行者で決定するということでよろしいでしょうか。

評価の高かった５者のうち、皆さんの意見は３者に絞られておりますので、３者で挙手ということでよろしいでしょうか。

―挙手―

東京書籍１、帝国書院５、育鵬社１ということで、歴史については帝国書院に決定してよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、歴史については帝国書院を採用させていただきます。

○種目「公民」

［公民：説明の概要（選定委員長）］

公民については、６者の発行者について調査委員会の報告書および研究委員会の報告書、市民の意見を基に審議を行い、特に優れている点について答申書にまとめた。

まず東京書籍は、調査研究報告書Ａ－１の項目２について、生徒が思考力・判断力・表現力を働かせ、問題解決能力を高める工夫がされている。例えば「個人の尊重と日本国憲法」の導入で、既習である法律構成の見方・考え方を働かせて考えさせるようにしており、まとめでは導入時に考察したことについて日本国憲法にどのように定められているのか、根拠を持って説明できるようにしている。その他、項目１、５、９に優れた内容が見られる。

次に調査研究報告書Ａ－２の項目３について、将来の主権者として主体的に政治に参加する態度が養われるように工夫されている。例えば、誰を首長に選ぶのか、候補者の公約や複数の資料を基に自己決定する活動があり、主権者として政治に関わるための知識や態度を多様な活動を通じて身に付ける工夫がある。その他、項目２で優れた内容が見られる。

教育出版は、調査研究報告書Ａ－１の項目３について、生徒が主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。例えば、「日本国憲法の最も大切な考え方とは何だろう」と題して、小学校で既習を活用する活動を取り入れている。また、生徒の生活体験から出発し、問題意識を持ち、単元を貫く課題を捉え、共有している。その他、項目９で優れた内容が見られる。

次に調査研究報告書Ａ－２の項目３について、公民的資質の基礎を確実に身に付けられるよう工夫が見られる。例えば裁判員裁判について、事件の内容を確認し、弁護人と検察官のどちらの主張が妥当なのか、証拠から認められる事実に基づいて自分で評価する活動がある。また、根拠や信ぴょう性に欠ける情報などについて考えることで、公民的資質の基礎を確実に身に付けられる。

帝国書院は、調査研究報告書Ａ－１の項目１について、思考ツールを活用して基礎的・基本的な内容が確実に身に付けられるよう工夫されている。章の問いをまとめる活動で思考ツールのＹチャートやクラゲチャートを活用することで、基礎・基本の内容の定着と対話的な深い学びの実現を狙っている。また単元末で発展的課題にも取り組める工夫がされている。その他、項目３、５、６、７で優れた内容が見られる。

次に調査研究報告書Ａ－２の項目２について、経済の基本的な考え方や企業の社会的役割と責任を深く理解できるよう工夫されている。例えば、選挙権を有し、成人として責任が生じる１８歳に向けて身に付けたいライフプランや金利などの実践的な知識や技能を、学習内容と併せて習得できるよう工夫されている。その他、項目１、７で優れた内容が見られる。

日本文教出版は、調査研究報告書Ａ－１の項目８について、学習における自己調整力を養うことができるよう工夫されている。例えば、「チョコレート王国」と題して児童労働について考えさせ、平和で持続可能な国際社会の実現のために日本はどのような役割を果たすべきだろうかという、章を貫く課題を設定している。このように見通しを持って学習に取り組める工夫が見られる。その他、項目２、６で優れた内容が見られる。

次に調査研究報告書Ａ－２の項目４について、ＳＤＧｓの達成のためにどのような取り組みが必要か、多角的な視点で考察できるように工夫されている。「ＳＤＧｓからミライの社会を考えよう」と題してＳＤＧｓの日本の取り組み状況を資料から考察し、私たちがどのように課題を解決していけばよいかを考えることができる教材になっている。その他にも項目６で優れた内容が見られる。

自由社は、調査研究報告書Ａ－１の項目２について、生徒が自分の考えを深め、主体的に表現できるよう工夫されている。例えば「グローバル化によって私たちの生活はどう変わったか、考えてみよう」と題し、大きなマトリックス表を活用することで自分の考えを主体的に表現できる工夫がなされている。また各班で話し合いながら、協働的に表を完成する工夫がある。

次に調査研究報告書Ａ－２の項目７について、尖閣諸島について詳しく理解できるよう工夫されている。尖閣諸島をめぐる問題等について、詳しく見開きのページで、またロシアとの北方領土問題や韓国との竹島問題についても詳細な説明がある。

育鵬社は、調査研究報告書Ａ－１の項目１について、基礎的な知識や技能が協働的に習得できるよう工夫されている。例えば、自分たちの住む地域をより良くするためにはどのようなまちづ

くりが必要かを考える学習がある。ＫＪ法の手法を用い、主体的・多様的で深い学びの実現を目指したり、公民の基礎的な技能を身に付けたりできるような工夫が見られる。また、本文での学習内容のより詳しい説明や関連情報の紹介がある。その他にも項目３で優れた内容が見られる。

次に調査研究報告書Ａ－２の項目３について、政治に関して多角的に思考ができるよう工夫されている。例えば、新聞社によって論調が異なる社説を題材にし、ディベートで学びを深める活動がある。また、「裁判員になって判決を考えよう」と題してシミュレーション学習が見られ、他者と積極的に交流しながら政治について多角的に思考できるような工夫が見られる。

その後、質疑応答があり、「現代的な諸課題について考えさせている発行者は」という質問があった。帝国書院では環境、エネルギー、防災など大きく六つのテーマを設定し、子供に主体的に学ばせるような部分がある。日本文教出版は、ＳＤＧｓから未来の社会を考えるなどＳＤＧｓに力を入れている。教育出版もＳＤＧｓを一つの柱としていることが教科書の最初に書いてある。育鵬社もＳＤＧｓについては力を入れているとのことだった。

次に、「子供たちが資料の読み取りの力をつける活動や資料のある発行者は」という質問があった。帝国書院では導入でインパクトと躍動感のある写真や資料を使っていて、子供の興味・関心を引くとともに、内容も新しいデータを基に分かりやすく、タイムリーな資料を使っている。東京書籍の資料もダイナミックで見やすい配置が考えられているとのことだった。

次に、「要望書などにおいて、日本国憲法の３原則の理念を尊重した教科書の採択を希望するという記載が見られたが、発行者によって記載の違いや優れている点はあるか」という質問があった。どの発行者も国民主権、基本的な人権の尊重、平和主義について小学校でも習っているが、より中学校を意識した表現でそれについてしっかり述べているとのことであった。

次に、「子供自身の権利を子供に教えてあげることが大事だが、子ども食堂やセーフティネットなどの扱いの違いはどうなっているか」という質問があった。教育出版や帝国書院では子ども食堂について取り上げていて詳しく解説しており、他者においても子供を大事にするということは意識した教科書になっているとのことだった。

また、「育鵬社では子ども食堂が子供の貧困の問題とセットにされているが、貧困と関係なく子供たちにぬくもりのあるということもあり、そういう書き方としての違いはどうなのか」という質問があった。これについては学習指導要領のとおり、多面的・多角的にということで、相手の立場に立って、自分事として考えられるような教育をしていくことが大切であるということだった。

次に、公民を学習する学年や時間について質問があった。３年生では社会科は１４０時間あり、４月から４０時間は歴史を学習、その後６月中旬ごろから公民を１００時間学習するということである。

次に、「歴史や地理の教科書との関連や小学校の流れについて調査委員会で検討したか」という質問に対しては、調査委員会では発行者の系統性は話し合っていないとのことだった。「歴史の教科書と違う発行者でもいいのか」という質問については、特に違和感はないとのことだった。

「協働的な学びで議論や対話で利用しやすい教科書はどれか」という質問については、どの発行者もグループ活動などには力を入れていて差はないとのことだった。

「各者で主張の部分に偏りがあり、自由社は『中国の会社は共産党のもの』と言い切った表現があったり、自由社や育鵬社は『領土問題はない』という主張で、少し過激な表現で書いてあるが、どのような議論がなされたのか」という質問に対しては、「国の検定を通った教科書なので、子供にとって学習指導要領を意識してしっかり理解できるかどうかという観点で調査を行ってきた」という回答があった。

「伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容について、各者どうであったか」という質問については、子供目線になって本当に学びやすいかどうかという観点で調査をしてきたとのことだった。

次に、選定委員会からの感想や意見としては、いろいろなものの見方ができる必要があること

や、事実としてデータをしっかり記載されているという点で、東京書籍と帝国書院の２者は非常にバランスが良くなっており、客観的に見て偏りがなく、事実に基づいたものが書いてあるという声があった。

それから、書き方として先生が困らないような記述や、偏見を助長しないような記述、子供自身が自分には人権があって、どういう家庭の下に生まれてきても大切にされている存在であるといった観点から教科書を見たときに、東京書籍、帝国書院は問題がないように思うという意見があった。

先生方や子供が独自に教科書を使って学んだときに、誤解のないような教科書であってほしいという希望もあった。

自由社は余白も多く、空欄のマトリックスを用意しただけで、二次元コードもないし、どういう考えでこのようになっているのか、他の者に比べて非常に異質に感じたという感想があった。

以上のような選定委員会での内容から、最終的に６者のうち特に評価が高かった発行者は、東京書籍、帝国書院、日本文教出版であった。

［公民：質疑応答］

櫻吉委員	授業の進め方についてお聞きします。各項目で大体、課題・確認・表現というページがあるのですが、他の教科に比べると、例えば「アクティビティ」や「アクティブ公民」など、グループ学習というか、シミュレーション学習的なものが非常に多く入っているように思いました。実際に授業ではそういう取り組みを行っているのでしょうか。
公民調査委員	現学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が一つの大きな売りであり、自分１人で学ぶことよりもいろいろな人と対話をしながら見方・考え方を獲得していくため、教科書を見ても分かるように、実際の授業も以前と比べてはるかに対話を中心に展開しています。
櫻吉委員	内容的にこの教科書はシミュレーション学習をしやすい課題を取り入れているというのはありますか。
公民調査委員	例えば東京書籍では、「みんなでチャレンジ」という形で項目を立てて、単元の途中や最後に対話的な活動をするページがあります。どの教科書にもこうしたページが多くあると思います。
櫻吉委員	内容的にレベルの差がかなりあるように私は感じたのですが、どの者も難易度的には同じようなものになっていますか。
公民調査委員	難易度に関しては、育鵬社が少し難しいと感じました。例えば１１３ページでは、アニメツーリズムというあまり聞き慣れない言葉が出てきたり、こだわっているなと感じました。話し合いの場においても難易度が高いと感じます。 他の発行者については、大事な資質・能力を意識して、こういう力をつけさせたいと明確に書いてあります。例えば帝国書院の２３ページには、「ロールプレイングをやってみよう」ということで、比較的みんなが参加できるようになっていて、２の「ロールプレイングで解決策を考えよう」の対話のところには、どちらの案がより実現できそうで、適切な解決策なのかを考えてみようということで、段階的に系統立てた内容になっています。子供にしても、教える教師にしても、非常に取り組みやすいと思いました。
櫻吉委員	章のまとめに振り返りや探究の部分があると思うのですが、これも各者ボリュームがかなり違っています。適切な分量というか、この者がいいと

いうのはありますか。

公民調査委員　東京書籍は、単元を貫く課題といいますか、最初に単元を通してどんな資質・能力をつけなければいけないかということに力を入れています。章の最後にも「探究課題を解決しよう」ということで、例えば「日本国憲法が保障する権利を守るために、私たちはどのように社会に関わるべきでしょうか」という形で、今まで獲得してきた知識や技能等を自分で表現するところがあります。

章末にはどの発行者も力を入れているのですが、帝国書院では探究学習への準備からＳＤＧｓを意識して表にまとめていく内容が見られます。また、２１５ページは現行の教科書から変わった箇所があります。「課題探究学習」という内容が以前は小さく取り上げていたのですが、これからは個人で探究学習をすることが非常に大事であり、それを踏まえて章立てています。中学３年生の２～３月といえば受験前ですが、帝国書院では公民的資質・能力の基礎を養うこと、自分の考えをしっかりと持つことが社会において大事だと考え、最後に章立てています。

櫻吉委員　確かに最後の探究課題は帝国書院だけにしか出ていなくて、ここまで授業ができるのかなという懸念はあったのですが、それは大丈夫だということですか。

公民調査委員　探究学習は本来時間をかけてゆっくりとやるべきなのですが、できる範囲で、具体的には３～４時間ぐらいかけて、子供自身が興味を持った地球的課題でもいいし、身近な課題でもいいので、問いを持って自分で調べて解決して、みんなで発表するというのはできると思います。

大島委員　公民的分野は地理、歴史とも関連があると思うのですが、地理、歴史との兼ね合いの中での使いやすさという視点では、どの者が優れているでしょうか。

公民調査委員　やはり社会科でも分野横断的な見方・考え方は非常に大事な割合を占めます。社会では最初に歴史、地理を学ぶわけですが、多くの発行者で、歴史的な見方・考え方を働かせるところがあります。

例えば帝国書院ですが、人権に関しては歴史が非常に重要になってくるので必ず書いてあります。３４ページのモンテスキューやルソーのことが書かれている一番下に、小学校や地理、歴史、他教科との関連について、書かれています。これは他の発行者にも見られるので、現場の先生方にとっては意識することができ、非常にいいと思います。

大島委員　ということは、その点についてはあまり差はないということですか。

公民調査委員　差はありません。

田邊委員　授業の中でアクティブな学びをかなりされるという話だったと思います。その中で、裁判員裁判や模擬裁判は結構ハードルが高いという印象を持つのですが、普通に行われているのでしょうか。

公民調査委員　裁判のロールプレイングは多く取り組んでいます。法務省から出ているビデオを見せて、具体的に流れを教えた上でロールプレイングをする場合があります。子供ですから正直、疑問に思うところはありますが、司法を身近に感じる点では非常に効果的だと思っています。

丸山委員　各者、考えを整理する方法として思考ツールを結構使っているのです

が、これは授業で実際かなり使われるのですか。

公民調査委員　思考ツールは授業で多く活用されています。身近なものではXチャート、Yチャート、クラゲチャートがあります。予め思考ツールや観点を示し、グループでテーマについて考えたり、考えを整理したりするためによく使っています。

木村委員　公民では政治、人権、選挙など大変難しい課題が多いと思うのですが、答えというのは一つなのですか。

公民調査委員　多様な価値観や考え方があるからこそ対話を通して、固定概念にとらわれず、こういう見方や考え方があると分かることが意味のあることだと思いますので、授業のまとめでも「自分はこう考えます。なぜなら…」というふうに根拠を大事にします。トゥールミンモデルといって、しっかりと結論、根拠、理由を鍛えていくことが公民の大事なところだと思います。

木村委員　なぜならという理由をちゃんと述べることができる子供たちが育っていくとすごいですよね。

公民調査委員　そうですね。ですから、教師は子供の対話を通じて「だから」を引き出すことが大切だと考えます。

木村委員　そうすると、これらの教科書の中でどの発行者が優れていると思われますか。

公民調査委員　最初に選定委員長がおっしゃった3者だと思います。

長澤委員　公民の授業を子供たちが興味を持って受けるために、先生方は授業の導入をどのようにされているのでしょうか。

公民調査委員　公民というとどうしても最初に現代社会があって、次に人権があって、次に日本国憲法があって、次は国の政治、地方自治、経済、租税、国際という流れがあります。国の政治になると非常に遠い存在というか、「僕らの1票なんて」という考えが投票率の低さの一因になっており、教える側は非常に危惧しています。

だからこそ、身近に自分事として考えさせることが大切です。最近の子供を見ていると、例えばどの発行者も、自由社を除いて二次元コードで動画を見ることができますし、そこで知的好奇心をくすぐるようなものがあります。当然、地域の人的・物的な資源・財産を使うということで、ゲストに来ていただいたりしながら、身近に社会を体験することが大事ではないかと思っています。

長澤委員　ゲストを招くというのも一つの工夫ですが、二次元コードを導入として使うことも多いという理解でよろしいですか。

公民調査委員　二次元コードは最近どの発行者も取り入れており、その中でも、二次元コードから単元のまとめのプリントが出てきたり、動画が出てきたり、本当によく考えられているなというものはあります。例えば、東京書籍は二次元コードが非常に秀逸で、動画も非常に充実していますし、クイズなども織り交ぜてあり、子供たちが家に帰っても楽しく学べることをコンセプトにしています。

長澤委員　導入でも使っているという理解でよろしいですか。

公民調査委員

どちらかといえば授業の導入場面というか、展開場面や終末場面に使う方が動画は多いと思います。

野口教育長

子供たちの授業を参観していて、公民の教科書で取り上げられている様々な活動で授業がとても盛り上がるだろうなという感じがしています。私も小学校の校長のときに、コンビニ弁当の企画をしたり、コンビニをどこに作ったらいいかというような活動に取り組みましたが、結構盛り上がったと思っています。

その意味では、６者のうちで帝国書院と東京書籍の活動内容がよく考えられていると思うのですが、違いはあるように感じます。帝国書院の方は、例えば第３部の「経済」を例にとれば、暮らしの中から経済を探す活動から始まって、「アクティブ公民」の中でそこに関わる活動を行い、最後に振り返りを行うという流れになっていると思うのです。

東京書籍は、導入の活動として例えば第４章の「暮らしと経済」は、「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」というところから始まって、いろいろな勉強が終わった後に、「コンビニエンスストアの新たなサービスを企画しよう」という流れになっていて、一貫性があるわけです。

これはどちらがいいのかな、子供にとってどちらの方が興味・関心を持って授業に参加するのかなということを思っていたのですが、いかがですか。主観で結構です。

公民調査委員

正直に言って東京書籍と帝国書院はどちらも甲乙つけ難いというのが自分の思いなのですが、私が面白いなと思ったのは、例えば東京書籍の３８ページで、「ちがいのちがい」というのを最初の導入で扱っているのです。「ちがいのちがい」について考えるところから学習が始まって、いろいろな知識等を獲得し、最後にまとめるときに、７２ページには「ちがいのちがいを追究しよう」と同じようなものを扱っています。授業でやはり大事だと思うのは、「最初に自分はこう考えたけれども、学習を通していろいろな考え方があって、いろいろな法律があって、もう一度考えたらこうなのか、なぜなら憲法の第何条にこう書いてあるからだ」という思考のプロセスであり、それが自己調整にもつながっていくと思うのです。

そう考えたときに私は、全てではないのですが、東京書籍のつくりが面白いと思いました。ただ、帝国書院も正直、探究課題を章立てたのは素晴らしいと思いました。高校の公共にもつながるのではないかと思います。

［公民：審議］

田邊委員

各者のつくりを見比べてみて、対話を促進したり、アクティブな学びを展開したりすることが非常にアクセントとしてありました。そういうことを通して現代社会の仕組みを捉えよう、学ぼうというのが公民の大きな使命だと思いました。となると、どういう素材を使って学びや議論を促進するのかが大きな鍵になると思うですが、帝国書院は最初に問題をつかむ上で、イラストを提示してそこから見えるものを議論したりすることを促すつくりは、導入として格好の素材だと思いました。どの章の最初にもそうしたことを提示して、学びとはというふうにイメージをつかむことが促されています。

そこでどんな素材を提供しているかというと、例えば帝国書院１６ページの「現代社会を捉える枠組み」では、防災施設をどこに設置したらいいのかという町の見取り図のようなものを示して議論を促しています。素材としても非常に格好なものだと思うのですが、他の東京書籍でも公園づくりの議論を進めていたり、日本文教出版も公園づくりを提示して議論を促進したりしています。各者各様にそういう素材を使って議論を促進する工

夫がされているのでいいと思うのですが、各事項でそれを促しているという点では、帝国書院が工夫されていると思いました。
帝国書院にはそうしたアクティブな学びが示されており、現代のいろいろな課題をつかみ取って、最後に「学習のまとめ」というところでもそれをどう決着するのかというのが書いてあります。各章で最初のつかみを提示して、いろいろなことを学んで、最後にそれをまとめるというつくりになっているのは、議論したことによる自分の変容も見ることができるでしょうし、グループとしての高みに達したということも確認できるでしょうから、そうした展開でどの章についても工夫されている点では、帝国書院は非常に工夫されていると思いました。
最後に、説明の中にも取り上げられていましたが、さらに探究していくにはどんな課題があるのかということを提示して、特別な部立てもされているので、さらに発展して、これを高校での学びにつなげていこう、つかみ取ったことをこれからの学びにもつなげていこうというつくりになっているのは秀逸だと思いましたので、帝国書院が望ましいという意見です。

櫻吉委員

公民はシミュレーション、グループ学習が非常に大切だということをお聞きしました。そうすると、帝国書院では「アクティブ公民」や「アクティブ公民ＡＬ」の部分になると思うのですが、例えば１１９ページの「『アリとキリギリス』から『選択』を考える」は、一見公民に関係なさそうなところから入っていますし、１２０ページの「あなたが無人島に漂着したら？」は、社会があまり得意ではない子も考えやすいと思います。他にも、例えば「一人暮らしにはお金がいくらかかる？」というのがあったり、「パン屋さんを起業してみよう」は、パン屋を始めるまでに６回にわたって「アクティブ公民」があるのです。
こうした身近でとっつきやすい、勉強ではないような部分から入ってグループ学習ができる点は帝国書院が優れていると思います。確かに東京書籍は最初に命題があって、学習を通して最後にもう一度振り返るというか、そういういいところはあるのですが、学習寄りというか、個人的な意見としてはとっつきにくいという印象があって、そういう子たちにも取り組みやすいのは帝国書院だと思うのです。
最後に探究がありますが、理科では１年生からレポートの書き方があって実際にレポートを書いていて、結構ハードルが高いと思うのです。１年生とか２年生というまだ成長し切っていないときに文章をたくさん理論立てて書くのはとても難しいことで、中学生の一番最後に、一番大人びているときにそういう課題を持ってレポートを仕上げることが実際にできるのであれば理想的だなと思うので、そういう点からも帝国書院がいいと思います。

丸山委員

公民の授業は、考えを深める探究型の学習なのだなと改めて感じています。その中で帝国書院は構成的に、考えを整理する方法が出ていて、思考ツールも最初にきちんと押さえた上で教科書の中で活用している点、それから「アクティブ公民ＡＬ」の中でロールプレイングやディスカッションの部分がたくさんあって、みんなで考えをさらに深める授業を展開しやすい構成になっていると思います。さらに最後の章が印象的で、第５部として課題探究学習もきちんと押さえています。この教科書であれば、考えを深めていく授業が一番できるのではないかと感じています。その点で私は帝国書院がいいと思っています。

木村委員

私も結論とすれば帝国書院がいいと思っています。東京書籍と比べたときに、東京書籍には導入の活動がありますが、帝国書院は「アクティブ公民」のような問い掛けが結構あることと、小学校の地理や歴史との関連がはっきり示されている点でいいと思いました。「アクティブ公民」は、問い

掛けをして多方面からの考え方を話し合う工夫が優れていると思ったのと、巻頭で公民分野の学習の全体像が大変はっきりと示され、これから学んでいく上でのとっかかりとして非常に分かりやすいのではないかと感じました。

それから、東京書籍には誰を市長に選ぶかとか、コンビニエンスストアの経営者になってみようというような課題がありますが、帝国書院は「パン屋さんを作ろう」という課題を段階を経て考えて、１８歳への準備につながっていく工夫がある点で優れていると感じました。

大島委員

私も皆さんと同感で、帝国書院が一番良いのではないかと思います。東京書籍も非常に優れておりますし、金沢型学習スタイルにあるようにみんなで考えて深めていくという部分においても、「みんなでチャレンジ」などは非常に取り扱いやすいと思うのですが、全体的なことを考えたのと、それから現行にはない最後の課題探究学習がまとめとして非常に優れているという点で、帝国書院が一番いいのではないかと思います。

長澤委員

結論としては帝国書院が優れていると考えています。ただ、ここで申し上げておきたいと思うのは、教育出版社の民主主義に関する記述は秀逸だったという点です。８７ページに「精神活動の自由をはじめとする基本的人権は多数決でも否定することができません」とあります。民主主義においてこの記述があるのは、この発行者だけでした。他の者については、民主主義の重要性と、民主主義ではあくまでも少数意見の尊重のために十分な議論が必要だという説明、また基本的人権の下に民主主義は成り立っているのだということがさらっと書いてはあるのですが、このように本文の中できちんと、精神活動の自由は多数決であっても制限されることはないと書いてあるところは素晴らしいと感じています。

帝国書院以外の発行者においても民主主義の在り方について、みんなで議論しようというものは用意されていますが、帝国書院は４２ページの「民主主義のあり方を考えよう」というところでまず、生徒にとって身近なテーマから、どういった権利が多数決であっても制限されることはないのか、守られなければならないのかということについて考えさせる素材から入り、人権について学んだ後で、政治としての民主主義を学んでいくという形で分かりやすく、考えもきちんと深まるようにできていると感じます。

東京書籍もよくできていると思うのですが、資料を見たときに、説明のための資料が多く上がっている印象です。質問でも聞きましたが、公民の授業で子供たちが興味を持って入っていくという導入部分がとても重要だと思っています。そういった視点で考えると、帝国書院のテキストの資料は説明のための資料ではなく、生徒たちの興味を引くようなものが最初に出てきているところが随所に見られます。例えば６ページでは、「メタバースの発展」という形で子供たちが大きく興味を持ってくれるようなところから入っているので、資料の見せ方が秀逸だと感じています。ということで、結論としては帝国書院が優れていると思います。

野口教育長

結論から言いますと、私も帝国書院がいいと考えています。長澤委員も触れられましたが、様々な細かい配慮が子供たちのためになされています。「アクティブ公民」があったり、「未来に向けて」「公民プラス」「技能をみがく」などのコラムが充実していて、子供たちが学習に飽きないだろうという印象を持っています。

東京書籍もいいところはたくさんあり、スタートとゴールは確かに一貫しているけれども、途中の活動が少ないように思います。子供たちが学びに確実についてくるためには、途中に様々なアクティブな活動があった方が自分の中に学びは入っていくだろうと思いますし、皆さんも触れられていましたが、これから探究的な学びについて金沢市も取り組んでいきます

ので、そういう意味では帝国書院は非常に充実した教科書だと思います。
中でもうれしかったのは１００ページに金沢のことが多く載っていることです。これを基にして自分たちの町のことを考えようというふうになっていくと思います。金沢という町で学ぶ子供たちが「金沢が載っている。勉強に頑張ろう」というようになると思っています。様々に配慮されている点で私も帝国書院がいいと思います。
全会一致ということになりましたので、公民については帝国書院でよろしいでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、公民につきましては帝国書院に決定します。
本日予定していました２種目の審議が終了しましたので、確認したいと思います。歴史は帝国書院、公民についても帝国書院でよろしかったでしょうか。

委員一同　異議なし。

野口教育長　それでは、以上で令和７年度使用の中学校教科用図書の審議が一切終わりましたが、いま一度採択された教科書について確認したいと思います。まず国語は光村図書、書写も光村図書、社会の地理分野、歴史分野、公民分野、そして地図の四つは全て帝国書院、数学は東京書籍、理科も東京書籍、音楽一般と音楽器楽は教育芸術社、美術は光村図書、保健体育は東京書籍、技術は東京書籍、家庭は開隆堂、英語は三省堂、道徳は日本文教出版に決定しました。間違いなかったでしょうか。
委員の皆さまにおかれましては５日間にわたり熱心なご審議、本当にありがとうございました。以上をもちまして、教科書採択にかかる教育委員会会議を終了します。

以　上